第六　水壓ノ概算
第七　工事方法
第八　起工竝竣工期限
第九　工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算
第十　水料ノ等級、價格、水料徵收ノ方法及經常收支ノ概算
市町村ニ非サル企業者ニ在リテハ前揭各號ノ外企業ノ組織、資本ノ總額及許可年限ヲ記載スヘシ

第四條　內務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布設ノ認可狀又ハ許可書ヲ與フヘシ
市町村ニ非サル企業者ノ出願ニ對シテハ內務大臣ハ必要ト認ムル事項ヲ許可書ニ附シテ命令スルコトヲ得

第五條　水道用地ハ國稅其他ノ公課ヲ免除ス

第六條　官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ

第七條　水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ檢査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ改良ヲ市町村ニ命スヘシ

第九條　市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ

第十條　水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ檢査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得

第十一條　家屋內ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接續スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス但市町村ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ設置シ其費用ヲ負擔スルコトヲ得

第十二條　市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ內ニ於テ家屋內ノ給水用具ヲ檢査スルコトヲ得但水道掛ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十三條　市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋內ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ修繕ヲ爲サシムヘシ家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徵收スルコトヲ得

第十四條　家主ハ家屋內給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届出シヘシ水道掛ハ速ニ之ヲ檢査スヘシ

第十五條　市町村ハ一家專用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノノ爲メニ共用給水器ヲ設クヘシ

第十六條　市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徵收スヘカラス

第十七條　市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ヲシテ許可年限ノ滿了シタル後ハ關係市町村ハ水道布設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ヲ買收スルコトヲ得但水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ニシテ布設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ水道布設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ關シ當該市町村ト企業者トノ間ニ爭アルトキハ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十八條　市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ關係市町村ニ於テ必要ト認ムルトキハ許可年限ノ滿了前ト雖之ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵ヤ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十九條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限內ニ履行シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施行シ其費用ヲ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但第八條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　市町村ニ非サル企業者ニシテ前條ノ費用ヲ指定ノ期限內ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十一條　内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ水道ノ布設ヲ市町村ニ命スルコトヲ得
第二十一條ノ二　内務大臣ノ職權ノ一部ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ之ヲ委任スルコトヲ得
第二十二條　本法中市又ハ市長トアルハ北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依ル區ニ在リテハ區又ハ區長トシ府縣費トアルハ北海道ニ在リテハ北海道地方費トス

附　則（明治四十四年法律第四十三號附則）

第八條乃至第十六條ニ於テ市町村及市町村長トアルハ市町村以外ノ企業ニ係ル場合ニハ其ノ企業者ニ之ヲ準用ス
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●水道條例第二十一條ノ二ノ規定ニ依ル職權委任ニ關スル件

（大正十年七月十九日　勅令第三百三十一號）

水道條例第三條及第四條ノ規定ニ依ル内務大臣ノ職權中左ニ掲クル事項ニ關スルモノハ地方長官ニ之ヲ委任ス

一　基本計畫ニ於ケル給水人口一萬ヲ超エサル水道ノ布設
二　前號ノ水道以外ノ水道ノ工費三萬圓ヲ超エサル改築又ハ增築但シ基本計畫ニ變更ナキモノニ限ル

附　則

本令ハ大正十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●水道條例第三條及第十一條但書ノ規定ニ依ル命令ニ關スル件

（大正十年七月十九日　内務省令第二十二號）

第一條　水道條例第三條ニ規定スル目論見書ニハ水質ノ試驗表ニハ左ノ事項ニ關スル試驗ノ結果ヲ記載スヘシ

一　色及清濁
二　臭味
三　沈澱
四　反應
五　亞硝酸
六　アムモニア
七　過マンガン酸カリウム消費量
八　クロール
九　硝酸
十　硬度
十一　蒸發殘渣
十二　細菌發落數

前項各號ニ掲クルモノノ外異常成分混在ノ疑アルトキハ特ニ其ノ試驗ノ結果ヲ記載スヘシ

第二條　水道條例第三條ニ規定スル目論見書ニハ工事方法ニ關スル左ノ圖面及書類ヲ添付スヘシ

一　實測平面圖　縮尺六千分一以上
二　實測縱斷面圖　縮尺長六千分一以上高二百分一以上但シ配水支管ニ限リ本圖ヲ省略スルコトヲ得
三　取水口、取水管又ハ取水渠、隧道、沈砂池、貯水池、堰堤、餘水路、排泥管又ハ排泥渠、送水管又ハ送水渠、沈澱池、濾水池、殺菌裝置、配水置、配水塔、喞水場、量水室、配水管又ハ配水渠、橋梁、伏越等水道設備ノ構造ニ關スル圖面其ノ他必要ナル細分圖　縮尺百分一以上
四　取水量決定ノ理由書

五　一位代價表
六　工費計算書
七　計畫說明書

第三條　實測平面圖ニハ郡市區町村ノ名稱及境界、道路、河川、視形線其ノ他地形ヲ表スニ必要ナルモノ、取水口、取水管又ハ取水渠、隧道、沈砂池、貯水池、堰堤、餘水路、排泥管又ハ排泥渠、送水管又ハ送水渠、沈澱池、濾水池、殺菌裝置、配水池、配水塔、喞水場、量水室、配水管又ハ配水渠、橋梁、伏越、排氣弁、消火栓、制水弁、配水區劃等ヲ記載スヘシ但シ管又ハ渠ニ付其ノ徑又ハ幅員ノ異ナルモノハ適宜ノ符號ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第四條　實測縱斷面圖ニハ地盤高、計畫線ノ高低、取水管送水管及配水本管ノ大サ勾配、動水勾配線、水平距離、水源貯水池沈澱濾水池喞水場配水池配水塔量水室等ノ標高竝其ノ水位、排氣弁排泥管又ハ排泥橋渠及伏越ノ位置等ヲ記載スヘシ

第五條　第二條第三號ニ規定スル水道設備ノ構造ニ關スル關面ニハ地盤線及斷面其ノ他構造ヲ表スニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第六條　取水量決定ノ理由書ニハ水源ノ狀態、渴水量既設水利事業又ハ灌漑ニ必要ナル分水量及消火用其ノ他給水量（各設備ノ設計ノ基礎）法定ノ理由ヲ記載スヘシ（トナルヘキ水量）

貯水池又ハ調整池ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ容量流域ノ面積及狀況、雨量觀測表等計畫ノ基礎トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第七條　計畫說明書ニハ施工箇所ノ地形及地質、給水區域、現住人口及將來增殖スヘキ豫定人員、基本計畫給水人口、豫定給水人口、給水量、清淨方法、配水方法、配水本管線豫定ノ理由、管渠ノ斷面及水壓ノ計算方法、各種構造物設計ノ根據其ノ他水道計畫ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第八條　地方長官ニ於テ大正十年七月勅令第三百三十一號各號ニ掲ケル事項ノ認可又ハ許可ヲ爲ス場合ニハ水道條例第三條第一項第二、第五及第六竝本令第二條第二號乃至第七號ニ規定スル事項ヲ省略セシムルコトヲ得

第九條　市町村ニ於テ左ノ各號ニ該當スル施設ヲ爲シ其ノ費用ヲ負擔セムトスル場合ニハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　本支水管ヨリ家屋內ノ給水用具ニ接續スル細管ニシテ公道ノ地下ニ屬スル部分ヲ設置セムトスルトキ

二　衛生上特ニ必要アリト認メ家屋內ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接續スル細管ヲ設置セムトスルトキ

前項ノ規定中市トアルハ〔北海道區制〕ニ依ル〔區〕ニ在リテハ〔區〕トス

第一項ノ規定ハ市町村ニ非サル企業者ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●飲料水改良ニ關スル規程

（明治四十五年六月二十六日）
（岐阜縣訓令甲第三十三號）

内務部　警察部　郡役所　市役所
警察署　警察分署　町村役場

第一條　市町村又ハ衛生組合衛生會等ニ於テ飲料水ノ改良ヲ施設セムトスル場合ニハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

道ノ設計其ノ他改良上必要事項施設ノ爲技術員ノ派遣ヲ申請スルコトヲ得

一　水質檢查ニ付テハ施行ノ地域、飲料水ノ種類員數、施行ノ時期

二　簡易水道ノ設計ニ付テハ企劃ノ地區、供給戶數、給水人口、出資ノ方法

三　前二號以外ノ施設ニ付テハ其ノ事實及計劃

第二條　水質檢查ノ施行ニ際シテハ左記各號ノ準備ヲ爲スヘシ

一　飲料水嚢帳　別紙樣式ニ依ル

二　檢查成績書　同　上

三 檢査施行ノ場所
四 事務員及人夫
五 以上ノ外隨時必要ニ應シ檢査員ノ指示スル事項

第三條 水質檢査ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ施行ス

一 檢査施行ノ期日ハ警察部ニ於テ之ヲ定メ郡市長及警察官署長ニ通知ス

二 郡市長檢査期日ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ當該町村長ニ通知シ前條ノ準備ヲ爲サシメ置クヘシ

三 檢査員ハ先ツ檢査施行地域内ニ於ケル飲料井泉ノ構造、周圍ノ地況等ヲ調査シ改良ヲ要スヘキ事項ヲ指示シ可成其ノ竣成後ニ於テ檢査ヲ爲スヘシ

四 檢査用水ハ別ニ定ムル方法ニ依リ採酌シ其ノ容器ニハ飲料水ノ種類及所在地等ヲ記シタル票紙ヲ附シ檢査前日マテニ檢査場ニ送付スルモノトス

五 檢査員檢査ヲ終了シタルトキハ佳良、良、不良ノ三種ニ區別シ別記樣式ノ檢査成績表ヲ交付ス

六 市町村ハ不良水ニ限井泉ノ見易キ箇所ニ赤色ノ文字ヲ以テ標識スヘシ

第四條 郡市町村長衞生組合長衞生會長等ハ水質檢査終了後ニ於テ檢査施行地域内ニ於ケル井泉ノ所有者使用者又ハ占用者ニ對シ檢査員ノ指示セル改善事項ヲ履行セシメ必要アルトキハ公共團體ニ於テ自ラ之ヲ施行スヘシ

第五條 簡易水道ノ設計ヲ申請スルモノハ技術員ノ指示ニ從ヒ必要ナル事務員人夫及設計材料ヲ供給スヘシ

第六條 本規程ニ據ル飲料水改良事業ニ關シテ警察官署長ハ必要ナル共助ヲ爲シ改良ノ實效ヲ擧ケシムヘシ

採酌方法

檢査ヲ受クヘキ水ヲ採酌スルニハ其ノ採酌ニ際シ混入シ得ヘキ各般ノ不潔物ヲ防止スルヲ以テ第一ノ要務トス即チ左ノ各號ヲ遵守スルヲ要ス

一 檢査用水ハ四合入一瓶タルコト

一 容器ハ成ヘク無色硝子瓶ヲ用ユルコト但シ之ヲ得ル能ハサル場合又ハ得ルニ困難ナルトキハビール瓶ヲ用ユルモ妨ナシ

一 瓶ハ先ツ溫湯ヲ以テ能ク洗滌シ採取ノ場所ニ於テ再ヒ檢査スヘキ水ヲ以テ三回以上洗滌スルコト

一 瓶ニ檢査水ヲ全滿シ檢査水ヲ以テ數回洗滌セル新シキ「キルク」ヲ以テ密栓スルコト

一 汲井ニアリテハ採酌前其ノ井水ヲ數回汲桶ニ充タシ後採酌スルコト

一 喞筒井戸ニアリテハ採酌前少クトモ十分間喞筒ヲ使用シテ汚物及停滯水ヲ除去シタル後採酌スルコト

一 泉水ヲ採酌スルニハ硝子若ハ金屬製(アリキノ類)漏斗ヲ三回以上洗滌シタルモノヲ以テ直ニ瓶内ニ流入セシムルコト

一 河水ヲ採酌スルニハ瓶ヲ逆倒シテ水中ニ致シ其ノ瓶口ヲ水面下七八寸ノ所ニ置キ其ノ位置ヲ轉スルコト(注意、塵埃ヲ含ム上層ノ水及泥土ヲ混入スル下層ノ水ヲ混入セルコト)

一 一地域内二箇所以上ノ飲料井泉アルトキハ甲乙丙丁ノ符號ヲ附スルコト

一 鑛井水ノ採酌ハ直ニ瓶中ニ流入セシムルコト

○別紙樣式

種類	外觀	臭味	反應	格營兒	硫酸	硝酸	亞硝酸	アンモニヤ	カメレオン脫色量	硬度	天候	所在地	所有者、使用者占有者住所氏名

住良不良	使用ノ目的	汚物トノ距離	井泉ノ構造	改善事項	結果

種類	外觀	臭味	反應	格營兒	硫酸	硝酸	亞硝酸	アンモニヤ	カメレオン脫色量	硬度	天候	所在地	所有者、使用者占有者住所氏名

住良不良	使用ノ目的	汚物トノ距離	井泉ノ構造	改善事項	結果

○別紙樣式

種類		明治 年 月 日 檢査 縣技手員	決判	備考
所在地	郡市村町 大字 番地			
占有者住所氏名	郡市村町 大字 番地			
採取日時	明治 年 月 日 天候			

右水質ヲ檢査スルニ成績左ノ如シ

使用目的	硝酸	亞硝酸	外觀	臭味	反應	硫酸	硬度	硝酸
自營								
共同								
業用								
家用								

成績査檢質水
書入示ヲ量ムラヂリミノ中ルテーリー

硫酸	クロール	反應	臭味	外觀	目的使用ノ	硝酸	硬度	ニアヤモ	脫色量	カメレオン

○票紙樣式

飲料井泉ノ種類	
同所在地	
所有者、使用者、占有者職業住所氏名	
使用ノ目的	
採酌年月日	
採酌日ノ天候	
汚物トノ距離	

●水道其ノ他飲用水改良費補助規則（大正十四年三月十八日岐阜縣令第五號）

第一條　市町村ニ於テ水道ノ布設又ハ其ノ他ノ飲用水改良施設ヲ爲ストキハ縣議算ノ範圍内ニ於テ本則ニ依リ工費額ノ三分ノ一以内ヲ縣費ヨリ補助ス但シ工事費ニ對シ寄附金又ハ補助金其ノ他事業ニ伴フ收入アリタル場合ハ之ヲ控除シタル金額ニ對シ補助ス

第二條　數人ノ共同經營ニ係ル水道ノ布設又ハ其ノ他ノ飲用水改良施設ニ對シテハ前條ヲ準用補助スルコトアルヘシ

第三條　水道ノ布設又ハ飲用水改良施設ヲ爲シ本則ニ依ル補助ヲ受ケムトスルトキハ其ノ年六月三十日迄ニ左記事項（水道布設ノ場合ハ水道條例第三條ノ目論見書）ヲ具シ市ニ在リテハ直接、町村ニ在リテハ郡長、共同經營者ニ在リテハ町村長、郡市長ヲ經テ當廳ニ申請シ豫メ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ但シ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　改良スヘキ施設ノ種別
二　同上工事明細書及設計書
三　飲用戸數及人口
四　工事ノ模樣竝ニ附近ノ狀況ヲ見ルニ足ルヘキ平面圖
五　水質檢査成績表
六　落成期限

第四條　前條ニ定ムル所ノ工事落成シタルトキハ當廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第五條　水道布設ニ對スル補助ハ水道條例第九條ノ監督ヲ受ケタル後三十日内ニ左記各號ヲ具シ別記第一號樣式ニ依リ市ニ在リテハ直接、町村ニ在リテハ郡長、共同經營者ニ在リテハ町村長及郡市長ヲ經テ知事ニ申請スヘシ

一　工事明細書（別記第二號樣式ニ依ル）
二　支出ニ伴フ收入金調書（別記第三號樣式ニ依ル）
三　正當受取人ノ領收證書、事實領收書ヲ得難キモノハ支拂證明書

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

大正十年一月岐阜縣令第一號飲用水改良費補助規則ヲ廢止ス

○第一號樣式（用紙美濃紙）

水道其ノ他飲用水改良費補助申請書

一金　　補助申請額

內譯

種別	認可年月日及指令番號	認可ヲ受ケタル豫算額	支出豫算總額	支出ニ伴フ收入金	寄附金又ハ補助金	補助申請額
		圓	圓	圓	圓	圓

右補助相成度關係書類相添へ此段申請候也

年　月　日

郡(市)町(村)長　氏　　名印

知事　宛

記載例

一　種別ハ水道井戸等ノ區別ヲ記載スヘキモノトス

二　共同施設ニ係ルモノハ經營者全部連署スヘキモノトス（以下同樣トス）

○第二號樣式ノ一（用紙美濃紙）

何郡(市)町(村)大字何々地內水道敷設工事費明細書

一金　　工事費總額

工事大要

平地面水道延長何十間長サ一間ニ付何寸何勺配巾何尺深サ何尺兩側石積內部目漆喰底粘土ニ石炭ヲ調合切交ヒ突堅メ摺上

低地長サ何十間石積高平均何程川石積(岩石積)上部ニ水道巾何尺深サ何尺兩側何々底何々洪水用覓木製長サ何間何箇所此延野何十間何材ヲ用ヒ巾何寸深サ何寸彫取石積ニ積込粘土漆喰ヲ爲ス

內譯明細

名稱	種目	長サ	斷面寸法	尺貫一個量目	數量	單價	代價	摘要
						圓	圓	
計								

右ノ通相違無之候也

年　月　日

郡(市)町(村)長　氏　　名印

知事　宛

○第二號樣式ノ二（用紙美濃紙）

何郡（市）町（村）大字何々共同井戸設置工事費明細書

一金　　工事費總額

工事大要

石積井戸　口徑何尺　深サ何尺　一箇所

但シ地中深サ何尺平水深サ何尺掘込何材製桶据付其上化粧槽（井桁）据付何々周圍何尺四方勾配ヲ附シコンクリート敲「石數」「煉石數」目漆喰ヲ爲ス鐵製ポンプ据付竹管仕込井戸臺何々

內譯明細

名稱	種目	長サ	斷面寸法	一個量目	數量	單價	代價	摘要
						圓	圓	
計								

右之通相違無之候也

年　月　日

知事宛

郡（市）町（村）長　氏　名　印

○第二號樣式ノ三（用紙美濃紙）

何郡（市）町（村）大字何々共同井戸設置工事費明細書

一金　　工事費總額

工事大要

鐵管打込井戸　一箇所

但シ鐵管長サ何尺內徑何寸先端ヲ鏃形ニ尖ラシ長サ何尺ノ間ニ徑何分ノ穴何箇所打明ケ地中何尺打込ミ上何尺ノ所ニ鐵製ポンプ及砂止蓄取付周圍何々

內譯明細

名稱	種目	長サ	斷面寸法	一個量目	數量	單價	代價	摘要
						圓	圓	
計								

右之通相違無之候也

年　月　日

知事宛

郡（市）町（村）長　氏　名　印

○第三號樣式（用紙美濃紙）

水道其他飲用水改良費收入金（補助金）（寄附金）調書

種別	金額	事由
收入金	圓	年月日不用品何々賣却代
補助金		年月日何々ヨリ補助
寄附金		年月日市町村何某ヨリ何々ノ目的ニテ寄附
計		

右之通相違無之候也

年　月　日

郡（市）長（村）長　氏　名　印

知事　宛

第十七章　屠場、食肉

●屠場法

（明治三十九年四月十一日法律第三十二號）

第一條　本法ニ於テ屠場ト稱スルハ食用ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ屠殺スル場屋ヲ謂フ

本法ニ於テ獸畜ト稱スルハ牛、羊、豚及馬ヲ謂フ

第二條　屠場ヲ設立セムトスル者ハ地方長官（東京府ニ於テハ警視總監）ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　屠場以外ニ於テハ食用ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ屠殺解體スルコトヲ得ス但シ自家用其ノ他特別ノ事情アル場合ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四條　屠場ニ於テハ屠畜檢查員ノ檢查ヲ經サル獸畜ヲ屠殺解體スルコトヲ得ス

屠肉、內臟其ノ他食用ニ供スル部分ハ屠畜檢查員ノ檢查ヲ經ルニ非サレハ屠場外ニ搬出シ又ハ製造ノ用ニ供シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第五條　屠場ニハ屠畜檢查ノ爲必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第六條　市町村ニ於テ屠場ヲ設立スルトキハ地方長官（東京府ニ於テハ警視總監）ハ必要ト認ムル地區內ニ於ケル私設屠場ノ廢止ヲ命スルコトヲ得

第七條　屠場ヲ設立スル市町村ハ廢場ヲ命セラレタル私設屠場主ニ對シ屠場ノ使用廢止ノ爲受クヘキ損失ヲ補償スヘシ

前項ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第八條　內務大臣ハ必要ト認ムルトキハ屠場ノ設置ヲ市町村ニ命スルコトヲ得

第九條　市町村ハ地方長官（東京府ニ於テハ警視總監）ノ認可ヲ得ルニ非サレハ屠場ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十條　市町村立屠場ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市町村ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第十一條　衛生上危害ヲ生シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ地方長官（東京府ニ於テハ警視總監）ハ屠場ノ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第十二條　地方長官（東京府ニ於テハ警視總監）ハ必要ト認ムルトキハ屠場設備ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十三條　第三條第四條ニ違背シタル者又ハ第十一條ノ停止ヲ犯シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　屠畜ニ關スル營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　屠畜ニ關スル營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十六條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人、其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附　則

第十七條　本法施行ノ際現ニ存スル屠場ハ本法施行後三箇年間ハ本法ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ許可期間三箇年以内ナルトキハ其ノ期間ニ依ル

前項ノ期間終了後ハ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ

第十八條　本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區、一級町村、二級町村及沖繩縣ノ區其ノ他市町村ニ準スヘキ地ニ適用ス

第十九條　本法ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●屠場法施行規則

（明治三十九年六月二十二日）
（内務省令第十六號）

改正　大正一〇年七月内務省令第一九號改正

第一條　屠場法第二條ニ依リ地方長官（東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ倣フ）ニ於テ屠場ノ設立ヲ私人ニ許可スルトキハ一定ノ期限ヲ附スルコトヲ要ス

第二條　地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ屠場主ノ名義ヲ變更スルコトヲ得ス

第三條　左ニ掲クル場合ニ於テハ屠場法第三條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一　獸肉販賣業者、旅店、飲食店又ハ料理店ニ非スシテ犢（一年未滿）、羊、豚ヲ自家用ニ供スル場合

二　不慮ノ災害ニ因リ負傷シ若ハ救フヘカラサル狀態ニ陷リ又ハ雜產、產褥癱瘓若ハ急性鼓腹症ニ因リ切迫屠殺ヲ必要トスル場合但シ此ノ場合ニ於テハ屠場以外ニ於テハ解體スルコトヲ得ス

三　遠洋航路若ハ近海航路ヲ航行スル日本船舶又ハ外國船舶ニ於テ船員、船客ノ食用ニ供スル爲獸畜ヲ屠殺解體スル場合

四　前各號ノ外土地ノ狀況ニ依リ地方長官ノ認許シタル場合

第四條　屠場使用料及屠殺料ハ其ノ額ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ增減スルトキ亦同シ

第五條　屠場主又ハ屠畜業者ハ定額以外ノ料金ヲ受ケ又ハ正當ノ事由ナクシテ屠場ノ使用若ハ屠殺ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　屠場ハ獸畜ノ屠殺解體ノ外他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　屠場ハ常ニ清潔ナラシムヘク屠室、繫留所、生體檢查所及業務上使用スル器具ハ屠殺終了後之ヲ洗滌シ血液、汚物及汚水ハ檢查員ノ指示ニ從ヒ之ヲ處置スヘシ

第七條ノ二　支那、西伯利亞ヨリ輸入スル牛羊ノ屠殺解體ヲ爲ス場合及支那、西伯利亞以外ノ地方ヨリ輸入若ハ移入スル牛羊ニシテ檢疫期間滿了前解放セラレタルモノノ屠殺解體ヲ爲ス場合ハ屠殺解體終了後直ニ屠室、繫留所、生體檢查所、

通路及業務上使用スル物件竝生皮、內臟、血液、胃腸內容物其ノ他檢査員ノ特ニ必要ト認ムル場所、物件ニ對シ檢査員ノ指示ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スヘシ

前項ノ屠殺解體ニ從事シタル者ハ其ノ終了後檢査員ノ指示ニ從ヒ手足及被服ニ對シ消毒方法ヲ施行シ且入浴スヘシ

第八條　屠場主又ハ屠畜業者ハ結核、癩、梅毒又ハ傳染性皮膚病ニ罹レル者ヲシテ獸畜ノ屠殺解體ニ從事シタル者ハ其ノ終了後檢査員ノ指示ニ從ヒ手足及被服ニ對シ消毒方法ヲ施行シ且入浴スヘシ

屠畜業者ニシテ前項ノ疾病ニ罹レルトキハ獸畜ノ屠殺解體ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　生體檢査ノ際檢査員ニ於テ獸畜カ疾病ニ罹リ食用ニ供スヘカラスト認メタルトキハ屠殺ヲ禁シ角又ハ前膊若ハ臀部ニ禁字ヲ烙印スヘシ其ノ傳染病ナル場合ハ直チニ隔離セシメ病毒ニ汚染シタル場所、物件ニ對シ消毒方法、清潔方法ヲ施行セシムヘシ

前項ノ烙印ハ檢査員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ消除スルコトヲ得ス

第十條　病畜ハ生體檢査ニ於テ食用ニ供スルモ衞生上危害ノ虞ナシト認メラレタルモノト雖モ病畜屠室以外ニ於テ屠殺スルコトヲ得ス但シ檢査員ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　屠殺解體ヲ終リタルトキハ檢査員ハ屠肉、內臟其ノ他食用ニ供スル部分ニ檢印ヲ爲スヘシ

第十二條　屠殺解體後檢査員ニ於テ獸畜カ傳染病ニ罹レルコトヲ發見シタルトキハ屠室其ノ他病毒ニ汚染シタル場所物件ニ對シ消毒方法、清潔方法ヲ施行セシムヘシ

第十三條　地方長官ハ食用ニ供スヘカラスト認メタル屠肉、內臟其ノ他ノ部分ニ關シ明治三十三年法律第十五號第一條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條　第九條第二項ニ違背シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十五條　第二條第四條第五條第六條第十條ニ違背シタル者及第七條第七條ノ二第九條第一項第十二條ノ命令ニ應セサル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第八條ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本則ハ明治三十九年法律第三十二號屠場法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●屠場ノ構造及設備標準

（明治三十九年六月二十七日　內務省令第十七號）

屠場ノ位置ハ獸畜ノ搬入屠肉ノ搬出及給水竝排水ニ便ニシテ左ノ各號ノ地域外タルコトヲ要ス

一　離宮、御用邸又ハ御陵墓ヨリ五町以內ノ地

二　社寺、學校、病院、公園又ハ水道水源ヨリ二町以內ノ地

三　前各號ノ外地方長官（東京府ニ於テハ警視總監）ニ於テ風敎上若ハ公衆及獸畜ノ衞生上不適當ト認メタル地

屠場ニハ繫留所、生體檢査所、屠室、檢査室、血液溜、汚水溜、汚物溜、消毒所及隔離所ヲ設ケ其ノ構造及設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　繫留所ハ地盤ヲ石、「コンクリート」又ハ煉瓦（止ムヲ得サルトキハ漆喰敲又ハ厚板）ニテ築造シ後方ニ汚水溝ヲ設ケ牛、馬ハ一頭每ニ犢、羊、豚ハ適宜ニ區劃ヲナシ各區ニ番號ヲ附記スルコト

二　生體檢査所ハ地盤ヲ石、「コンクリート」又ハ煉瓦（止ムヲ得サルトキハ漆喰敲又ハ厚板）ニテ築造シ體量及體尺ノ計測竝獸體保定ニ關スル設備ヲナスコト

三　屠室ハ屠室、（牛馬屠室、犢羊屠室、豚屠室、病畜屠室）內臟取扱室及外皮取扱室ニ區劃シ生體、屠肉、內臟等ノ搬出入口ヲ各別ニ設ケ地盤ハ石又ハ「コンクリート」又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ血液、汚水ヲ排除スヘキ溝ヲ設ケ勾配ヲ付シ內壁ニハ（石又ハ煉瓦造ノ場合ヲ除ク）金屬又ハ石板ヲ以テ四尺以上ヲ腰張ヲナシ推光換氣ノ爲窓

四　檢査室ニハ顯微鏡其ノ他檢査ニ必要ナル器具、藥品ヲ備フルコト

檢査室ニハ檢査員詰所ヲ附屬セシムルコト

五　血液溜、汚水溜、汚物溜ハ屠室ヨリ三間以上ノ距離ヲ有シ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ其ノ周壁ハ地盤ヨリ五寸以上ヲ高メ且ツ雨水ヲ防クヘキ裝置ヲナスコト

六　消毒所ハ場内適當ナル場所ニ之ヲ設ケ消毒上必要ナル裝置ヲナスコト

七　隔離所ハ適當ナル場所ニ之ヲ設ケ地盤ハ繫留所ニ準シ築造スルコト

屠場ノ周圍ニハ見透ササル樣墻塀ヲ設ケ之ニ閉鎖シ得ヘキ門戸ヲ附スヘシ

前各項ノ構造設備ハ土地ノ狀況ニ應シ之カ省略ヲ許可スルコトヲ得

專ラ羊、豚ノ屠殺ヲ目的トスル屠場ニ關シテ亦同シ

●屠畜檢査心得

（大正二年五月十四日内務省訓令第十三號）

沿革　大正一〇年七月内務省訓令第一〇號、一二年三月第五號改正

廳府縣東京府ヲ除ク

第一條　生體檢査ハ左記各號ニ據リ之ヲ行フヘシ

一　檢査ハ屠殺ノ當日之ヲ行フヘシ

二　牛馬ノ檢査ハ保定設備アル場所ニ於テ之ヲ行フヘシ

三　獸畜ハ清潔ニシ草鞋、不必要ナル繩索等ヲ去リ正シク繫留セシムヘシ

四　獸畜ノ體重ヲ場内設備ノ秤量器ニ依リ量定スヘシ

五　檢査員ハ先ツ望診ヲ行ヒ更ニ角根又ハ耳根ニ於テ驗溫シ而シテ眼瞼、鼻腔、口腔ヲ開檢シ獸畜ノ一方ノ側面ニ於テ頸部、軀幹、前肢ヲ觸診シ後方ニ廻リ生殖器、後肢ヲ檢シ而シテ他方ノ側面ニ於テモ同一方法ヲ行ヒ若シ異狀ヲ認ムル時ハ症狀ニ依リ精密ナル診斷法ヲ行フヘシ

六　前號ノ檢査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ニ依リ屠場法施行規則第九條第一項及第十條ニ照シテ處分スヘシ

七　屠殺ノ許可ヲ與ヘタルトキハ内臓ト屠肉トノ合符ヲ交附スヘシ

第二條　屠殺後ノ檢査ハ左記各號ニ據リ之ヲ行フヘシ

一　檢査員ハ檢査ノ際必ス二箇以上ノ肉刀ヲ携帶シ病毒又ハ病的變性物ニ接觸シタル肉刀ハ直チニ消毒スヘシ

二　檢査員ハ左ノ順序ニ依リ獸體ヲ檢スヘシ

血液

頭、舌、咽喉、頸及其ノ附近ノ諸腺

肺臟、肺臟根淋巴線、縱膈膜

心臟、心囊（必ス兩心室ヲ動脈ニ沿フテ切開スヘシ）

横膈膜

肝臟、肝門及其ノ附近ノ淋巴腺

胃、腸、腸間膜淋巴腺及網膜

脾臟

膵臟

腎臟、其ノ附近ノ淋巴腺及膀胱

睾丸、陰莖、卵巣、子宮、膣及外陰

屠肉

三　獸種ノ異ナルニ從ヒ特ニ左ノ方法ニ依リ檢査ヲ行フヘシ

（イ）牛ニアリテハ内外咬筋特ニ外咬筋ヲ下顎ト併行シテ切斷シ肝臟ハ輸胆管及スピーゲル葉ヲ横斷シ又腎臟ハ脂肪ヲ成ルヘク分離シ子宮ハ切開スヘシ

（ロ）犢ニアリテハ臍及關節ヲ檢スヘシ

(ホ) 馬ニアリテハ頭ヲ縦断シテ鼻中隔ヲ切除シ鼻中隔、鼻腔竝其ノ粘膜ヲ檢スヘシ
(ニ) 豚ニアリテハ腹筋、横隔膜、頸、心臟、舌、咽喉、頭部ヲ切斷シ且肉片ヲ採取シテ鏡檢スヘシ
(ホ) 羊ニアリテハ、肝臟、肺臟、心臟ヲ切斷シ又頭蓋ヲ開キテ檢スヘシ
四 檢査員ハ前二號ノ檢査ヲ行フニ當リ必要アルトキハ肉、臟器等ヲ截切シテ精檢スヘシ但必要ノ程度ヲ超ヘサル樣注意スヘシ
檢査ニ依リ異狀ヲ發見シ必要ヲ認メタルトキハ進ンテ機宜ノ檢査ヲ行フヘシ
五 獸體ノ局部食用ニ供スヘカラサルモノト
化膿性又ハ壞疽性皮膚炎アル部分
外傷ノ部分
結締織筋、腱、臟器ノ炎症アル部分
著シキ畸形ノ部分
炎性產物ニヨリ汚染シタル部分
膿瘍ノ部分
石灰變性ノ部分
放線菌腫、葡萄徹腫ノ部分
疾病ノ爲メ筋肉又ハ臟器ノ萎縮セル部分
寄生蟲及寄生蟲ヲ分離シ能ハサル部分
六 左記ノ諸症ニ罹レル獸體ハ其ノ全部食用ニ供スヘカラサルモノト
法定獸疫(但シ牛ノ傳染性流產及馬、羊ノ疥癬ヲ除ク)
膿毒症、敗血症
尿毒症
强直症
高度ノ黃疸
高度ノ水腫
膿瘍(筋、骨、淋巴腺ニ多數發生セルトキ)
旋毛蟲病
中毒諸症(人體ニ有害ノ虞アルモノ)
七 結核病ニ罹レルモノハ畜牛結核豫防法施行規則第三十一條ニ依リ處置スヘシ

第三條 屠場法施行規則第九條ニ規定ノ烙印ハ別記雛形第一號ニ據ルヘシ
第四條 屠場法施行規則第十一條ニ規定ノ檢印ハ別記雛形第二號ニ據ルヘシ但シ支那、西伯利亞ヨリ輸入スル牛ニ付テハ別記雛形第三號ニ據ルヘシ
前項ノ檢印ハ獸種ニ應シ少ナクモ左ノ各部ニ押捺スヘシ
牛、馬(屠肉) 頸側、肩、胸內外部
背、前、中(腎臟ノ部位)、後ノ內外部
前後肢內外後側、腹內外部
頭、舌、尾
(內臟) 心臟、肺臟、肝臟、胃
犢 頸、肩、胸、內外部、前後肢上下內外側
背內外部(腎臟ノ部位)、頭、舌
但シ犢ニシテ剝皮セサル場合ハ捺印スヘキ部分ニ於テ適宜ニ剝皮シ捺印スルコト

羊、山羊　頸、肩、背内外部(腎臓ノ部位)
腹　内外部、前後肢、内外部、頭
豚　頸、肩、背内外部、腹　内外部
前後肢上下内外側、頭

第五條　食用ニ供スヘカラストシテ廃棄ヲ命シタルモノハ之ヲ細断シテ一時間以上攝氏百度以上ノ熱ヲ加ヘ又ハ獣疫豫防法ニ定ムル消毒薬若クハ粗製強酸類ヲ以テ消毒ヲ行ハシムヘシ

食用ニ供スヘカラスト認メタルモノト雖モ角、蹄、皮、骨(牛ノ傳染性流産及馬、羊ノ疥癬以外ノ法定獣疫ニ罹リタルモノヲ除ク)ハ化製工業用ニ脂肪ハ攝氏百度以上ノ熱ヲ加ヘ融解シタル後工業用ニ使用セシムルコトヲ得

本條第一項ノ處置及第二項脂肪ノ融解ハ必ス屠場内ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第六條　檢査員ハ前條ノ處置ヲ終ル迄退場スヘカラス

第六條ノ二　屠場法施行規則第七條ノ二第九條第一項及第十二條ノ消毒方法ハ左ノ各號ニ據リ之ヲ施行セシムヘシ

一　屠室ニハ「クレゾール」水(「クレゾール」三分、常水四十七分)「石鹸液」又ハ防疫用石炭酸水(防疫用石炭酸三分、普通食鹽五分、常水九十二分)ヲ撒布浸潤セシメ一時間以上ヲ經過シタル後常水ヲ以テ十分ニ之ヲ洗滌スルコト

二　繋留所、生體檢査所、通路其ノ他ノ場所ニハ昇汞水(昇汞一分、普通食鹽一分、常水千分)、煆製石灰、石灰乳(煆製石灰一分、常水九分)、「クロール」石灰又ハ「クロール」石灰水(「クロール」石灰五分、常水九十五分)ノ多量ヲ撒布スルコト但シ昇汞水ヲ撒布シタル場合ハ一時間以上ヲ經過シタル後硫化「カリウム」水(硫化「カリウム」二分、常水九十八分)ヲ以テ其ノ部ヲ洗滌スルコト

三　業務上使用スル物件ハ攝氏百度以上ノ濕熱ニ一時間以上觸レシムルコト

前項ノ方法ニ據リ難キ場合ハ「クレゾール」水(「クレゾール」三分、常水四十七分)「石鹸液」又ハ昇汞水(昇汞一分、普通食鹽一分、常水千分)ヲ盛リタル水槽中ニ投入シ十分ニ浸潤セシメタル後温湯及石鹸ヲ以テ洗滌スルコト

四　生皮ハ「クレゾール」水(「クレゾール」三分、常水四十七分)「石鹸液」、防疫用石炭酸水(防疫用石炭酸三分、普通食鹽五分、常水九十二分)、昇汞水(昇汞一分、普通食鹽一分、常水千分)又ハ「フオルマリン」水(「フオルマリン」一分、常水三十四分)ヲ以テ濕シタル布片又ハ刷毛ニテ反覆擦拭シタル後成ルヘク懸垂シテ日光ニ曝露スルコト

五　内臓、血液、角、蹄、骨ハ散逸ヲ防キ一定ノ場所ニ收集シ内臓及骨ハ之ヲ適當ノ大サニ切断シ總テ攝氏百度以上ニ於テ一時間以上煮沸スルコト

六　胃腸内容物ハ一定ノ場所ニ收集シ煆製石灰、石灰乳(煆製石灰一分、常水九分)、「クロール」石灰又ハ「クロール」石灰水(「クレゾール」水(「クレゾール」三分、常水四十七分)「石鹸液」又ハ防疫用石炭酸水(防疫用石炭酸三分、普通食鹽五分、常水九十五分)ノ多量ヲ加ヘ十分攪拌スルコト

七　屠殺解體ニ從事シタル者ノ手足ハ昇汞水(昇汞一分、普通食鹽一分、常水千分)、「クレゾール」水(「クレゾール」三分、常水四十七分)「石鹸液」又ハ防疫用石炭酸水(防疫用石炭酸三分、普通食鹽五分、常水九十二分)ヲ用キ刷毛ニテ擦拭シ更ニ温湯及石鹸ヲ用キテ洗滌スルコト

第七條　檢査員ハ左記各號ニ注意シ嚴重ニ監督スヘシ

一　傳染ナル方法ニテ獣畜ヲ屠殺セサルヲ旨トシ其ノ頭骨堅キモノハ銃殺其ノ他適宜ノ方法ニ依ラシムルコト

二　汚物汚水ヲ場内ニ停滞セシメサルコト

三　屠肉、内臓等ノ運搬用器ハ常ニ清潔ニシ運搬ノ途中塵埃等ニ依ル汚染ヲ防キ且汚水ヲ漏洩セシメサルコト

四　屠肉ノ洗滌、屠場ノ清潔ニ要スル熱湯及冷水ノ供給ヲ充分ナラシムルコト

五　血液ハ成ルヘク受血器ニ採リ必ス毎日場外ニ搬出セシムヘシ若シ場内又ハ其ノ附近ニ於テ之ニ加工スル場合ニハ悪臭ヲ發セシメサル方法ヲ執ラシムルコト

第八條　檢査員ハ帳簿ヲ備ヘ屠殺ノ禁止又ハ食用ニ供スヘカラサルモノノ處分ニ關シ其ノ理由ヲ詳記シ又病的變性物ハ適宜之ヲ保存スヘシ

附 則

本令ハ大正二年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス

（別記雛形）

第一號烙印

（臀部用）

徑二寸四分

（角又ハ前蹄用）

徑八分

第二號檢印

横徑二寸
縱徑一寸二分

豬
羊

徑一寸二分

横一寸二分
縱一寸五分

第三號檢印

輸入牛檢查（府縣名）

横徑 一寸二分
縱徑 二 寸

（明治三十九年七月十八日岐阜縣令第三十號）

●屠場法施行細則

沿革 明治四五年七月縣令第四一號改正

第一條 私人ニ於テ屠場ヲ設立セントスルトキハ原籍、住所、氏名、生年月日及左記各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ願出ツヘシ

一 屠場ヲ設立スヘキ場所ノ地種目、番號、坪數及四隣ノ地況ヲ詳記シタル圖面

二 屠場内各建物其ノ他ノ坪數構造仕樣書竝圖面

三 屠場備付器具目錄

四 共同設立ニ係ルモノハ其ノ方法及管理者ノ住所、氏名、生年月日

五 許可年限

六 工費豫算書

七 工事落成期日

第二條 市町村ニ於テ屠場ヲ設立セントスルトキハ前條ニ準スルノ外市町村會ノ議決書及管理者ノ住所、氏名、生年月日ヲ記シタル願書ヲ添付スヘシ

屠場ヲ廢止セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ

第三條　屠場ヲ移轉又ハ改造、修繕若ハ其ノ一部ヲ變更セントスルトキハ第一號、第二號、第六號、第七號ノ事項ヲ改造、修繕、變更ノ場合ハ其ノ部分ニ關スル圖面竝構造仕樣書及第七號ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ

第四條　屠場ノ新設、移轉、改造、變更、修繕等ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出檢査ヲ受クヘシ檢査證ヲ受クルニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條　屠場主ノ名義ヲ變更セントスルトキハ雙方連署シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ願出ツヘシ但シ家督相續ニ係ルモノハ相續者ヨリ届出ツヘシ

第六條　屠場ヲ廢止シタルトキ又ハ管理者ノ住所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ屠場主又ハ管理者ノ死亡ニ係ルトキハ其ノ配偶者又ハ相續者タルヘキモノヨリ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ但シ市町村有屠場ノ管理者カ逃亡若ハ死亡シタルトキハ市町村長ヨリ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　屠場主又ハ管理者ハ所轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ消毒業竝消毒器具其ノ他檢査用器及同藥品ヲ設備スヘシ

第八條　屠場ハ常ニ門戸ヲ鎖シ屠殺時間中ハ其ノ關係者ノ外妄リニ人畜ヲ入場セシムヘカラス

第九條　屠場法第一條ノ獸類ヲ屠殺セントスルトキハ第一號樣式ニ依リ屠殺前マテニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ前項ノ届書ハ便宜巡査部長派出所、巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ差出スコトヲ得

第十條　屠畜營業者ニシテ屠場法施行規則第三條第二項ニ依リ切迫屠殺ヲ爲シタルトキハ第二號樣式ノ届書ニ警察官吏ノ認印ヲ受ケ屠場ニ運搬スヘシ

前項ニ依リ屠場ニ運搬シタルトキハ其ノ書類ヲ檢査員ニ差出シ其ノ指揮ニ從フヘシ

第十一條　大祭祝日ニハ屠殺解體スルヲ得ス尚ホ其ノ時間ハ左ノ制限ニ從フヘシ但シ事情已ムヲ得サル場合ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

自午前六時　至午後四時

第十二條　屠場主又ハ管理者ハ屠場解體ニ從事スル者ヲ定メ醫師ノ健康診斷書ヲ添ヘ其ノ住所、氏名、生年月日等ヲ所轄警察官署ニ届出屠手ノ許可證ヲ受クヘシ但シ異動ヲ生シタルトキハ警許可證ヲ返納シ更ニ許可證ヲ受クヘシ

屠場主又ハ管理者ニ於テ自ラ屠殺解體ニ從事セントスルトキ亦同シ

第十三條　左ノ事項ニ該當スル者ハ屠手許可證ヲ下付セス既ニ下付後之ニ該當スル者ハ其ノ許可證ヲ返納スヘシ

一　屠場法施行規則第八條ノ疾患ニ罹リタル者

二　年齢十七歳未滿六十歳以上ノ者

三　婦人及癲癇、白痴ノ者

四　獸毒ノ取扱法竝屠殺法ヲ熟知セサル者

五　竊盜、詐欺取財又ハ殺傷罪ニ處セラレタル者但シ爾後ノ行爲ニヨリ特ニ許可證ヲ下付スルコトアルヘシ

第十四條　屠手ハ就業中左ノ制限ニ從フヘシ

一　就業中ハ白色ニシテ清潔ナル屠服ヲ着用スヘシ

二　屠室內ニ於テハ一定ノ履物（長靴又ハ下駄）ヲ穿ツヘシ

三　就業中ハ許可證ヲ携帶スヘシ

四　屠室內ニ於テ痰唾ヲ吐ク等不潔ノ行爲アルヘカラス

五　屠場內ニ於テ放歌高聲ヲ爲スヘカラス

六　屠服、肉布巾其ノ他ノ用器ハ每日屠殺着手前檢査員ノ點檢ヲ受クヘシ

第十五條　屠殺スヘキ獸畜ノ皮膚ニ寄生蟲（虱、蝨類）等ノ發生シタルモノハ受檢前之ヲ驅除シ同時ニ體腔ノ汚物ヲ梳拭シ清潔ナラシメ且ツ苛酷ノ取扱ヲ爲スヘカラス

獣畜ハ繋留所ノ番號ニ依リ繋留シ檢査員ノ指揮ニ從ヒ初號ヨリ順次檢査ヲ受クヘシ

第十六條 屠場内ハ屠殺ノ都度清潔法ヲ行ヒ尚ホ一週間毎ニ大清潔法ヲ施行スヘシ

第十七條 屠場内ニ於テ傳染病患者ヲ發生シタルトキハ所轄警察官署又ハ檢査員ノ許可ヲ受クルニアラサレハ該場ニ使用シ又ハ屠肉ヲ場外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十八條 場内ニ於テ獣疫ニ罹リタル獣畜ヲ發見シタルトキハ該豫防法ニ從フヘキハ勿論尚ホ檢査員ノ指揮ヲ受ケ消毒法ヲ行フヘシ

第十九條 屠室内、檢査室、檢査員詰所、屠手其ノ他關係人控所ニハ各一個宛ノ痰壺ヲ備付クヘシ

第二十條 屠肉及食用ニ供スル内臟其ノ他皮骨等ノ運搬器ハ其ノ都度檢査員ノ檢査ヲ受クルニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十一條 屠場ノ使用料及手數料ハ場内看易キ場所ニ掲示スヘシ

第二十二條 屠場主又ハ管理者ハ第三號樣式ニヨリ屠獣明細簿ヲ製シ屠殺ノ都度記入シ檢査員ノ檢印ヲ受クヘシ

第二十三條 屠場法施行規則第三條第四號ノ認許及第四條第六條ノ認可ヲ受ケントスルトキハ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ願出ツヘシ

第二十四條 第四條、第六條、第八條乃至第二十一條ニ違反シタル者又ハ第七條及第十三條第二項ノ指揮命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第二十五條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二十六條 明治三十七年十一月岐阜縣令第三十九號ハ本令發布ノ日ヨリ廢止ス

○第一號樣式

屠 畜 届

番號	獣類	姓	年齢	毛色	屠殺日時	屠場名	賣渡人住所	同上氏名

備考 番號ハ屠獣明細簿ニヨリ逐次記入スヘシ

右御届候也

年 月 日

何警察署(分署)長殿

屠畜營業人(又ハ管理者) 何 某 印

○第二號樣式

切迫屠殺解體届

番號	獣類	姓	年齢	毛色	切迫屠殺ノ日時	切迫屠殺ノ場所	屠場名	賣渡人住所	同上氏名

右御届候也

年 月 日

何警察署(分署)長殿

屠畜營業人(又ハ管理者) 何 某 印

○第三號樣式

屠獸明細簿(牛、馬、羊、豚)

(何年自一月至十二月)

月日	番號	獸類	年齡	毛色	產地	生體數量	屠肉數量	檢査員認印	備考
					縣郡	貫匁	貫匁		

備考 番號ハ順次之ヲ記入スヘシ
獸類ハ牝牛、閹牛、牡牛、騸、牝馬、牡馬ト記スヘシ
產地ハ縣郡丈ケヲ記スヘシ
屠肉數量ハ貫匁ヲ以ス記スヘシ「但シ一頭毎ニ」
備考ニハ獸畜ノ肥胖ノ程度(上、中、下)及廢棄局部(肉質)ノ數量等ヲ記入スヘシ
羊、豚ハ別冊ニ調製スヘシ

●屠場法令取扱手續

沿革 明治四二年一月指示衞第二號改正

第一條 屠場法施行細則(以下單ニ細則ト云フ)第一條第二條第三條ニ依リ屠場ノ新設、移轉、改造、修繕、變更等ヲ願出タルトキハ三十九年六月內務省令第十七號ノ適否ヲ實査シ五日以內ニ意見ヲ付シ進達スヘシ

第二條 細則第四條ノ屆書ヲ受理シタルトキハ構造仕樣書ノ通リ落成セシヤ否實査ヲ遂ケ意見ヲ付シ進達スヘシ

第三條 細則第七條ノ消毒藥竝消毒器具其他檢査用器具藥品ハ左記ノ通設備セシムヘシ

消毒用藥品及器具

一石炭酸	五磅以上
一リゾール	五磅以上
一石油	一斗以上
一デシンフエクトール	五磅以上
一藥品溶解器 一斗以上入	二個以上
一如露	二個以上
一柄杓	二本以上

檢査用器具

一油浸裝置顯微鏡	一臺
附屬品	
一載物硝子板	二十枚
一凹窩載物硝子板	十枚
一覆蓋硝子板	二百枚
一白金線及白金耳	各三本
一コルネツト鑷氏子	三本
一普通鑷氏	二本
一水道管(容器、受器共)	一具
一酒精燈	一箇
一覆蓋大硝子皿	一箇
一鼠齒鑷子	二本
一油滴用瓶	三箇
一滑澤小鑷子	二本
一活栓付大硝子瓶	二箇
一大小漏斗	各一箇
一直外科刀	二本
一彎外科刀	二本
一鉤	二本
一色素容瓶	十箇
一試驗管	二十箇
一十瓦液量計	一箇
一二百瓦液量計	一箇

(明治三十九年七月十八日指示衞第一七號)

一一瓦秤量器	一箇	
一二十瓦秤量器	一箇	
一大小覆蓋硝子皿	各十箇	
一コップ	五箇	
一無蓋大硝子皿	二箇	
檢査用藥品		
一蒸餾水	十　磅	
一無水亞爾個保兒	五　磅	
一普通亞爾個保兒	五　磅	
一依的兒	二　磅	
一鹽酸	一　磅	
一硝酸	一　磅	
一硫酸	一　磅	
一醋酸	一　磅	

其ノ他机、椅子、石鹸、手巾及檢査上臨時必要ナル器具藥品等

第四條　屠場法第十一條ニ依リ屠場ノ廢止又ハ同第十二條ニ依リ設備ノ變更ヲ命スルノ必要アリト認ムル時ハ其事由ヲ具シ報告スヘシ

第五條　細則第十二條ニ依リ屠手許可證ノ下付ヲ願出タル時ハ身元調査ノ上第一號樣式ニ依リ下付スヘシ

第六條　前月中ニ於ケル屠畜數量、檢査成績竝ニ病類ヲ第二號、第三號、第四號ノ各樣式ニ依リ製表シ毎月五日迄ニ進達スヘシ

一沃度加里	二オンス號	
一昇汞	二　磅	
一虎利斯林	一　磅	
一チエデル油	一　弓	
一丁子油	一　弓	
一加奈太拔留散謨	一　弓	
一亞剌比亞護謨	二　弓	
一巴剌賞	二　弓	
一華撒林	一　磅	
一フクシン	一　弓	
一ゲンチヤナピオレツト	一　弓	
一メチーレンブラウ	一　弓	
一ピスマルクブラウン	一　弓	

第七條　屠殺ヲ禁シタル病獸アリタルトキハ第五號樣式ニ依リ其都度報告スヘシ

第一號樣式

二寸

木製表

何屠場
屠手許可證
氏名

一寸

裏

年月日下付
署名
烙印

第二號樣式

屠場名　屠畜月報（何年何月分）

畜別	區別	頭數	正肉量	備考
牛	牝及閹牛			
	牡牛			
馬	牝及騙馬			
	牡馬			
豚	牝及閹豚			
	牡豚			

何警察（分）署

（備考）閹牛、騙馬、閹豚ノ頭數ハ更ニ備考欄ニ拔記スヘシ

一署所轄內ニ一屠場以上ヲ有スルトキハ屠場別ニ報告スヘシ

羊犢ノ屠殺アリタルトキハ其欄ヲ加ヘ記入スヘシ

第三號様式

屠場名 屠畜検査成績月報（何年何月分） 何警察（分）署

畜別	總頭數	使用料ヲ徴シタルモノ	切迫屠殺	結核病畜	屠殺禁止	全体棄却	局部肉棄却量	内臓棄却個數 肺	心	肝	胃	腸	腎	脾	其他	計
牛			解禁	經疑												
馬																
豚																
計																
備考	顯微鏡検査ヲ行ヒタル畜別頭數事由其他參考ニ資スヘキ事項ハ本欄ニ記載スヘシ															

（備考）局部肉棄却量ハ十匁ヲ單位トシ内臓棄却ニシテ一臓器ノ小局部ナルトキハ記入ヲ要セス其大半以上ハ一個ニ算シ記入スヘシ

羊㹀ノ検査ヲ爲シタルトキハ其欄ヲ設ケ記入スヘシ

第四號様式

屠場名 屠畜病類月報（何年何月分） 何警察（分）署

病類	畜別	頭數	病名
備考			

（備考）病類ハ類屬即チ呼吸器病、消化器病等ト記シ畜別ハ牛、馬、羊豚㹀ト記シ病名ハ例之ハ加答兒性肺炎胃腸加答兒、肝蛭等トシ各病ニ付キ其ノ員數ヲ記スヘシ

第五號樣式

屠殺禁止報告

禁止月日	獸類	牝牡	年齡	毛色	病名	所有者住所	同上氏名

右報告候也

年 月 日

第四部長宛

警察署(分署)長 印

●屠場法施行規則第十一條ノ檢印押捺方ノ件

(明治三十九年七月十九日 通達衞第四〇五號)

屠場法施行規則第十一條規定ノ檢査印ハ畜種ニ應シ少ナクモ左ノ各部ニ押捺セシムヘシ

牛、馬(屠肉)頸側、肩、胞內外部
　背前、中(腎臟ノ部位)後ノ內外部
　前後肢內外後側腹內外部頭、舌、尾
　(內臟)、心臟、肺臟、肝臟、胃臟
犢頸、肩、胞內外部前後肢上下內外側
　肺內外部(腎臟ノ部位)頭、舌

但シ犢ニシテ剝皮セサル場合ハ捺印スヘキ部分ニ於テ適宜ニ剝皮シ捺印スルコト

羊、山羊、頸、肩、背內外部(腎臟ノ部位)
　腹內外部、前後肢內外部頭
豚、頸、肩、背內外部腹內外部前後肢上下內外部頭

●屠場法施行細則第一條第二條ニヨリ屠場設立ノ出願者取扱方ノ件

(明治三十九年七月二十七日 通達衞第四一九九號)

屠場法施行細則第一條第二條ニ據リ屠場設立ノ出願者アルトキハ第四項器具目錄中ヘ少ナクモ左記ノ器具記入セシムルハ勿論現在ノ屠場ヘモ設備セシムル樣取計ヘシ

繫留所用

一	飼槽	三個以上
一	金樞	二個以上
一	毛樞	二個以上
一	竹箒	二 本
一	採糞器	一 個

隔離所用

一	飼槽	二個以上
一	剉藁器	一個以上
一	金樞	一個以上
一	竹樞	一 本
一	採糞器	一 個

生體檢查所用

一	番號札	亞鉛板製ノ印圓形長一寸五分巾八分ニシテ數字ヲ刻シタルモノ 十 枚

內臟檢查所用

一	檢查臺	流造リノ亞鉛張リノ中凹製ニシテ其中央ニ排水孔ヲ開ク巾三尺長五尺高サ三尺モノ 一 個
一	疎通引盥	一 個
一	水入馬穴	一 個
一	柄杓	一 本

一黒板（白墨添）巾二尺長四尺ニシテ内臓検査成績量目等控用	一枚	
一桿秤（一貫目掛ノモノ）	一具	
一大馬穴　可良内臓入	一個	
一白「ペンキ」塗大馬穴　不良内臓入	一個	
一釉薬甕　検査臺ノ汚水受用	一個	
屠室内用		
一手桶	五個以上	
一大桶	四個以上	
一豚浴湯用大桶	一個	
一竹箒	五本以上	
一痰壺	三個	
一晒海綿　排血用	二個以上	
一肉布巾　（白地）	二枚以上	
一内臓運搬器	一個	
病畜屠室用		
一手桶	二個以上	
一大桶	二個以上	
一竹箒	二本	
一痰壺	一個	
一豫防衣　（白地）	屠手ト同数	
一晒海綿　排血用	二個以上	
一肉布巾　（白地）	二個以上	
一内臓運搬器	一個	
検査室用		
一卓子	一個	
一椅子	二個	
一薬器及器械入棚	一個以上	
一窓掛白布	二枚	
一痰壺	一個	
同土間用		
一流漕	一個	
一水入馬穴大小	各一個	
一琺瑯引盥	一個	
一柄杓	一個	
一石硷	一個以上	
一手巾	一枚以上	
同諸所用		
一卓子	一個	
一椅子	二脚	
一硯墨筆　黒肉朱肉	一式	

一火鉢	一個	
一痰壺	一個	
屠殺用器具		
一屠殺槌	一個以上	
一剝皮刀	屠手ト同数	
一鑓棒	同	
一割截鋸	一個以上	
其他必要ナル器具		

●屠場設立出願者取扱手續

（明治三十九年八月四日通達衛第四二五四號）

本年七月十八日本縣令第三十號ニ依リ屠場ノ設立ヲ願出ツル者アルトキハ本年六月二十七日内務省令第十七號屠場ノ構造設備標準ニ據ルノ外各建物ノ配置及設備ハ左ノ仕樣方法圖面等ニ基キ出願候樣取計フヘシ

普通屠室

一　屠室ハ地盤ヨリ軒先ノ高サ一丈四尺以上トシ屋棟ニ高サ二尺五寸巾一間以上ニシテ全長ニ亘ル無双窓附ノ二重屋根ヲ設ケ一般ニ瓦葺ニスルコト

但シ豚、犢屠室ニ在テハ軒先ノ高サ九尺以上二重屋根ノ巾四尺ニスルヲ得

屠室ハ懸吊式即チ上部ニ二條乃至三條ノ軌道附梁材ヲ設ケ肉室檢査所ニ延長シ吊下運搬ノ裝置ヲ附スルコト

但軌道附梁ノ高サハ地盤ヨリ一丈二尺以上トスルコト

各屠室及肉質檢査所、外皮取扱所室内通路等出入口（イ）ヲ除ク外地盤ヨリ高サ四尺以上石（磨石）煉瓦又ハ金屬ニテ堅固ニ築造シ其ノ上部高サ五尺以上ハ無双窓又ハ押上戸ヲ附シ其上部ハ板又ハ土壁トスルコト

豚屠室ノ西南隅ニ庇ヲ增築シテ釜屋ヲ設ケ屠室ヨリ連絡セシメ内外共ニ湯ノ汲取ヲ便ニシ釜ノ火口ハ西又ハ南側ニ設クルコト

屠室内ノ各區劃

「ロ」ハ高サ四尺以上ノ厚板ヲ以テシ其出入口「ハ」ハ同高サニシテ四尺或ハ五尺巾ノ開キ戸ヲ付シ其内部ハ總テ白

「ペンキ」ヲ塗付スルコト

排水溝ハ檻屠室ノ西側ノ中央ニ至リ室外ニ出テ二溝ニ分岐ス

「ハ」ハ血液

「ニ」ハ汚水ニシテ各溜壺ニ流入セシム而シテ其分岐點ノ樋口ニハ廻轉羽根蓋ヲ裝置シ汚水、血液等隨意ニ交換分流セシムルノ便ヲ計ルコト

出入口ノ

「イ」ハ單ニ金屬鎖條ヲ張ルノ裝置ヲ爲スコト

病畜屠室

一　病畜屠室ハ出入口

「ヘ」ヲ除ク外普通屠室ニ準シテ構造シ排水溝ハ後壁ニ沿ヒ西南隅ニテ血液、汚水ノ二項ニ分岐シ各其溜壺ニ流下スル樣ニ築造スルコト

汚物運搬通路

一　通路ハ「コンクリート」煉瓦石又ハ漆喰敲(厚サ一尺以上)ヲ爲シ稍ヤ中凹兩樑ヲ設ケ排水ノ便ヲ計ルコト

內臟檢查所

一　內臟檢查所ハ南北兩側トモ開放シテ廊下造リトシ病畜屠室ヨリ普通屠室ニ連絡セシメ巾二間以上ノ漆喰敲トシ通路等ニ利用スル樣構造スルコト

繫留所

一　繫留所ハ軒下ノ高サ七尺以上トシ後壁ハ地盤ヨリ高サ三尺ヲ板壁トシ其上部ニ三尺ニシテ全長ニ亘ル無双窓ヲ付シ其上ヲ壁トシ內部ハ六尺以下ヲ總テ白「ペンキ」塗リトスルコト

隔離所

一　隔離所ハ軒下ノ高サ八尺以上トシ其後壁ハ土臺上全部高サ一尺五寸ノ無双窓其上一尺五寸以上ヲ板壁トシ尙ホ其上ニ二尺五寸以上ノ無双窓ヲ付シ其上部ハ板又ハ土壁トシ內部ノ側壁ハ六尺以下ヲ板張トシ內部各壁總テ白「ペンキ」塗リトスルコト

汚物溜

一　汚物溜ハ後方ノ塀外ニ設ケ悉ク屋根ヲ設ケ倘各壺毎ニ密蓋ヲナシ各柱、板類等ハ總テ白「ペンキ」塗リトスルコト

內臟取扱所ハ厚サ一尺以上ノ「セメント」又ハ漆喰敲トナシ塀內ノ通路ト連絡セシメ出入口ニハ適宜ノ開キ戸ヲ設クルコト

消毒所

一　消毒所ハ其壺五尺方深サ五尺ノ「コンクリート」又ハ煉瓦ニテ築造シ尙ホ內臟消毒用トシテ直徑二尺深サ二尺五寸ノ釉藥ヲ施シタル甕ヲ備付スルコト

檢查室及諸所

一　檢查室及諸所等ハ軒下ノ高サ八尺以上トシ土間ハ「セメント」又ハ漆喰敲トスルコト

同室ノ出入口

「イ」ハ硝子戸トシ

「ロ」ハ開キ板戸トシ

「ハ」ハ土壁トシ其他地盤ヨリ高サ二尺五寸ヲ土壁ニ其上ヲ硝子戸トシ天井ヲ張ルコト

各建物ノ屋根ハ瓦葺トスルコト

但屠室檢查室ヲ除ク外他ノ建物ハ板葺ニ代用スルコトヲ得

井戸

一　井戸ハ各屠室掃除ニ便ナル箇所又ハ繫留獸畜ニ與フルノ便ヲ計リ適宜ノ場所ニ之ヲ設ケ唧筒ノ裝置ヲナスコト

（活栓付噴水裝置ヲ用フレハ屠室内掃除ノ際ハ護謨管又ハ「ゾツク」製ノ水導管ヲ噴水口ニ嵌入シテ其一先端ノ運動ニヨリ隨意ニ之ヲ運用シ殊ニ水勢劇シキヲ以テ洗滌ニ便利少ナカラス殆ト蒸氣喞筒ノ水導管ニ於ケルカ如シ）

皮骨置場

一　皮骨置場ヲ設クルトキハ東南隅ニ建築スヘシ

體量測定所

一　體量測定所ノ衡桿ハ左側ニ衡盤ト併行セシメ同側ニテ測定スル樣ニシ且ツ衡桿ト獸體トノ區劃ハ高サ五尺巾五尺ニシテ堅固ナル板壁ヲ付シ外部ヨリ獸畜ノ動靜ヲ窺知シ得ヘキ樣適宜ノ箇所ニ相當ノ隙孔ヲ設クルコト（圖面略ス）

●屠獸場其ノ他ノ工事ニ關スル件

（明治三十八年四月十八日指示衞第九號）

屠獸場、牛乳搾取所、清涼飲料水製造場、氷雪製造場其ノ他ノ工事ニ關シ各署ヨリノ報告ニヨリ技術員ヲ派遣シ實査ヲ遂クルニ往々工事落成ニ至ラサルモノアリ爲メニ再度吏員ヲ派遣スルノ不都合ヲ生シ候間今營業者ヨリ落成届ヲ受理スルニ當リテハ精密檢査ヲ遂ケ差支ノ點ナキヲ確メ報告セラルヘシ

●屠畜取締ノ費用負擔及檢査手數料ニ關スル件

（明治三十九年六月二十七日勅令第百七十二號）

沿革　大正二年六月勅令第二四六號改正

第一條　屠畜取締ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス但シ東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第二條　道廳府縣ハ檢查手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第三條　前條ニ依リ徵收シタル手數料ハ北海道地方費又ハ府縣ノ收入トス

附　則

本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●屠畜檢查手數料徵收規則

（明治三十九年九月二十七日岐阜縣令第三十九號）

沿革　明治四四年三月縣令第一五號、大正五年三月同第七號、一一年九月同第四二號、一五年三月同第一七號、昭和二年三月第三八號改正

第一條　屠場法ニ依リ屠場ニ於テ屠殺スヘキ獸畜ノ檢查ヲ受クル者ヨリ手數料ヲ徵收ス

第二條　檢查手數料ハ左ノ區分ニ據ル

一、牛　一頭　金貳圓五拾錢

一、馬　一頭　金貳圓

一、羊、豚、犢　各一頭　金壹圓

第三條　手數料ハ警察官署ニ於テ之ヲ徵收スヘシ

手數料ハ獸畜ノ檢查ヲ受クル前之ヲ納付スヘシ

附　則

第四條　本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●畜種其他通報ノ件

（明治三十九年九月二十九日）
指示衞第二二號

屠畜檢查手數料規則發令相成候ニ付テハ爾今每月五日迄ニ前月中檢查シタル畜種、頭數竝ニ屆人ノ住所氏名等洩レナク所屬郡市役所ニ通報スヘシ

●獸醫タル衞生技手受持區域

（大正十五年七月三十一日）
（岐阜縣訓令甲第百十三號）

大正元年十一月岐阜縣訓令甲第十二號屠畜檢查技手受持區域ヲ左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

獸醫タル衞生技手受持區域

在勤署名	受持區域		
岐阜警察署	岐阜市	稻葉郡	羽島郡　山縣郡　本巢郡
高田警察署	養老郡	不破郡	海津郡　揖斐郡　安八郡　大垣市
八幡警察署	郡上郡		
關警察署	武儀郡	加茂郡ノ內田原村　富岡村	
御嵩警察署	加茂郡ノ內田原村富岡村ヲ除ク他ノ町村　可兒郡ノ內豐岡町池田村小泉村ヲ除ク他ノ町村		
多治見警察署	土岐郡　可兒郡ノ內御岡村　池田村　小泉村		
大井警察署	惠那郡ノ內木曾川以南		
付知警察署	惠那郡ノ內木曾川以北　益田郡ノ內朝日村　高根村ヲ除ク他ノ町村		
高山警察署	大野郡　吉城郡　益田郡ノ內朝日村　高根村		

●屠畜檢查技手執務規程

（明治三十九年九月十九日）
（岐阜縣訓第三一九號）

沿革　明治四二年一月縣訓乙第一五號改正

第一條　屠畜檢查技手ハ警察署警察分署長ノ指揮監督ヲ受ケ屠獸及肉獸取締ノ事務ニ從事スヘシ

第二條　屠獸屆出アリタルトキハ屠場ニ出張生體、屠肉、內臟其ノ他食用ニ供スル部分ノ檢查ニ從事スヘシ

第三條　檢查技手前條ノ檢查ニ從事スルトキハ白衣ヲ著用スヘシ

第四條　檢查技手ハ手數料ノ納付證ヲ檢閱シ檢查セシ畜種及其ノ頭數ヲ該證ニ記入捺印スヘシ

第五條　屠殺セシ獸類ニシテ病理的變狀ヲ呈シ食用ニ供シ難キモノハ其ノ販賣ヲ禁スヘシ若シ疾患局部ニ止マルモノハ其ノ患部ヲ切除シ他ハ食用ニ供シ他ハ食用トシテ販賣セシムルモ妨ナシ

但シ販賣ヲ禁シ又ハ切除シタル肉類ニハ適當ノ藥液ヲ注カシムヘシ

前項ノ禁止ハ顯微鏡的檢查ヲ行ヒタル後決定スヘシ

第六條　屠場法施行規則第十一條規定ノ檢印ハ屠肉搖撼ノ止ムヲ待チ黑肉ヲ以テ少ナクモ左ノ各部ニ押捺スヘシ

牛、馬（屠肉）　頸側、肩、胸內外部

背前、中（腎臟ノ部位）、後ノ內外部

前後肢內外後側、腹內外部、頭、舌、尾

（內臟）、心臟、肺臟、肝臟、胃臟

豚　頸、肩、胸內外部前後肢上下內外側

背內外部（腎臟ノ部位）、頭、舌

但シ豚ニシテ剝皮セサル場合ハ捺印スヘキ部分ニ於テ適宜ニ剝皮シ捺印スルコト

羊、山羊　頸、肩、背內外部（腎臟ノ部位）

腹内外部、前後肢内外部、頭

豚　頸、肩、背内外部、腹内外部前後肢上下内外部、頭

第七條　檢査技手ハ屠殺ノ都度屠獸明細簿ヲ檢閲シ檢印スヘシ

第八條　檢査終了後ハ其都度第一號樣式ノ檢査簿ニ其成績ヲ記入シ所屬署長ノ檢印ヲ受クヘシ

屠畜病類ハ第二號樣式ノ病類簿ニ其詳細ヲ記錄スヘシ

第一號樣式

屠畜檢査簿

番號	月日	畜別	種類	切迫屠殺 結核病畜	屠殺禁止 全体棄却	局部肉棄却量	肉量	内臓棄却其他ノ事由

（備考）

一　番號ハ一月ヨリ逐次記入シ十二月ニ終ルヘシ

二、畜別ハ牝牛、牡牛、閹牛、牝馬、牡馬、牝豚、牡豚、閹豚等ト記シ種類ハ和、雜、洋、（豚ニアリテハ「バークシヤー」「ヨークシヤー」等）ト記スヘシ

三、切迫屠殺ハ其解體シタルモノハ「解」解體ヲ禁シタルモノハ「禁」ト記シ結核病畜ハ輕疑ト記シ屠殺禁止ハ「禁」全體棄却ハ「棄」ト記シ其事由ノ概要ヲ下欄ニ記載シ凡テ朱書スヘシ

四、局部肉棄却量ハ十匁ヲ單位トシ其量目ヲ記入シ肉質ハ「上中下」等ト記スヘシ

五、内臟棄却其他ノ事由欄ニハ例令ハ「ヂストマ」寄生ニヨリ肝臟棄却或ハ何々ニヨリ屠殺禁止等ト記スヘシ

六、每月末ニ於テ一ヶ月分ノ統計ヲ記載スヘシ

第二號樣式

屠畜病類簿

檢査番號	檢査月日	畜別	種類	年齡	毛色	産地	營養	特徵	症狀	診斷	處置	備考

●屠畜檢査表ニ關スル件

（大正十三年一月二十日衞第二四號通牒）

警察部長ヨリ警察署長宛

爾今屠畜檢査度數ヲ左記樣式ニ依リ毎月五日迄ニ前月分ヲ報告相成度此段及通牒候也

記

屠場名

屠畜檢査度數表　　大正　年　月報

警察（分）署

畜別＼目次	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	廿	廿一	計
牛																						
馬																						
羊																						
豚																						
犢																						
計																						

●食肉營業取締規則

（明治四十年六月二十日岐阜縣令第二十號）

沿革　明治四二年七月縣令第五二號、四五年七月同第三七號改正

第一條　本則ニ於テ食肉ト稱スルハ食用ニ供スル鳥類ノ肉及內臟ヲ謂フ

第二條　食肉ノ販賣營業ヲ爲サントスル者ハ營業場及食肉ノ種別ヲ明記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ
轉居、改氏名、廢業シタルトキハ五日以內ニ其ノ旨所轄警察官署ニ届出ヘシ

第三條　食肉ヲ行商セントスル者ハ第一號樣式ノ木札ニ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ行商中之ヲ携帶スヘシ
行商者廢業、死亡シタルトキハ木札烙印ノ削除（死亡ノ場合ハ戸籍法ニ依ル届出義務者ニ於テ）ヲ受ケ轉居、改氏名又ハ木札ヲ亡失、毀損シタルトキハ更ニ木札ニ烙印ヲ受クヘシ

第四條　食肉販賣營業者ハ馬肉ト他ノ鳥獸肉ヲ併賣スルヲ得但シ土地ノ狀況ニ依リ店舖ニ區劃ヲ設ケ特ニ併賣ヲ許スコトアルヘシ

第五條　左ノ各號ニ該當スルモノハ食肉ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ス
一　肺結核、癩病、徵毒其ノ他傳染性疾患ニ罹レル者
二　斃獸解體ノ業ニ從事スル者
警察官署ニ於テ必要ト認ムル場合ハ醫證ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第六條　牛馬羊豚ノ肉ニ檢印ナキ部分ヨリ狩獵捕獲ニ係ル野獸肉ハ一肢又ハ一蹄以上ヲ存置シ順次切斷販賣スヘシ
細切シタル牛馬羊豚ノ肉ハ行商スルヲ得ス

第七條　食肉販賣所ハ空氣ノ流通ヲ計リ內通及地盤ハ洗滌ニ便ナル樣構造シ且塵埃昆蟲ノ附着ヲ防クヘキ裝置ヲ爲スヘシ

第八條　食肉ノ運搬又ハ行商ニ使用スル容器ハ清潔ニシテ覆蓋アルモノヲ用ヒ血液ノ漏洩セサル裝置ナスヘシ
行商容器ハ前項ニ依ルノ外馬肉ハ赤字其ノ他ハ黑字ニテ肉名ヲ表記スヘシ

第九條　食肉販賣營業者ハ左ノ各號ヲ行商者ハ第二號ヲ遵守スヘシ
一　店頭ニ第二號樣式ノ木札ヲ掲クルコト

一 廢敗シ若ハ其ノ傾キアル食肉竝規定ノ檢印ナキ牛馬羊豚ノ肉ヲ販賣授與シ又ハ貯藏セサルコト

一 店舗ニ於テ食肉取扱ノ際ハ清潔ナル白衣ヲ著スルコト

第十條 管外ヨリ輸入シタル牛馬羊豚ノ肉ハ其ノ獸名屠殺月日及其ノ量目ヲ證明シ得ヘキ書類ヲ備ヘ置キ當該吏員ノ求メアルトキハ之ヲ示スヘシ

第十一條 本則ニ規定セル食肉ニ關シテハ明治三十三年法律第十五號第一條ニ依リ處分ヲ爲シ及第二條ノ職權ヲ行フコトアルヘシ

第十二條 本則第二條乃至第四條第五條第一項第六條乃至第十條ニ違反シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

本則ニ規定シタル違反行爲ヲ敎唆シ又ハ幇助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第十三條 營業者カ未成年者、禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニアラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附　則

第十四條 本令ハ明治四十年七月一日ヨリ施行ス

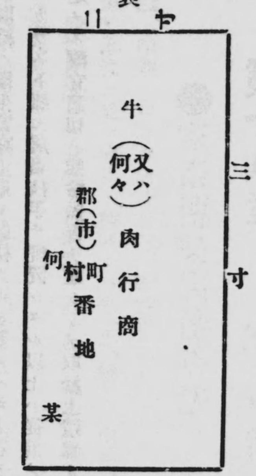
本令施行ノ當時現ニ獸肉販賣營業又ハ行商ニ從事スル者ハ本令施行ノ爲新ニ屆出ヲナスヲ要セス

第十五條 明治三十一年四月岐阜縣令第四十二號獸肉販賣營業取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第一號樣式

木製鑑札

表



裏

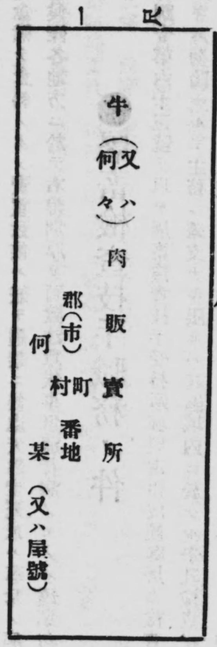
第何號

年　月　日

烙印

第二號樣式

標札



●病死禽獸ニ關スル件

（明治六年三月二日太政官布告第七十六號）

病死禽獸ヲ食料ノタメ賣買致候ハ嚴ニ嚴禁ニ候處天然老死或ハ尋常ノ病ニ斃候モノハ皮剝取骨肉等田園ノ培養ニ相用候儀不苦候條各地方ニ於テ右辨別厚ク可致注意候事但流行病ノモノハ燒棄勿論ニ候事

●屠畜檢查技手職務ノ件

（明治三十九年九月二十九日通達衛第六七二〇號）

本日訓令第六十三號ヲ以テ屠畜檢查技手受持區域規定相成候處屠畜檢查技手ハ主トシテ屠畜檢查及肉種ノ取締ニ從事セシムヘキハ勿論ナルモ主務ニ差支ナキ限リハ其區域內ニ於ケル牛乳檢查、車馬ノ檢查、獸疫豫防等獸畜警察ニ從事セシムル樣取計ヘシ

●屠畜檢查立會巡查ノ件

（明治四十年一月十一日通達警第四六八號）

屠肉ノ取締ハ衛生警察上最モ嚴格ナルヲ要スヘキハ言ヲ俟タサル處ニシテ屠場法實施ノ今日ニ於テハ特ニ嚴峻ノ度ヲ增ササルヘカラスト雖モ屠畜技手ヲ配置シタル以上ハ從前ノ如ク終始屠場ニ巡查ヲ詰切ラシムルノ要ハ之レナカルヘク候條時間ヲ定メス機宜適切ノ臨檢監查ヲ遂ケシメ取締上遺算ナキヲ期セラルヘシ

第十八章　家畜傳染病

●家畜傳染病豫防法

（大正十一年四月十日法律第二十九號）

沿革　昭和二年三月法律第二八號改正

第一條　本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛、馬、緬羊、山羊、豚、犬、鷄及鷲ヲ謂ヒ傳染病ト稱スルハ牛疫、炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、牛肺疫、口蹄疫、狂犬病、羊痘、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、牛ノ傳染性流產、馬緬羊山羊ノ疥癬、加奈陀馬痘及家禽コレラヲ謂フ

家畜類傳染病豫防上必要アルトキハ勅令ヲ以テ前項ノ家畜又ハ傳染病以外ノ畜類又ハ傳染性病ニ付本法ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條　家畜カ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アルトキ又ハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アルトキハ所有者、保管者又ハ診斷若ハ檢案シタル獸醫師ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨屆出ツヘシ但シ家畜カ船車ニ搭載スルモノナルトキハ船長、鐵道係員又ハ軌道係員ハ最初ニ寄港又ハ停留シタル地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ屆出ツヘシ

第三條　前條ノ家畜ニ付テハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ家畜ノ隔離其ノ他傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ

前項ノ家畜ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ殺スコトヲ得ス但シ鷄及鷲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　左ニ揭クル家畜ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ殺スヘシ

一　牛疫、牛肺疫又ハ狂犬病ニ罹リタル家畜

二、牛疫ニ感染シタル虞アル家畜但シ第七條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行フモノヲ除ク
狂犬病ニ罹リタル犬ニ付所有者又ハ保管者緊急ノ必要アリト認ムルトキハ前項ノ指揮ヲ待タスシテ之ヲ殺スコトヲ得

第五條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ左ニ揭ク家畜ニ付其ノ所有者又ハ保管者ニ對シ之ヲ殺スコトヲ命スルコトヲ得

一、炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、口蹄疫、羊痘、豚コレラ、豚疫、馬丹毒、緬羊山羊ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ニ罹リタル家畜

二、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜

三、牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ニシテ第七條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行ヒタルモノ

地方長官ハ前項ノ家畜ニ付所有者又ハ保管者知レサル等ノ爲前項ノ規定ニ依ル命令ヲ爲スコト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ之ヲ殺サシムルコトヲ得

第六條 地方長官傳染病豫防上病性鑑定ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ノ屍體ヲ剖檢セシメ又ハ剖檢ノ爲家畜ヲ殺サシムルコトヲ得

第七條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ニ付檢診、免疫血清若ハ豫防液ノ注射又ハ藥浴ヲ行ハシムルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員前項ノ場合ニ於テ助力ヲ求ムルトキハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 左ニ揭ク屍體ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ化製但シ鑑及驢ノ屍體ニ付テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ燒却又ハ埋却スヘシ

一、傳染病ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體

二、牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體

前項ノ規定ハ左ニ揭ク屍體ニ之ヲ適用セス

一、牛ノ傳染病性流産又ハ馬緬羊山羊ノ疥癬ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體

二、前號ニ揭ク家畜ノ斃屍體ニシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ化製スルモノ

三、假性皮疽又ハ加奈陀馬痘ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體ニシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ化製スルモノ

四、病性鑑定又ハ學術研究ノ爲地方長官ノ許可ヲ受ケタル家畜ノ屍體

五、前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外傳染病ニ罹リタル疑アル家畜及前項第二號ニ揭クル家畜ノ殺屍體ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ於テ病毒傳播ノ虞ナシト認メタルモノ

第九條 傳染病ノ病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル物品ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スヘシ但シ家禽コレラノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スルコトヲ得

第十條 前二條ノ規定ニ依リ屍體又ハ物品ヲ埋却シタル土地ハ之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ所在ノ畜舍、船車其ノ他ノ場所ハ其ノ所有者、管理人、船長、鐵道係員又ハ軌道係員ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ消毒スヘシ但シ家禽コレラノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ消毒スルコトヲ得

第十二條 傳染病ノ病毒ニ觸接シ又ハ觸接シタル疑アル者ハ直ニ消毒ヲ爲スヘシ

警察官吏又ハ家畜防疫委員必要アリト認ムルトキハ前項ノ消毒ニ付指揮ヲ爲スコトヲ得

第十三條 牛、馬、緬羊、山羊又ハ豚カ疾病ノ爲斃死シタルトキハ所有者又ハ保管者ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　第三條、第四條、第八條、第九條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル義務者又ハ第五條ニ規定スル處分ニ依ル義務者カ其ノ義務ニ屬スル事項ヲ行ハス又ハ行フコト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員之ヲ行フコトヲ得

第十五條　警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ畜舍、船車其ノ他家畜ノ所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ家畜防疫委員ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第十六條　地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ區域ヲ限リ一定種類ノ家畜ノ出入若ハ往來又ハ其ノ家畜ノ屍體若ハ傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ運搬ノ停止其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上緊急ノ必要アリト認ムルトキハ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ所在ノ場所及其ノ隣接區域ニ對シ一定ノ期間交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第十七條　地方長官狂犬病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏ヲシテ道路、公園、社寺境内、墓地其ノ他ノ場所ニ徘徊スル犬ヲ抑留セシムルコトヲ得

警察官吏前項ノ規定ニ依リ犬ヲ抑留シタルトキハ其ノ所有者又ハ保管者ニ其ノ旨通知シ之ヲ受領セシムヘシ所有者及保管者知レサルトキハ抑留ノ旨ヲ公示スヘシ

前項ノ規定ニ依ル公示後命令ノ定ムル期間内ニ犬ノ返還ノ請求ナキトキハ地方長官ハ其ノ犬ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條　地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ屠場若ハ化製場ノ事業ノ停止又ハ家畜市場、家畜共進會若ハ競馬會ノ開設其ノ他家畜ヲ集合セシムル施設ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十九條　農林大臣傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ家畜竝其ノ屍體及肉骨皮毛類其ノ他傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ輸入又ハ移入ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第二十條　家畜竝其ノ屍體及肉骨皮毛類ハ傳染病豫防ノ爲施行スル檢疫ヲ受クルニ非サレハ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ前項ニ規定スル物ノ外傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物ニ付檢疫ヲ行フコトヲ得

第二十一條　檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ航海日誌其ノ他ノ書類ヲ檢閲スルコトヲ得

第二十二條　第二條乃至第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條ノ規定ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員トアルハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ檢疫官吏トス

第二十二條ノ二　第五條第二項又ハ第十四條ノ場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ檢疫官吏第十四條ノ事項ヲ行フ場合ニ於テハ國費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ費用ヲ支辨シタル者ハ第二十三條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ノ定ムル所ニ依リ屠人ノ負擔ニ屬スル費用ヲ其ノ屠人ヨリ徴收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第一項但書ノ規定ニ依ル費用ヲ徴收スル場合ニ於テハ國稅徴收法ヲ準用ス

前項ニ規定スル徴收金ノ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第二十二條ノ三　地方長官ハ第三條第一項ノ處置又ハ第十六條第一項ノ命令ニ因リ自活スルコト能ハサルニ至リタル者ニ對シ其ノ生活費ニ充ツル爲手當金ヲ交付スヘシ

前項ノ手當金ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第二十三條　傳染病豫防ニ關スル費用ハ國、北海道地方費、府縣、市町村又ハ區人ノ負擔トス其ノ負擔區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　地方長官ハ左ノ區分ニ從ヒ家畜又ハ物品ノ所有者ニ對シ手當金ヲ交付ス但シ勅令ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一　傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜但シ犬及第七條ノ規定ニ依リ豫防液ノ注射ヲ行ヒタル爲傳染病ニ罹リタル家畜ヲ除ク　評價額ノ三分ノ一

二　第六條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜　評價額ノ五分ノ三

三　牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アリ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜、第七條ノ規定ニ依リ豫防液ノ注射ヲ行ヒタル爲傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜及第七條ノ規定ニ依リ免疫血清若ハ豫防液ノ注射又ハ藥浴ヲ行ヒタル爲斃死シタル家畜　評價額ノ五分ノ四

四　第九條ノ規定ニ依リ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ燒却又ハ埋却シタル物品及第十四條ノ規定ニ依リ燒却又ハ埋却シタル物品　評價額ノ二分ノ一

前項ノ手當金ハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ前項第一號ニ規定スル家畜ニ付テハ之ヲ交付セス

前項第二號乃至第四號ニ規定スル家畜又ハ物品ニ付テハ其ノ額ハ前項第二號乃至第四號ニ掲クルモノノ二分ノ一トス

第八條第二項第五號ニ規定スル屍體ノ評價額ト前二項ノ家畜ノ手當金ノ額トノ合算額カ第一項ノ家畜ノ評價額ヲ超ユルトキハ其ノ差額ハ之ヲ手當金ヨリ控除ス

第一項ノ評價額及前項ノ屍體ノ評價額ハ地方長官三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ定メシム地方長官其ノ評價額ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ定メシムルコトヲ得

第一項ノ評價額ハ發病前又ハ病毒汚染前ノ價格ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第二十四條ノ二　第五條乃至第八條及前條ノ規定ニ於テ地方長官トアルハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ稅關長トス

第二十五條　前條ノ手當金ハ所有者又ハ保管者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ家畜又ハ物品ニ付之ヲ交付セス

一　第二條、第三條第一項、第四條第一項若ハ第九條又ハ第二十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタルトキ

三　第六條、第七條第一項又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シ屆出ヲ爲ササル獸醫師

二　第三條、第四條第一項又ハ第二十條第一項ノ規定ニ違反シタル者

三　第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條、第十八條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタル者

四　第五條第二項、第六條、第七條第一項、第十四條又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタル者

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シ屆出ヲ爲ササル所有者、保管者、船長、鐵道係員又ハ軌道係員

二　第八條乃至第十一條ノ規定ニ違反シタル者

三　第十二條第二項ノ規定ニ依ル指揮ニ從ハサル者

四　正當ノ理由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ檢閲ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ答辯ヲ爲シタル者

第二十八條　第十三條ノ屆出ヲ爲ササル者ハ科料ニ處ス

第二十九條　航海中ノ船舶ニ在リテハ船長ハ第三條、第八條、第九條及第十一條ノ規定ニ拘ラス命令ノ定ムル所ニ依リ傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第三十條　第二十條ノ規定ハ宮内省又ハ國ノ管理ニ屬スル家畜其ノ他ノ物ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ハ軍用ノ家畜ニシテ軍衙ニ於テ檢疫ヲ行フモノニ之ヲ適用セス

第三十一條　本法中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者アル場合ニ於テハ其ノ者ニ之ヲ適用ス

第三十二條　本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年勅令第七號ヲ以テ同年一月二十日ヨリ施行）

本法施行前ニ獸疫豫防法第四條、第四條ノ二、第五條又ハ第八條第一項ノ場合ニ該當シタルモノニ對スル手當金ノ交付ニ於テハ仍從前ノ例ニ依ル

●家畜傳染病豫防法施行規則

（大正十二年一月十九日農商務省令第一號）

沿革　昭和二年四月農林省令第八號改正

第一條　警察官吏又ハ家畜防疫委員家畜傳染病ノ發生又ハ發生ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ其ノ旨地方長官ニ報告シ且市町村長ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ旨部内ニ公示スヘシ

第二條　傳染病發生シ又ハ終熄シタルトキハ地方長官ハ其ノ旨部内ニ公示スヘシ

牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫發生シタルトキ又ハ傳染病蔓延ノ兆アリト認ムルトキハ地方長官ハ農林大臣竝隣接府縣及家畜集散上密接ノ關係アル道府縣ノ地方長官ニ急報スヘシ

第三條　假性皮疽、牛ノ傳染性流産、馬緬羊山羊ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜及犬以外ノ家畜ニシテ狂犬病ニ感染シタル虞アルモノニ限リ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ隔離ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ嚇斃以外ノ處置ニ止ムルコトヲ得

第四條　地方長官家畜傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ家畜ニ付檢診、免疫血清若ハ豫防液ノ注射又ハ藥浴ヲ行ハシメムトスルトキハ家畜ノ種類、區域及日時ヲ告示スヘシ但シ緊急ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　左ニ掲クル屍體又ハ物品ヲ運搬セムトスルトキハ牛疫、氣腫疽、牛肺疫、口蹄疫又ハ牛ノ傳染性流産ノ場合ニ在リテハ牛又ハ馬ヲ用ヰテハ牛ヲ、鼻疽、假性皮疽、馬ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ノ場合ニ在リテハ馬ヲ、炭疽ノ場合ニ在リテハ牛又ハ馬ヲ用ヰルコトヲ得ス

一　傳染病ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體

二　牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體

三　病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル物品

第六條　前條ノ屍體又ハ物品ヲ埋却スル土坑ハ屍體又ハ物品ヲ投入スルモ尚地表迄一メートル以上ノ餘地ヲ有スルモノタルコトヲ要シ屍體又ハ物品ヲ埋却シタル後厚ク石灰ヲ撒布シ土ヲ以テ壙塞スヘシ

第七條　燒却又ハ埋却スヘキ屍體ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ截切スルコトヲ得ス

第八條　第五條ノ屍體又ハ物品ノ燒却又ハ埋却ハ人家、飲料水、河流又ハ道路ニ接近セサル場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ埋却ヲ爲シタル場所ハ之ヲ標示スヘシ

第八條ノ二　家畜傳染病豫防法第八條第二項第五號ノ規定ニ依ル認定ノ申請アリタルトキハ地方長官（檢疫ノ場合ニ於テハ稅關長）ハ豫メ警察官吏又ハ家畜防疫委員（檢疫ノ場合ニ於テハ檢疫官吏）ヲシテ屍體ヲ剖檢セシメ家畜カ傳染病ニ罹リタルモノナルコト明ナラサル場合ニ限リ申請者ヲシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員（檢疫ノ場合ニ於テハ檢疫官吏）ノ指揮ニ從ヒ皮、毛、角又ハ蹄ヲ屍體ヨリ分離シ之ヲ消毒セシメ其ノ他ノ部分ハ之ヲ燒却又ハ埋却セシムヘシ

第九條　家畜傳染病豫防法ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十條　地方長官家畜傳染病豫防法第十六條第一項又ハ同法第十八條ノ規定ニ依ル停止ヲ命シタルトキ又ハ之ヲ解除シタルトキハ其ノ旨管内ニ告示シ且農林大臣竝隣接府縣及家畜集散上密接ノ關係アル道府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

第十一條　家畜傳染病豫防法第十七條第二項ノ規定ニ依ル公示ニハ犬ノ種類、性、年齡、毛色及特徴、之ヲ捕ヘタル場所及日時竝其ノ抑留ノ場所ヲ記載スヘシ

家畜傳染病豫防法第十七條第三項ノ期間ハ三日トス

第十二條　地方長官ハ狂犬病流行ノ際危險アリト認ムル區域ニ於テハ所有者又ハ保管者ヲシテ犬ヲ繫留セシムヘシ但シ口網ヲ附シテ牽行スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　航海中家畜カ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫若ハ狂犬病ニ感染シタル疑アルトキハ船長ハ其ノ家畜ヲ隔離シ病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル場所及物品ハ之ヲ消毒スヘシ

前項ノ家畜ニシテ斃死シタルトキハ其ノ屍體ハ消毒液ヲ浸シタル莚又ハ蓙等ヲ以テ全體ヲ包裹シ病毒ノ散蔓ヲ防クヘシ但シ領海外ニ於テハ之ヲ投棄スルコトヲ得

第十四條　家畜防疫委員ハ地方長官其ノ所屬ノ官吏、吏員若ハ市町村吏員又ハ獸醫師ノ中ヨリ之ヲ命スヘシ評價人ハ地方長官（檢疫ノ場合ニ於テハ稅關長）其ノ所屬ノ官吏、吏員又ハ市町村吏員及畜產業ニ經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ選定スヘシ

第十五條　家畜傳染病豫防法第十五條ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

第十六條　本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本則中町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本則ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十二年一月二十日ヨリ施行）

明治三十年農商務省令第一號ハ之ヲ廢止ス

（別記）

證票樣式

十センチメートル

五センチメートル

表面	裏面
第　號 昭和　年　月　日交付 家畜防疫委員證票　縣廳印 氏名	家畜傳染病豫防法第十五條　警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ畜舍、船車其ノ他家畜所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ家畜防疫委員ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ 家畜傳染病豫防法第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス 四　正當ノ理由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ檢閱ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ答辯ヲ爲シタル者

●家畜傳染病豫防法施行心得

（大正十二年一月二十日　農商務省訓令第一號）

沿革　昭和二年四月農林省訓令第一號改正

一　家畜傳染病發生シタルトキハ其ノ終熄スル迄第一號樣式ニ依リ毎月十日迄ニ前月ノ狀況ヲ農林大臣ニ報告スヘシ但シ牛疫、牛肺疫、口蹄疫、羊痘及豚コレラニ付テハ月表ノ外特種ノ狀況ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ

二　家畜傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ免疫血清又ハ豫防液ノ注射ヲ行ヒタルトキハ注射完了後其ノ成績ヲ調査シ遲滯ナク第二號樣式又ハ第三號樣式ニ依リ其ノ狀況ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

三　免疫血清、豫防液又ハ診斷液ノ交付ヲ受ケタルトキハ毎年四月三十日迄ニ第四號樣式ニ依リ前年度ニ於ケル其ノ受拂ヲ獸疫調査所長ニ報告スヘシ

四　家畜傳染病豫防法第十三條ノ規定ニ依ル屆出ハ一年分ヲ取纏メ第五號樣式ニ依リ翌年一月末日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

五　傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アル家畜ヲ殺サムトスル場合ハ其ノ所在ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ燒却又ハ埋却ヲ爲ス場所ニ於テ殺ス場合又ハ化製場若ハ屠場ニ於テ殺ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

六　家畜傳染病豫防法第八條第二項第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ル化製ハ消毒裝置其ノ他病毒ノ散蔓ヲ防止スルニ足ルヘキ設備ヲ有スル化製場ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

七　家畜傳染病豫防法第八條第二項第五號ノ規定ニ依ル認定ヲ爲シタルトキハ毎月十日迄ニ前月ノ狀況ヲ第六號樣式ニ依リ農林大臣ニ報告スヘシ

八　家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫ヲ行ヒタルトキハ毎月十日迄ニ前月中ノ檢疫成績ヲ第七號樣式ニ依リ農林大臣ニ報告スヘシ

第一號樣式

甲

家畜傳染病調査表（何年何月分）

廳府縣名

病名	畜類	發病又ハ感染ノ頭數	斃死頭數	殺頭數	快復頭數	摘要
累計						
備考	發病地、流行地方、系統、病勢其ノ他參考トナルヘキ事項					

（注意）

一、斃死、殺及快復頭數ハ既ニ其ノ家畜ノ發病報告ヲ爲シタルモノニ付テハ朱書スヘシ

二、牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ニ付テハ病名欄ニ其ノ旨記入スヘシ

三、免疫血清又ハ豫防液ヲ注射シタル家畜ニシテ其ノ有效期間中ニ發病シタルモノアルトキハ其ノ頭數ヲ摘要欄ニ記入スヘシ

四、累計ハ病名、畜類別ニヨリ同年一月以降ノ頭數ヲ記載スヘシ以下之ニ倣フ

乙

檢疫中ニ於ケル家畜傳染病調査表（何年何月分）

檢疫港名

船名	入港月日	病名	畜類	搭載地名	發病又ハ感染ノ頭數	斃死頭數	殺頭數	快復頭數	摘要
計									
累計									

備考 系統、病勢其ノ他參考トナルヘキ事項

（注意）甲ニ同シ

第二號樣式

甲

何々免疫血清注射成績表（注射施行ノ始期 年 月 日 終期 年 月 日）

廳府縣名

畜類	注射目的	注射頭數	注射後 斃死頭數	注射後 殺頭數	注射後 快復頭數	摘要

備考 注射ノ爲生シタル事故ノ狀況

（注意）使用シタル血清ニ付テハ其ノ製造所ノ官公私別ニ大體ノ歩合ヲ備考欄ニ記載スヘシ

乙

檢疫中ニ於ケル何々免疫血清注射成績表（同上）

檢疫港名

搭載地名	注射目的	畜類	注射頭數	注射後 發病頭數	注射後 斃死頭數	注射後 殺頭數	注射後 快復頭數	摘要

備考 甲ニ同シ

（注意）甲ニ同シ

第三號樣式

甲

何々豫防液注射成績表（注射施行ノ始期 年 月 日 終期 年 月 日）

廳府縣名

畜類	注射頭數	注射後 斃死頭數	注射後 殺頭數	注射後 快復頭數	摘要

備考	注射反應ノ概況、注射ノ爲生シタル事故ノ状況

（注意）使用シタル豫防液ニ付テハ其ノ製造所ノ官公私別ニ大體ノ歩合ヲ備考欄ニ記載スヘシ

乙

檢疫中ニ於ケル何々豫防液注射成績表（同上）

檢疫港名

搭載地名	畜類	注射頭數		注射後				摘要
		第一回注射	第二回注射	發病頭數	斃死頭數	殺頭數	快復頭數	
備考	甲ニ同シ							

（注意）甲ニ同シ

第四號樣式

血清類受拂表（何年度分）

廳府縣、稅關名

種類	前年度ヨリノ繰越數量	受入數量	應用數量	廢棄數量	翌年度ニ繰越數量
	C.C.	C.C.	C.C.	C.C.	C.C.
備考	廢棄事由其ノ他參考トナルヘキ事項				

第五號樣式

家畜斃死表（何年分）

廳府縣名

	牛	馬	緬羊	山羊	豚	摘要
傳染性病						
流行病						
普通病						
其ノ他						
計						

備考	衞生狀態、斃死多キ疾病ニ付テハ其ノ原因其ノ他參考トナルヘキ事項

（注意）傳染性病及流行病ニ付テハ病名ノ分明セルモノハ其ノ病名別頭數ヲ各摘要欄ニ記入スヘシ
本表中ニハ法律ニ規定シタル傳染病ノ爲斃死シタルモノヲ含マス

第六號樣式

家畜傳染病豫防法第八條第二項第五號ノ規定ニ依ル認定表（何年何月分）

廳府縣檢疫港名

病名	殺原因	畜類	頭數	摘要

（注意）

一、殺原因欄ニハ病性鑑定ノ爲殺シタルモノナル場合ニハ「鑑」、傳染病ニ感染シタル疑アリテ殺シタルモノナル場合ニハ「疑」等ト記入スヘシ

二、摘要欄ニハ利用シタル屍體ノ部分ノ內譯其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ

第七號樣式

甲

檢疫成績表（何年何月分）

檢疫港名

搭載地名	仕向地名	頭數									斤數												摘要
		牛	馬	緬羊	山羊	豚	犬	鷄	鶩	其他ノ畜類	肉				骨	皮	毛					其他ノ物品	
											牛肉	緬羊肉	豚肉	其他ノ肉			緬羊毛	山羊毛	馬毛	豚毛	其他ノ獸毛		
計																							
累計																							

備考	檢疫中ニ於ケル事故ノ狀況、其ノ月收容ノ畜類別頭數其ノ他參考トナルヘキ事項

（注意）本表ニハ其ノ月檢疫終了解放シタルモノヲ記入スヘシ

乙

檢疫所ニ於ケル獸毛消毒成績表（何年何月分）

檢疫港名

種類	數量	消毒方法	摘要
計			
累計			

●家畜傳染病豫防ニ關スル消毒方法（大正十二年一月二十日農商務省告示第九號）

沿革 昭和二年四月農林省告示第八〇號改正

第一 家畜傳染病豫防ノ爲施行スル消毒ノ方法ハ左ノ四種トス

一 蒸氣消毒

二 煮沸消毒

三 藥物消毒

四 醱酵消毒

第二 蒸氣消毒ハ消毒ノ目的物ヲ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

被服、毛布、毛、器具等ノ消毒ニ適ス

第三 煮沸消毒ハ消毒ノ目的物ヲ水中ニ浸シ沸騰後一時間以上煮沸スヘシ

第二ニ揭クルモノノ外肉、骨、角、蹄、飼料等ノ消毒ニ適ス

第四 藥物消毒ニ用ヰル藥劑及其ノ用法ハ左ノ如シ

一 煆製石灰末

用ニ臨ミ煆製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シ之ヲ製スヘシ

畜舍ノ床、糞便、厩肥、糞尿溜、汚水溝、濕潤ナル土床等ノ消毒ニ適ス

一 石灰乳（十倍）（水九分 煆製石灰一分）

用ニ臨ミ煆製石灰ニ水ヲ徐々ニ加ヘ攪拌シテ之ヲ製スヘシ

備考 消毒施行狀況其ノ他參考トナルヘキ事項

畜舍ノ隔壁、隔木若ハ床又ハ欄柵其ノ他病毒ニ汚染セル場所ノ消毒ニ適ス

一 クロール石灰

畜舍ノ床、井水、用水、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

一 クロール石灰水（二十倍）（クロール石灰五分 水九十五分）

用ニ臨ミ「クロール」石灰ニ水ヲ加ヘ攪拌シテ之ヲ製シ其ノ上清ヲ用ウヘシ

用法ハ石灰乳ニ同シ

一 石炭酸水（防疫用石炭酸三分 水九十七分）

加熱熔融セシメタル防疫用石炭酸ニ少量ノ湯又ハ水ヲ加ヘ攪拌シツツ徐々ニ所定限度迄ノ水ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ

手足、畜舍、屍體、欄柵、器具機械、革具類等ノ消毒ニ適ス

一 昇汞水（千倍）（昇汞一分、鹽酸十分 水九百八十九分）

鹽酸ヲ加ヘタル少量ノ水ニ昇汞ヲ溶解シタル後水ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ

昇汞錠（一錠中昇汞〇、五グラムヲ含ム）

一錠ヲ五百立方「センチメートル」ノ水ニ溶解シテ之ヲ製スヘシ

手足、畜舍、畜體、器具機械ノ消毒ニ適ス但シ金屬製器具機械ノ消毒ニハ之ヲ用ウヘカラス

一 フオルムアルデヒード

室內、被服、毛布、畜舍、骨、毛、角、蹄、革具類、貴重ナル器具機械等ノ消毒ニ適ス但シ密閉シ得サル室內ノ消毒ニハ適セス

「フオルムアルデヒード」ヲ以テ消毒スルニハ室內又ハ消毒用器ノ容積一立方メートルニ付フオルマリン十五グラム以上ヲ噴霧若ハ蒸發セシメ又ハ「フオルムアルデヒード」五グラム以上ヲ發生セシメ同時ニ二十八グラム以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

「フオルムアルデヒード」ヲ以テ毛束、被服、毛布又ハ之ニ類似ノ物品ヲ其ノ內部ニ至ル迄消毒スル場合ハ眞空裝置ニ

依ルヘシ此ノ場合ニ於ケル消毒時間ハ裝置及物品ノ種類ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一　フオルマリン水（フオルマリン一分、水三十四分）

畜舍、畜體、屍體、器具機械、骨、毛、角、蹄、革具類等ノ消毒ニ適ス

一　クレゾール水（クレゾール石鹸液三分、水九十七分）

クレゾール石鹸液ヲ水ニ溶解シテ之ヲ製スヘシ

手足、被服、畜舍、畜體、柵欄、器具機械、革具類等ノ消毒ニ適ス

一　クレゾール硫酸溶液（粗製クレゾール二分、粗製硫酸一分、水九十七分）

粗製「クレゾール」ニ粗製硫酸ヲ混和振盪シ二十四時間以上ヲ經過セル後水ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ

糞尿溜、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

一　クレオリン水、クレシン水（クレオリン、クレシン三分、水九十七分）

石炭酸水ニ代用スルコトヲ得

一　硫黄石灰水（昇華硫黄三分、焼製石灰一分、水百四十分）

焼製石炭一分ヲ水四十分ニ溶解シ昇華硫黄三分ヲ加ヘ蒸發水分ヲ補ヒツツ二時間攪拌煮沸シタル後水百分ヲ加ヘ之ヲ製シ其ノ上清ヲ用ウヘシ

業浴ニ適ス

一　鹽酸食鹽水（鹽酸二分、食鹽十分、水八十八分）

皮ノ消毒ニ適ス

一　粗製鹽酸、粗製硫酸

糞尿溜、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

第五　醗酵消毒ハ幅一メートル乃至二メートル深サ約二十センチメートル長サ適宜ノ土溝ヲ造リ之ヲ病毒ニ汚染セサル敷藁、厩肥等ヲ四、五尺ノ高サニ堆積シ其ノ表面ハ病毒ニ汚染セサル莚、菰、敷藁、厩肥等ヲ以テ適當ノ厚サニ之ヲ覆ヒ其ノ上ニ土ヲ覆ヒ少クトモ二週間放置スヘシ

牛舌、豚糞ノ消毒ニ在リテハ醗酵ヲ充分ナラシムル爲適宜ノ藁類ヲ混スヘシ

第六　消毒方法ノ應用

一　畜舍ノ土床ハ先ツ焼製石灰末又ハクロールル石灰ヲ撒布シ深サ三十センチメートル以上掘起撤出シタル後焼製石灰末又ハ「クロール石灰ヲ撒布シ新鮮ノ土ヲ入レ撤出シタル土ハ焼却又ハ埋却スヘシ但シ牛ノ傳染性流産、馬鼻疽、羊山羊ノ疥癬、家禽コレラ、加奈陀馬痘、假性皮疽ノ場合ニ在リテハ土床ヲ掘起セスシテ焼製石灰末、クロール石灰、フオルマリン水、クレゾール水ヲ充分ニ撒布シ消毒スルコトヲ得

一　著シク汚物ノ固著セル畜舍又ハ柵柵ノ消毒ハ豫メ熱湯ヲ以テ洗滌シタル後之ヲ行フヘシ（粗製加里若ハ曹達一分水二十分又ハ新製ノ木灰一分水五分ヲ煮沸シテ製ス）

一　畜體ノ消毒ハ昇汞水、フオルマリン水又ハ「クレゾール水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ清拭シ特ニ汚物ノ附著セル部分ハ前記消毒藥液ヲ以テ洗滌スヘシ

一　屍體又ハ物品ヲ運搬セムトスルトキハ昇汞水、石炭酸水、フオルマリン水又ハ「クレゾール水ニ濕セル布片又ハ綿類ヲ以テ病毒ヲ漏ラス虞アル天然孔其ノ他ノ箇所ヲ塞キ昇汞水、石炭酸水、フオルマリン水又ハ「クレゾール水ニ濕シタル莚、菰類ヲ以テ全體ヲ包裹スヘシ

一　病畜牽付途中又ハ屍體運搬中ニ於テ藏尿其ノ他汚物ヲ漏ラシタル時ハ病毒ヲ含有セサルモノヲ除クノ外之ヲ除去シ其ノ場所ニ昇汞水、石炭酸水又ハ「クレゾール硫酸水ヲ充分撒布シ除去シタル汚物ハ適當ノ場所ニ於テ之ヲ焼却、埋却又ハ消毒スヘシ

一　藏尿溜及汚水溝ハ焼製石灰末（汚物量ノ十分ノ一以上）、クロール石灰（同上）、クレゾール水（汚物量ト同量以上）、クレゾール硫酸水（同上）、粗製鹽酸（汚物量ノ五十分ノ一以上）又ハ粗製硫酸（同上）ヲ投入攪拌シ其ノ汚物ヲ浚渫シ

タル後更ニ石灰乳、クレゾール水又ハクレゾール硫酸水ヲ以テ消毒スヘシ淩濛シタル汚物ハ深ク埋却スヘシ

一　皮ハ攝氏二十度乃至二十二度ノ鹽酸食鹽水中ニ二日間以上浸漬スヘシ

一　毛ハ蒸氣消毒又ハフオルムアルデヒード若ハフオルマリン水ニ依ル藥物消毒ヲ爲スヘシ但シフオルマリン水ヲ用キルトキハ三時間以上浸漬スヘシ

一　角又ハ蹄ハ煮沸消毒又ハフオルムアルデヒード若ハフオルマリン水ニ依ル藥物消毒ヲ爲スヘシ但シフオルマリン水ヲ用キルトキハ三時間以上浸漬スヘシ

一　茅胞性病毒ニ對シテハ次ノ消毒藥ノ一ヲ用ウヘシ

昇汞水

石炭酸水（鹽酸ヲ加ヘタルモノ）

クレゾール硫酸水

フオルマリン水

クロール石灰水

粗製鹽酸

粗製硫酸

鹽酸食鹽水

●家畜傳染病檢疫規則

沿革　大正一二年四月農商務省令第八號、同年九月同第二二號、一五年八月農林省令第二〇號、昭和二年四月同第九號改正

（大正十二年一月十九日農商務省令第二號）

第一條　家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫ハ北海道函館港、同小樽港、大阪府大阪港、神奈川縣橫濱港、兵庫縣神戸港、長崎縣長崎港、同縣嚴原港、福井縣敦賀港、山口縣下關港、福岡縣門司港及鹿兒島縣鹿兒島港ニ於テ之ヲ行フ但シ當分ノ內鹿兒島港ニ在リテハ家畜及其ノ屍體竝ニ緬羊毛、駱駝毛、アルパカ毛及カシミヤ毛以外ノ獸毛ノ檢疫、函館港、小樽港、長崎港、嚴原港、下關港及門司港ニ在リテハ緬羊毛、駱駝毛、アルパカ毛及カシミヤ毛以外ノ獸毛ノ檢疫ハ之ヲ行ハス

第二條　農林大臣檢疫施行上必要アリト認ムルトキハ檢疫ヲ受クヘキ物ノ種類ヲ限リ其ノ檢疫ヲ受クヘキ海港ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クトモ十日以前ニ其ノ旨ヲ告示ス

第三條　外國又ハ家畜傳染病豫防法ヲ施行セサル地方ヨリ入港シタル船舶ニシテ左ニ揭クル家畜又ハ屍體ヲ搭載スルモノハ其ノ船舶內ニ於ケル檢疫及消毒ヲ終ル迄檢疫信號ヲ揭クヘシ

一　傳染病ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜

二　牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜

三　前各號ニ揭クル家畜ノ屍體

前項ノ信號ハ晝間ハ前檣頭ニ第一號樣式ノ旗ヲ揭ケ夜間ハ同所ニ紅燈一箇其ノ下ニ白燈二箇ヲ上下ニ連揭スヘシ

第三條ノ二　檢疫ヲ受クヘキ物ハ檢疫官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ船舶外ニ搬出スルコトヲ得ス

第四條　檢疫官吏ハ檢疫ヲ受クヘキ物ヲ搭載シタル船舶ニ臨檢シ船長又ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ尋問シ第一號樣式ノ調書ヲ作成スヘシ

第五條　檢疫官吏ハ船舶ニ於テ家畜ノ檢診若ハ家畜ノ屍體ノ檢案又ハ肉骨皮毛類ノ檢查ヲ行ヒ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一　家畜傳染病豫防法第四條及第五條ノ家畜ニシテ殺スコトヲ必要トスルモノハ之ヲ殺場ニ送致セシムルコト

二　前號以外ノ家畜ハ直ニ之ヲ繫留場ニ送致セシムルコト但シ朝鮮總督府ノ發給シタル檢疫證明書ヲ有スル畜牛ニシテ全群健康ト認ムルモノ竝犬及支那、西比利亞以外ノ地ヨリ輸入若ハ移入スル鵞、鴈ニシテ檢疫官吏ニ於テ繫留ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

三　家畜ノ屍體ハ燒却場ニ送致セシムルコト

四　肉骨皮毛類ハ消毒場ニ送致セシムルコト但シ輸出地ニ於ケル日本官憲ノ發給シタル屠畜前ノ健康證明書及屠肉檢査ノ證明ヲ有スル生肉及移出地ニ於ケル屠肉檢査ノ證明ヲ有スル生肉其ノ他檢疫官吏ニ於テ消毒ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條　前條第二號ノ規定ニ依リ繫留場ニ送致セシメタル家畜ノ繫留期間左ノ如シ

一　牛、緬羊、山羊、十五日但シ支那（青島港ヲ除ク）、西比利亞、朝鮮以外ノ地ヨリ輸入又ハ移入スルモノニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノ及支那、西比利亞、朝鮮以外ノ地ヨリ輸入又ハ移入スルモノニ在リテハ七日迄、支那青島港ヨリ輸入スルモノニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノニ在リテハ二日迄短縮スルコトヲ得

二　馬　十日但シ支那、西比利亞、朝鮮以外ノ地ヨリ輸入又ハ移入スルモノニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノハ七日迄短縮スルコトヲ得

三　豚　十日但シ指定屠場ニ於テ屠殺スルモノハ五日迄短縮スルコトヲ得

四　鹿、駝　二日

傳染病ニ罹リタル家畜ハ其ノ快復後二十日間、牛疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ハ二十日間、牛肺疫又ハ狂犬病ニ感染シタル虞アル家畜ハ九十日間、狂犬病ニ感染シタル虞アル家畜ニシテ檢疫所ニ於テ豫防液ノ注射ヲ行ヒタルモノハ十四日間之ヲ繫留スヘシ

傳染病ニ罹リタル疑アル家畜ハ其ノ疑ナキニ至ル迄之ヲ繫留スヘシ

繫留中家畜カ牛疫、牛肺疫、口蹄疫又ハ羊痘ニ罹リタルトキハ之ト同一畜舍及檢疫官吏ニ於テ病毒ニ汚染シタル虞アリト認ムル場所ニ繫留シタル家畜ハ畜舍又ハ場所ノ消毒完了後左ニ揭ケル所ニ依リ之ヲ繫留スヘシ但シ羊痘ニ感染シタル虞アル家畜ニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノハ繫留期間ヲ七日迄短縮スルコトヲ得

一　牛疫又ハ口蹄疫ノ場合　牛、緬羊、山羊、豚　二十日間

二　牛肺疫ノ場合　牛　九十日間

三　羊痘ノ場合　緬羊、山羊　二十日間

繫留中家畜カ炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、加奈陀馬痘、馬鼻羊山羊ノ疥癬ニ罹リタルトキハ之ト同一畜舍ニ繫留シタル家畜ハ畜舍ノ消毒完了後十日間之ヲ繫留スヘシ但シ檢疫所ニ隣接シタル指定ノ屠場又ハ場所ニ於テ殺ス場合ハ七日迄短縮スルコトヲ得

繫留中家畜カ家禽コレラニ罹リタルトキハ之ト同一畜舍ニ繫留シタル宍畜ハ畜舍ノ消毒完了後五日間之ヲ繫留スヘシ但シ指定ノ場所ニ於テ殺ス場合ハ三日迄短縮スルコトヲ得

傳染病ニ罹リタル疑アル家畜生シタルトキハ之ト同一場所ニ繫留シタル家畜ハ前六項ノ規定ハ傳染病ニ罹リタル家畜ト同一船ニ在リタル家畜ニ之ヲ準用ス

指定屠場ニ送付スル家畜ハ檢疫證明書交付ノ當日之ヲ屠殺セシムヘシ

第七條　前三條ノ規定ハ家畜傳染病豫防法第二十條第二項ノ規定ニ依リテ行フ檢疫ニ之ヲ準用ス

第八條　檢疫官吏檢疫ヲ終リタルトキハ第三號樣式ノ證明書ヲ交付スヘシ但シ消毒ヲ爲シタル獸毛ニ付テハ包裝毎ニ第四號樣式ノ證明書ヲ交付スヘシ

第九條　第三條又ハ第三條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本則ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十二年明治三十九年農商務省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

●家畜傳染病豫防法ニ依リ交付スル手當金ノ最高金額ノ件

（大正十二年一月十九日勅令第八號）

沿革　昭和二年四月勅令第八一號改正

家畜傳染病豫防法第二十四條ノ規定ニ依リ手當金ノ最高金額左ノ通定ム

一　家畜傳染病豫防法第二十四條第一項第一號ノ場合

牛、馬	一頭ニ付	貳百五拾圓
緬羊、山羊、豚	同	拾參圓

二　同第二號ノ場合

牛、馬	一頭ニ付	四百五拾圓
緬羊、山羊、豚	同	貳拾四圓
犬	同	拾貳圓
鷄、鴈	一羽ニ付	壹圓五拾錢

三　同第三號ノ場合

牛、馬	一頭ニ付	六百圓
緬羊、山羊、豚	同	參拾貳圓
犬	同	拾六圓
鷄、鴈	一羽ニ付	貳圓

四　同第四號ノ場合

屠殺	六拾圓

五　家畜傳染病豫防法第二十四條第二項ノ場合

第二號乃至第四號ニ掲クルモノノ二分ノ一

附　則

本令ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十二年一月二十日ヨリ施行）

●當分ノ內支那、西伯利ヨリ又ハ之ヲ經テ生牛輸入停止

（明治四十二年八月五日農商務省令第三十三號）

沿革　大正四年七月農商務省令第一六號、一二年三月同第四號改正

家畜傳染病豫防法第十九條ニ依リ當分ノ內支那、西伯利ヨリ又ハ之ヲ經テ生牛ヲ輸入スルコトヲ停止ス但シ食用ノ爲ニスルモノニシテ檢疫ヲ受ケタル後直ニ檢疫官ノ指定シタル屠場ニ於テ屠殺スルモノハ此ノ限ニ在ラス

本令ハ明治四十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分ノ件

（大正十二年一月十九日勅令第九號）

沿革　昭和二年四月勅令第八〇號改正

家畜傳染病豫防法第二十三條及畜牛結核病豫防法第十六條ノ規定ニ依リ家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分左ノ通定ム

第一　左ニ掲クル費用ハ國ノ負擔トス

一　市町村吏員タル家畜防疫委員以外ノ家畜防疫委員ノ旅費

二　傳染病豫防ノ爲臨時傭入レタル獸醫師ノ手當及旅費

三　評價人ノ手當及旅費

四　家畜傳染病豫防法第二十四條第一項、第二項及畜牛結核病豫防法第十三條第一項ノ規定ニ依ル手當金

五　牛疫免疫血清ノ購入及配送並「ツベルクリン」ノ製造及配送ニ要スル費用
六　第三第六號及第四ニ掲クルモノヲ除クノ外傳染病及結核病ノ豫防ニ要スル消毒藥品費
七　第三ニ掲クルモノヲ除クノ外家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫及畜牛結核病豫防法第七條ノ規定ニ依ル檢査ニ要スル費用
八　家畜傳染病豫防法第二十二條ノ三第一項ノ規定ニ依ル手當金ノ三分ノ一

第二　左ニ掲クル費用ハ市町村ノ負擔トス
一　警察官吏又ハ家畜防疫委員カ傳染病豫防ノ爲備入レタル備入ノ費用
二　屍體又ハ物品ヲ埋却シタル土地ノ標示費

第三　左ニ掲クル費用ハ所有者、管理人、管理者又ハ保管者ノ負擔トス
一　家畜ノ率付、送致、隔離、殺及家畜傳染病豫防法第三條第一項ノ處置ニ要スル費用
二　檢疫、檢査、隔離又ハ繫留中ニ要スル飼養管理費及返還ニ要スル費用
三　抑留シタル犬ヲ返還スル場合ニ於テ其ノ犬ノ抑留中ニ要シタル飼養管理費用
四　家畜傳染病豫防法第九條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ指揮ヲ待タスシテ消毒ヲ行ヒタル場合ニ要シタル費用
五　屍體及物品ノ燒却又ハ埋却ニ要スル費用
六　家畜傳染病豫防法第八條第二項第五號ニ掲クル家畜ノ殺屍體ノ消毒ニ要スル費用

第四　屠場、化製場、家畜市場及之ニ附屬スル物品ノ消毒ニ要スル費用ハ場主又ハ開設者ノ負擔トス

第五　前各項ニ掲クルモノヲ除クノ外家畜傳染病又ハ畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

附　則

本令ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十二年一月二十日ヨリ施行）
明治三十四年勅令第百三十九號ハ之ヲ廢止ス

●畜牛結核病豫防法第十三條ノ規定ニ依リ下付スル手當金ノ最高金額ニ關スル件

（大正十年四月二十三日勅令第百二十五號）

畜牛結核病豫防法第十三條ノ規定ニ依リ下付スル手當金ノ最高金額ハ畜牛ニ在リテハ生後六月以上ノモノハ一頭ニ付百八十五圓、生後六月未滿ノモノハ一頭ニ付三十五圓トシ物品ニ在リテハ二十五圓トス

附　則

本令ハ大正十年法律第八十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十年五月一日ヨリ施行）

●獸類氷雪及其ノ他物件營業取締ニ關シ廳府縣令ヲ以テ規定スルノ件

（明治三十三年七月內務大臣訓第七九四號）

左ニ掲クル物件ニ關シテハ營業者ニ對シ本年法律第十五號ノ職權ヲ行フコトヲ得但シ第一條ノ職權ヲ行フヘキ場合ハ廳府縣令ヲ以テ規定セラルヘシ

一　獸肉及屠殺シ又ハ屠殺セントスル獸類
一　羊乳及山羊乳竝其羊及山羊

雪ニ關シテハ本年內務省令第三十七號氷雪營業取締規則施行ニ至ルマテ廳府縣ニ於テ適宜ノ取締規則ヲ設クルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ヲ準用ス

前二項ニ掲クルモノノ外飮食物其ノ他ノ物件ノ取締ニ關シ廳府縣令ヲ以テ本年法律第十五號ノ職權ヲ行フ規定ヲ設クルノ必要アルトキハ準請セラルヘシ

●獸疫豫防ニ關スル消毒藥使用ノ件

（明治三十八年五月二十四日　岐阜縣訓第一七號訓令）

一　消毒ヲ要スルハ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品（場所ヲモ含ム）ニ限ル

二　消毒藥品費ハ所有者又ハ管理者ニ命シテ消毒セシムルト雖モ當該吏員ニ於テ消毒ヲ施行スル場合トヲ問ハス其ノ費用ハ一箇所（初期ヨリ終期マテ）ニ就キ金三圓以内ヲ程度トス若シ其ノ範圍内ニ於テ執行シ得サルトキハ其ノ旨報告スヘシ但單ニ繫留セシ馬宿ノ類ハ本項ノ半額トス

三　前項ノ費用ハ勉ナクトモ十日以内ニ請求書ヲ進達スルコト

四　前項ノ請求書ハ（遞送拂ニ關スルモノハ同一文面ノ明細書添付ヲ要ス）物品供給者ヨリ請求セシムルモノトス但所有者管理者ニ於テ供給シタル場合ハ其ノ實費ヲ證明シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ

五　請求書ニハ署長ニ於テ消毒ヲ實施セシ年月日、場所、物品供給ノ年月日、施行ヲナシタル事實ノ證明ヲナスヘシ

六　獸疫發生轉歸報告ノ都度其ノ馬匹ニ要スル消毒藥概算費額ヲ報告シ備考欄内ニ附記スヘシ

●獸畜物品評價規程

（明治三十八年五月二十七日　岐阜縣訓第二〇號訓令）

第一條　本則ニ於テ評價人ト稱スルハ獸疫豫防法第四條第五條及第八條第一項竝畜牛結核病豫防法第六條及第十一條ノ場合ニ於ケル獸畜物品ノ價格ヲ評定スル者ヲ云フ

第二條　評價ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ當該官吏ニ於テ適任者三名乃至五名ヲ選定シ知事ニ具申スヘシ

第三條　評價人ハ三名以上出席スルニアラサレハ評價人會ヲ開クコトヲ得ス

第四條　獸疫豫防法ニ依ル評價ハ發病前、畜牛結核病豫防法ニ依ル評價ハ診斷確定前ノ價格ヲ評定スルモノトス

第五條　評價ハ公平ヲ主トシ他ノ評價人ト合議スルヲ許サス

第六條　評價書ニハ獸類ノ種類、牝牡、年齡、毛色、特徵（物品ニ付テハ其ノ品目、數量）及評價格ヲ記載シ署名捺印ノ上密封シ當該吏員ニ交付スヘシ

第七條　評價格ハ各評價格ノ平均ニ依リ決定スルモノトス

第八條　當該官吏ニ於テ評價格ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三名以上ノ評價人ヲシテ評定セシムヘシ

第九條　評價格決定シタルトキハ當該官吏ハ之ヲ獸畜所有者又ハ管理人ニ通知スヘシ

第十條　當該官吏ハ評價結了シタルトキハ其ノ狀況ヲ知事ニ報告スヘシ

第十一條　官吏ニアラサル評價人ニハ從事日數ニ應シ一日壹圓以内ノ手當竝明治三十年十月内務省令第三十七號内國旅費概則ニ依リ旅費ヲ支給スルコトアルヘシ

●畜牛結核病豫防法

（明治三十四年四月十三日　法律第三十五號）

沿革　明治三五年二月法第三號、四一年四月第四五號、大正三年三月第一〇號、一〇年四月第八四號改正

第一條　乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ハ結核病ノ有無又ハ輕重ヲ定ムル爲行政官廳ニ於テ之ヲ檢査ス其ノ他ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルモノニ付亦同シ

第二條　前條ノ檢査ハ臨床的診察ニ依リ又ハ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ行フ

第三條　檢査ノ期日及場所ハ行政官廳之ヲ指定ス

第一條ニ揭ケタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ指定ニ從ヒ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第四條　結核病ニ罹リ又ハ疑アル畜牛ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ之ヲ届出ツヘシ

第五條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第六條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第七條　外國ヨリ輸入スル畜牛及主務大臣ノ指定シタル地方ヨリ移入スル畜牛ハ特ニ定メタル場所ニ於テ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ檢査ス但シ主務大臣ニ於テ必要ナシト認メタル畜牛ニ對シテハ「ツベルクリン」ノ應用

ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ檢査ニ關シテハ稅關長及檢査員ノ指揮ニ從フヘシ

第一項ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルトキハ稅關長又ハ檢査員ニ於テ其ノ輸入又ハ移入ノ禁止、繫留其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第八條 前條ニ依リ輸入又ハ移入ヲ禁止セラレタル者畜牛ヲ撲殺セムトスルトキハ稅關長及檢査員ノ指揮ニ從フヘシ

第九條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體及其ノ部分、畜牛ヲ置キタル場所竝病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁竝屍體及其ノ部分ハ皮角蹄ヲ除クノ外檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁竝屍體及其ノ部分ノ處分方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第十一條 結核病ニ罹リタル畜牛ヲ置キタル場所竝病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ檢査員ニ於テ其ノ燒棄又ハ埋却ヲ命スルコトヲ得

第十二條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却シタル場所ハ三箇年間之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 第六條又ハ第十一條ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄シ若ハ埋却シタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ所有者ニ對シ畜牛又ハ物品ノ評價額ノ二分ノ一ニ相當スル手當金ヲ下付ス但シ勅令ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ畜牛又ハ物品ノ評價ハ地方長官ノ選定スル三人以上ノ評價人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 左ノ場合ニ於テハ畜牛ノ手當金ヲ下付セス

一 檢査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ又ハ妨ケタルトキ

二 第四條、第五條又ハ第六條ニ違背シタルトキ

三 檢査ヲ受ケシテ第七條ノ畜牛ヲ輸入又ハ移入シタルトキ

左ノ場合ニ於テハ物品ノ手當金ヲ下付セス

一 前項各號ノ一ニ該當スルトキ

二 第九條、第十條第一項又ハ同條第二項ニ基ツキテ發シタル命令ニ違背シタルトキ

三 第七條第二項、第三項又ハ第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサルトキ

第十五條 手當金ヲ受クヘキ者其ノ全部又ハ一部ヲ拒否スル處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十六條 畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫、北海道地方費、府縣及一個人ニ於テ之ヲ負擔ス

第十七條 檢査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者、檢査ヲ受ケシテ第七條ノ畜牛ヲ輸入若ハ移入シタル者、第五條若ハ第六條ニ違背シタル者又ハ第七條第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第四條、第九條、第十條第一項若ハ第十二條ノ命令ニ違背シタル者又ハ第七條第二項、第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ處罰ニ關シテ之ヲ準用ス

附 則

本法ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ外國ヨリ輸入スル畜牛ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十年法律第八十四號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年四月勅令第百二十四號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行)

本法施行前第六條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄シ若ハ埋却シタルニ因リ下付スル手當金ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●畜牛結核病豫防法施行規則

（明治三十六年五月三十日農商務省令第四號）

沿革　明治三七年五月農商務省令第五號、三八年三月同第九號、四一年四月同第八號、四二年五月同第一五號、大正三年三月同第一一號、五年七月同第一八號、九年六月同第一〇號、一三年一二月同第二八號改正

第一條　外國種牛トハ歐羅巴種及亞米利加種ノ畜牛ヲ謂フ

雜種牛トハ外國種牛ノ血統ト其ノ他ノ畜牛ノ血統トヲ有スル畜牛ヲ謂フ

內國種牛トハ外國種牛及雜種牛ニ非サル畜牛ヲ謂フ

乳用牛トハ搾乳用ニ供シ又ハ供セムトスル畜牛ヲ謂フ

雜種種牡牛トハ雜種牛ニシテ種牡牛檢查ニ合格シタル畜牛及其ノ檢查ヲ受ケムトスル畜牛ヲ謂フ

第二條　乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官カ告示シタル檢查期日三十日前迄ニ其ノ住所、氏名、畜牛ノ頭數、種類、牝牡、年齡、毛色、用途及所在地ヲ畜牛ノ所在地ヲ管轄スル官廳又ハ公署ニ屆出ツヘシ

前項屆出期間後新ニ檢查未濟ノ畜牛ヲ所有シ又ハ管理スルニ至リタル者ハ前項ニ準シ三日以內ニ屆出ツヘシ

檢查未濟ノ畜牛ニ關シ前二項ノ屆出事項ニ變更アリタルトキハ三日以內ニ之ヲ屆出ツヘシ但シ畜牛所在地ノ變更ニシテ他ノ官廳又ハ公署ノ管轄區域ニ亙ルトキハ新舊兩地ノ官廳又ハ公署ニ屆出ツヘシ

第三條　地方長官ハ一箇年每ニ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ノ檢查ヲ行フ但シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ對シ二回以上之ヲ行フコトヲ得

地方長官ハ隨時結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ檢查ヲ行フコトヲ得

結核病ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ檢查ヲ請求スルコトヲ得

射シタルモノニ付テハ皮下注射後四十五日ヲ經ルニ非サレハ檢查ヲ請求スルコトヲ得ス

第四條　前條第一項ノ檢查ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ定メ檢查ノ期日ヨリ少クトモ四十五日以前ニ之ヲ告示ス

官廳又ハ公署必要ト認ムルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ前項告示以外ノ期日又ハ場所ヲ指定スヘシ

前條第二項ノ檢查ノ期日及場所ハ官廳又ハ公署隨時之ヲ指定スヘシ

第五條　官廳又ハ公署ハ前條第一項ノ期日及場所ノ範圍內ニ於テ日時及場所ヲ指定ス

第六條　地方長官檢查ノ爲必要ト認ムルトキハ期間及區域ヲ定メ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ノ移轉ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得但シ期間ハ三十日ヲ、區域ハ一郡又ハ一市ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ命令ハ移轉ノ禁止又ハ制限ノ期間ノ初日ヨリ少クトモ十五日以前ニ於テ之ヲ發スヘシ

第七條　正當ノ事由ニ依リ檢查ノ日時又ハ場所ニ於テ檢查ヲ受クルコト能ハサル者ハ豫メ其ノ旨ヲ官廳又ハ公署ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ官廳又ハ公署ハ其ノ者ニ付キ別ニ檢查ノ日時又ハ場所ヲ指定スルコトヲ得

第八條　「ツベルクリン」ノ應用ニ依ル檢查ノ方法ハ皮下注射、皮膚注射及點眼法トス

第九條　「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ左ノ各號ノ一ニ該當スル畜牛ハ之ヲ重症結核病ニ罹リタル畜牛トス其ノ反應顯著ナラサルモ結核病ノ臨床的症狀重大ナルモノ亦同シ

一　乳房結核
一　重症肺結核
一　汎發結核
一　前各號ノ外著シク營養ヲ損害セル結核諸症

「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ臨床的症狀輕微ナル畜牛ハ之ヲ輕症結核病ニ罹リタル畜牛トス

「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應顯著ナラスシテ臨床的症狀疑ハシキ畜牛ハ之ヲ結核病ニ罹リタル疑アル畜牛トス

第十條　檢查員檢查ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　健全ナル畜牛ニ付テハ臨床的診察ノ方法ニ依ルモノニハ第三號樣式ノ一ノ健康證ヲ、臨床的診察及「ツベルクリン」

ノ應用ニ依ルモノニハ第三號樣式ノ二ノ健康證ヲ交付ス

一　重症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ直徑五分ノ圓形孔ヲ穿ツ

一　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ第四號樣式ノ耳標ヲ付ス

一　結核病ノ疑アル畜牛ニハ左耳ニ第五號樣式ノ耳標ヲ付ス

前項第一號ノ健康證ハ次回檢査ノトキ之ヲ返付セシメ第三號及第四號ノ耳標ハ之ヲ付スヘキ事由消滅シタルトキハ之ヲ除去スヘシ

第一項第一號ノ健康證ヲ交付シタル畜牛ニシテ「ツベルクリン」皮下注射後第三條第三號但書又ハ第二十四條第一項ニ規定シタル期間ヲ經過セサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ直ニ其健康證ヲ返付セシメ耳標ヲ除去シタルモノナルトキハ更ニ同一ノ耳標ヲ付スヘシ

第十一條　前條ノ耳標ニ毀損又ハ喪失アリタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ遲滯ナク官廳又ハ公署ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキ及檢查員又ハ警察官ニ於テ耳標ノ毀損若ハ喪失ヲ發見シ又ハ毀損若ハ喪失ノ虞アリト認ムルトキハ前條ニ準シ更ニ耳標ヲ付スヘシ

第十二條　畜牛ノ所有者又ハ管理者檢查員ノ指定シタル隔離ノ方法若ハ場所ヲ變更セムトスルトキハ檢查員ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ノ檢查ハ大阪府大阪港、神奈川縣橫濱港、兵庫縣神戸港、長崎縣長崎港、同縣嚴原港、山口縣下關港及福井縣敦賀港ニ於テ之ヲ行フ

第十四條　稅關長ハ畜牛ノ輸入又ハ移入ノ申告アリタルトキハ檢查ノ日時、場所其ノ他檢查ノ爲必要ナル事項ヲ輸入又ハ移入申告者ニ通知スヘシ

第十五條　檢查員外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ノ檢查ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　健全ナル畜牛ニ付テハ臨床的診察ノ方法ニ依ルモノニハ第三號樣式ノ二ノ健康證ヲ交付ス

一　重症結核病ニ罹リタル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第六號樣式ノ記號ヲ烙印ス

一　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第七號樣式ノ記號ヲ烙印ス

一　結核病ノ疑アル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第八號樣式ノ記號ヲ烙印ス

第十六條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ撲殺ハ埋却若ハ燒棄スヘキ場所又ハ認可ヲ經タル裝置ヲ有スル化製場ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十七條　輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ヲ屠殺セムトスルトキハ檢查員又ハ所轄警察官署ノ指揮ヲ受ケ屠獸場內特ニ屬獸シタル場所ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ正當ノ事由アルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ得其ノ他ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條　結核病ニ罹リタル畜牛ノ屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ移動セムトスルトキハ檢查員又ハ所轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設ヲ爲スヘシ

第十九條　畜牛ノ死後結核ノ病的變狀又ハ之ニ疑ハシキ症狀ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ檢查員又ハ所轄警察官署ニ屆出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛斃死シタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ直ニ檢查員又ハ所轄警察官署ニ屆出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十一條　輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ヲ屠殺シタル場合、前條ノ場合又ハ畜牛ノ死後ニ於テ結核ノ病的變狀ヲ發見シタル場合ニ於テ結核ノ病的變狀一臟器及其ノ淋巴腺ニ局限セルカ又ハ結核ノ病的變狀二三ノ臟器及其ノ淋巴腺ニ局限セルカ又ハ結核ノ病的變狀ヲ呈セサルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ檢查員、屠畜檢查

員又ハ所轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ患部及之ニ近接セル組織ヲ切除シ之ヲ燒棄又ハ消毒ノ上埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ臟器及其ノ淋巴腺ニ於ケル結核ノ病的變狀蔓延セルトキ又ハ急性結核ノ變狀ヲ呈スルトキハ重症結核ニ罹リタル畜牛ニ準シ之ヲ處分スヘシ

第二十二條　地方長官ハ所屬ノ官吏、吏員及獸醫ノ中ヨリ檢查員ヲ命シ所屬ノ官吏吏員又ハ郡市町村吏員及畜産業ニ經驗アル者ノ中ヨリ評價人ヲ命スヘシ

第二十三條　檢查員タルヘキ獸醫ハ助手ノ職務ノミヲ行フ者ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　畜牛結核病檢查講習生規則第六條ノ修業證書ヲ有スル者

二　官立學校ニ於テ獸醫學ヲ修メ其ノ卒業證書ヲ有スル者

三　獸疫調查所ニ於テ六月以上畜牛結核病ニ關スル試驗ニ從事シ其ノ證明書ヲ有スル者

四　三年以上檢查員トシテ助手獸醫ノ職務ヲ行ヒタル者

第二十四條　地方長官又ハ官廳又ハ公署ノ告示又ハ指定シタル檢查期日四十五日以前ヨリ檢查確定ニ至ル迄乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ニ「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ爲スコトヲ得ス

地方長官ノ許可ヲ受ケタル者又ハ獸醫ニ非サレハ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ニ「ツベルクリン」ノ應用ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ正當ノ事由ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十五條　前條第二項及第三項ニ依リ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ニ「ツベルクリン」ノ應用ヲ行ヒタル者ハ遲滯ナク檢查員又ハ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第二十六條　地方長官ハ每年少クトモ一回畜牛結核病豫防ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十七條　地方長官ハ第三條ニ依リ行ヒタル檢查ノ成績及其ノ狀況ヲ翌年四月三十日限リ第九號樣式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十八條　畜牛結核病豫防法第四條ノ屆出ハ檢查員又ハ畜牛ノ現在地ヲ管轄スル警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

第二十九條　畜牛結核病豫防法第十條ニ規定スル化製裝置ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ所轄警察官署ヲ經由シテ地方長官ニ出願スヘシ

第三十條　畜牛結核病豫防法第十二條ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ埋却ノ年月日及發掘ノ事由ヲ具シ所轄警察官署ニ出願スヘシ

第三十一條　檢查員、評價人、其ノ他行政廳ノ命ヲ承ケテ公務ヲ行フ者畜牛結核病豫防法又ハ本則ノ行ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　第十條ノ記號ヲ滅失セシメ又ハ耳標ヲ毀損又ハ喪失セシメタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條　第三條第三項但書ニ違背シテ檢查ヲ受ケタル者又ハ第六條第一項ノ命令ニ違背シ若ハ第二十四條ニ違背シタル者ハ二十日以下ノ重禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第二條、第七條第一項、第十七條、第十八條、第二十一條、第二十五條、第三十七條ニ違背シタル者及第十九條、第二十條ノ屆出ヲ爲サス又ハ指揮命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十五條　本則中地方長官ノ職務ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

第三十五條ノ二　本則中ノ官廳又ハ公署ハ地方長官ノ指定スル所ニ依ル

第三十六條　本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年農商務省令第六號輸入畜牛結核病檢查規則ハ之ヲ廢止ス

第三十七條　本則施行ノ際ニ限リ第二條第一項ノ届出ハ七月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ
第二條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第一號樣式及第二號樣式（削除）

第三號樣式ノ一

（五寸五分）

表

白色（三寸八分）

第　號　畜牛健康證　住所
所有者（管理者）
（輸入、移入申告者）　何　某

種類	用途
名號	牝　牡
年齡	
毛色	
特徵	

右臨床檢査ヲ遂ケシ處結核病ノ症候ヲ認メス

年　月　日　廳　府　縣（稅關）　印證

裏

檢査員署名捺印	檢査年月日	備考

第三號樣式ノ二

（五寸五分）

表

青色（三寸八分）

第　號　畜牛健康證　住所所有者（管理者）（輸入、移入申告者）　何　某

種類		用途	
名號	牝牡		
年齡		毛色	
特徵			

右臨床及「ツベルクリン」應用檢查（皮下注射、皮膚注射又ハ點眼法）ヲ遂ケシ處結核病ノ症候ヲ認メス

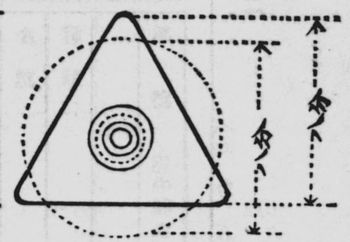
年　月　日　廳府縣（稅關）印證

裏

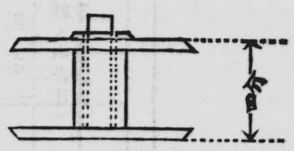
檢查員署名捺印	檢查年月日	備考

第四號樣式耳標

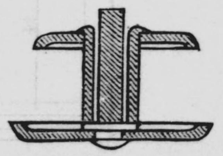
平面



立面

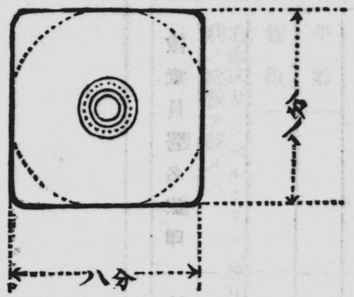


斷面

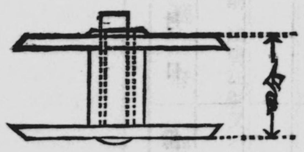


第五號樣式耳標

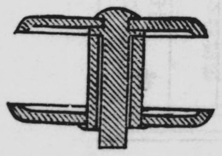
平面



立面



斷面



第六號樣式

縱 二寸五分

橫 二 寸

第七號樣式

縱 二寸五分

橫 二 寸

第八號樣式

縱 二寸五分

橫 二 寸

第九號樣式

明治何年甲(乙)號畜牛結核病檢査成績報告

成績表

廳府縣

種類	用途	檢査牛數				檢査成績							
		「ツベルクリン」注射ヲ行ヒタルモノ	「ツベルクリン」注射ヲ行ハサルモノ	計	健康牛		疑症牛		輕症牛		重症牛		
					二歳以上	二歳未滿	二歳以上	二歳未滿	二歳以上	二歳未滿	二歳以上	二歳未滿	評價額	手當額
內國種	乳用牛													
	種牡牛													
	其ノ他ノ畜牛													
	合計													
外國種	乳用牛													
	種牡牛													
	其ノ他ノ畜牛													
	合計													
雜種	乳用牛													
	種牡牛													
	其ノ他ノ畜牛													
	合計													
總計														

檢査ノ狀況

年　月　日

農商務大臣宛

地方長官名

備考

第三條第一項ニ依リ行ヒタル檢査ノ成績報告ニハ甲號ト記シ第二項及第三項ニ依リ行ヒタル檢査ノ成績報告ニハ乙號ト記スヘシ

內國種ノ欄中種牡牛及其ノ他ノ畜牛ノ欄ニハ內國種牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルモノノ檢査成績ヲ記スヘシ

檢査ノ狀況ノ項ニハ檢査ノ始期、終期、檢査ノ日數、檢査員及評價人ノ資格、人員、豫防ニ關スル施設、畜産業ニ及ホシタル影響等ヲ記スヘシ

第十號樣式

輸入畜牛結核病檢查成績報告

成績表

輸出國	用途	檢查牛數										檢查成績					
		二歲以上二歲未滿	計	健康牛 二歲以上	健康牛 二歲未滿	疑症牛 二歲以上	疑症牛 二歲未滿	輕症牛 二歲以上	輕症牛 二歲未滿	重症牛 二歲以上	重症牛 二歲未滿						
合計																	

檢查ノ狀況

年　月　日

農商務大臣宛

稅關長　名

稅關

備考

檢查ノ狀況ノ項ニハ輸入ノ年月日、檢查ノ期日、輸入ノ禁止及撲殺頭數、畜牛ノ繫留其ノ他ノ處分及豫防ニ關スル施設等ヲ記スヘシ

●畜牛結核病豫防法施行手續

（明治三十六年九月七日岐阜縣訓令第五十號）

沿革　明治三七年六月訓令第三二號、三八年四月同第三一號、四四年訓令甲第五七號、大正三年五月同第二二號改正

警察署　警察分署

第一條　警察官署ハ畜牛結核病豫防法施行規則以下單ニ施行規則ト記ス第二條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ第一號樣式ニ依リ屆出期日滿期ノ翌日ヨリ五日以內ニ報告スヘシ其ノ變更屆ヲ受ケタルトキハ變更ニ係ル事項ヲ其ノ都度報告スヘシ

第二條　警察官署ハ前條ノ屆出ニ依リ第二號樣式ノ畜牛檢查簿ヲ製シ施行規則第十條ノ成績ヲ記入シ整理スヘシ

第三條ノ一　警察官署ハ施行規則第三條ニ依リ行ヒタル檢查ノ成績及狀況ヲ檢查終了後十五日以內同則第九號樣式ニ準シ報告スヘシ

第三條ノ二　警察官署ハ輕症結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ檢查確定後第二號樣式ニ準シ直ニ報告スヘシ其ノ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　警察官署ハ部內ニ於ケル畜牛ニ對シテハ常ニ注意ヲ加ヘ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルモノナキヤヲ視察スヘシ前項ニ依リ檢查ヲ要スヘキモノアリト認メタルトキハ其ノ都度畜牛ノ所在地、所有者又ハ管理者竝頭數ヲ報告スヘシ

第五條　施行規則第四條第二項ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由竝期日又ハ場處ヲ記シ申請スヘシ

第六條　施行規則第四條第三項ノ期日、場處及同第五條ノ日時、場處竝第七條第二項ノ者ニ對シ日時、場所ヲ指定セムトスルトキハ讓メ知事ニ申報シ指揮ヲ受クヘシ

第七條　施行規則第六條ノ禁止又ハ制限ノ必要アリト思料シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ報告スヘシ

第八條　施行規則第十六條ニ依リ畜牛ヲ撲殺スルトキハ之ニ監臨シ必要ノ指揮ヲ爲スヘシ

第九條　施行規則第十八條ノ運搬器ハ堅牢ニシテ血液其ノ他汚汁ノ滲漏セサル有蓋ノ器物ヲ用キシムヘシ

第十條　施行規則第十九條第二十條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ同第二十一條ニ依リ處置セムトスルモノノ外ハ直ニ燒棄又ハ

埋却セシムヘシ

第十一條 施行規則第二十五條ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ都度報告スヘシ

第十二條 畜牛結核病豫防法第四條ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ報告スヘシ

（第一號樣式）

畜牛所在地 市町村名	乳用牛	外國種牛	雜種種牡牛	計

（第二號樣式）

檢査成績	處置及其ノ年月日	種類	用途	牝牡	毛色	年齢	特徵	所在地	所有者又ハ管理者氏名
健康	明治何年何月何日健康證付與								
疑症	明治何年何月何日隔離								
輕症	明治何年何月何日隔離								
重症	明治何年何月何日撲殺								

備考

健康牛、病牛ノ二册ニ分チ内國種、外國種、雜種ヲ區別シ尙乳用牛、種牡牛其ノ他ノ畜牛ヲ口分ケニスヘシ

（病牛ニアリテハ更ニ要症牛、疑症牛ニ區別スルヲ要ス）隨時檢査ノ場合亦同シ

●獸疫豫防消毒ノ件

（明治三十八年五月十日 岐阜縣訓令第三十八號）

第四部 警察署 警察分署

近來縣下ニ於ケル獸疫ノ流行ハ重ニ假性皮疽病ニ關スト雖其ノ病勢漸ク激甚ヲ加ヘ年々百數十頭ノ病馬ヲ出セリ該病ハ秋季ニ發シ夏季ニ至リテハ終熄スルヲ常トスルヲ以テ殖産上ニ及ボス影響決シテ尠少ニアラサルナリ豈ニ寒心セサルヘケンヤ時恰モ夏季ニ向フヲ以テ病勢漸次衰退ニ傾クト雖此際ニ於テ充分豫防消毒ノ方法ヲ勵行シ以テ病毒ノ撲滅ヲ圖ラスンハ秋季ニ於テ再ヒ流行ノ禍害ヲ蒙ルヤ必セリ獸疫ノ流行ハ觸リ地方畜産ノ發達ヲ妨クルノミナラス國家經濟ノ上ニ於テ多大ノ損害ヲ來スヤ明カナリ況ヤ殊ニ軍馬ノ需用益々急ヲ告クルノ今日ニ於テヤ各員宜ク此意ヲ體シ豫防消毒ヲ勵行シ以テ防疫上遺算ナキヲ期スヘシ

●畜牛結核病豫防法施行規則第三十五條ノ二ニ依ル官廳又ハ公署

（大正三年四月十六日 告示第百二十六號）

明治三十六年五月農商務省令第四號畜牛結核病豫防法施行規則第三十五條ノ二ニ依ル官廳又ハ公署ハ左ノ通相定ム

警察署 警察分署

●畜牛結核病豫防法施行規則第二十一條第一項ニ依リ措置シタル殘部取締方

（明治三十六年六月衛甲第三九號）

今般農商務省令第四號ヲ以テ畜牛結核病豫防法施行規則發布相成候處同規則第二十一條第一項ニ依リ措置シタル殘部ニハ結核ノ外衛生上危害ノ虞アル疾病ニ罹リ若ハ不良ノ肉モ可有之ニ付其販賣ノ用ニ供スルト否トヲ問ハス凡テ從來縣令ヲ以テ發布相成居候食肉又ハ鬻獸等ニ關スル取締規則ニ依リ相當御處理相成度依命此段及通牒候也

（明治三十六年八月十五日農商務省告示第百六十九號）

●畜牛結核病豫防心得

畜牛結核病ハ他ノ獸畜傳染病ト自ラ其ノ性質ヲ異ニシ病性頑固ニシテ汎ク牛群ニ蔓延シ人畜衛生及農業經濟ニ及ホス危害極メテ大ナリ抑本病ハ歐羅巴種牛ノ一部ニ原發シ漸次各國ニ傳播セシモノニシテ從來本邦土產ノ畜牛ハ殆ント之ニ罹ルモノナカリシモ外國種雜種ノ畜牛增殖スルニ隨テ結核病ハ年ヲ逐テ蔓延シ其ノ勢ノ熾ナル底止スル所ヲ知ラサルモノノ如シ今ニ迨ンテ之カ制遏ノ法ヲ講セスンハ他日防禦ノ策ナキニ至ラン畜牛飼養者ハ單ニ法令ノミニ一任セス能ク本病ノ性質ヲ知悉シ各自警戒ヲ加ヘ日常自衛ノ法ヲ怠ラサルヲ要ス仍テ左ニ本病ノ性質、原因、傳染ノ狀態及自衛法ノ要點ヲ掲ク

第一項　結核病ハ結核菌ト稱スル一種ノ細菌ニ原由スル慢性難治ノ傳染病ニシテ家畜ノ中牛、豕最モ之ニ罹リ易ク犂ニハ馬、犬、羊、山羊、家畜等ニ傳染ス牛ニ於テハ主トシテ肺臟、胸膜、腹膜及淋巴腺ニ發シ又關節、乳房、生殖器、腸及腦ヲ侵スコトアルモ他ノ臟器ニ發スルハ犂ナリ馬、豕、鷄、犬ニ於テハ主トシテ腸及其ノ他ノ腹腔臟器ノ結核ヲ見ル結核菌ハ病原菌ノ中比較的抵抗力ニ富ミ乾燥スルモ容易ニ毒力ヲ失ハス能ク溫熱、腐敗作用ニ耐フ乳汁ノ如キ液體中ニ在リテハ熱ニ對スル抵抗力薄弱ニシテ攝氏七八十度ノ熱ヲ加フレハ概ネ五分時乃至十分時ニシテ毒力ヲ失フ腐敗物中ニ在リテハ百餘日間毒力ヲ存スルコトアリ消毒藥ニ對スル抵抗力モ亦他ノ病毒ト異ニシテ克ク昇汞ニ抵抗シ其ノ千倍溶液ノ如キハ十數時ノ後始メテ僅ニ結核菌ヲ殺シ得ルノミ獨リ日光ノ消毒力ハ較々強ク數分間乃至數時間ニシテ其ノ毒力ヲ失ハシム

第二項　從來結核病傳播ノ原因ニ付テハ重キヲ遺傳ニ置キタルト雖モ實驗ニ徵スレハ疾病其ノモノノ遺傳ハ稀有ニシテ僅ニ素因ヲ傳フルニ過キス牡牛ノ生殖器結核ハ交尾ノ際牝牛ニ傳染スルコトナキニアラサルモ牡系ヨリ胎兒ニ傳染セシ適例ハ未タ證明スルヲ得ス又母牛ノ結核病ハ胎盤ニ發生スルカ或ハ其ノ血液中ニ多數ノ結核菌ヲ含有スルニアラサレハ胎兒ニ傳ハルコトナシ故ニ胎內傳染ノ例モ亦極メニ少數ニ止ルモノトス

第三項　結核病ハ他ノ傳染病ノ如ク概ネ出產後ノ傳染ニ由ル傳染ノ本源ハ結核病牛其ノモノニシテ病毒ハ專ラ呼氣、咯痰、唾液、乳汁、創液、糞尿等ニ含有セラレ直接又ハ間接ニ他ノ健獸ニ傳染ス但シ間接傳染ノ媒介トナルモノハ畜舍、舍內器具、學草、取扱人等ナリ

第四項　結核病毒侵入ノ徑路ハ呼吸器及消化器ニシテ犂ニハ皮膚及粘膜ノ創傷ヨリ侵入ス其ノ最モ普通ノ傳染狀態ハ左ノ如シ

一　呼吸器ハ結核病毒ノ侵入スル普通ノ徑路ニシテ畜舍內ノ傳染ハ概ネ之ニ基ク是レ呼吸器結核ノ多キ所以ナリ結核病毒ハ咳嗽ノ如キ深强ノ呼吸ヲ爲ス際咯痰霧狀ヲナシテ呼氣中ニ飛散シ又ハ塵埃ニ含有セラレ健牛ノ吸入スル所トナル換氣不良ニシテ殊ニ多數ノ牛ノ密棲セル畜舍ニ於テ此危險最甚シトス

二　消化器傳染ハ呼吸器傳染ニ比スレハ較々尠ナクシテ結核病毒ヲ含有セル飼料、蓐藁、飲料水、乳汁、結核臟器等ヲ攝取スルニ由ル馬、豕、鷄、犬等ノ結核病ハ概ネ此原因ニ出ツ

三　犢ハ呼吸器傳染ノ外屢々結核菌ヲ含有セル乳汁又ハ澁乳ヲ飲用スルニ由テ本病ニ感染ス

第五項　結核病傳染ノ難易及其ノ病勢ハ病毒ノ多少、性質ニ由ルト雖又大ニ動物體質ノ强弱ニ關ス體質强健ナレハ假令病毒ニ觸ルルモ容易ニ之ニ感染セス之ニ反シ體質虛弱ナレハ傳染シ易ク且重症ニ陷ルノ傾多シ之ヲ素因ト謂フ

主要ナル素因ハ胸廓ノ發育不全、營養不給、呼吸器及消化器ノ加答兒ニシテ其ノ他不合理ノ搾乳、不良ノ飼料、換氣ノ失宜、小舍內畜牛ノ密集、運動ノ不足、早齡ノ交尾等ハ何レモ素因タラサルナシ故ニ畜牛ノ飼養者ハ努メテ這般不攝生ノ事

項ヲ遵守サルヘカラス

第六項

一　畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ平素牛畜ノ健康狀態ニ注意シ咳嗽、淋巴腺ノ腫脹、毛滅ノ粗硬其他結核病ノ疑ヲ生セシムル徴候ヲ認ムルトキハ直ニ獸醫ヲ招キ臨床的診察竝「ツベルクリン」ノ注射ヲ請ヒ本病ニ罹リタルモノ又ハ其ノ疑アルモノハ自家ノ牛群ヨリ排斥シ健牛ノミヲ以テ蕃殖ヲ圖ルヘシ

二　健牛ト病牛トノ隔離ヲ厲行シ相互ノ交通ヲ絶チ病牛ニハ特別ノ器具ヲ用ヒ成ルヘク異リタル管理人ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ已ムヲ得ス同一人ヲシテ健牛竝病牛ヲ取扱ハシムルトキハ毎次健牛ヲ先ニシ次テ病牛ノ管理ヲナシ後石鹸水、石炭酸水等ヲ以テ其ノ手指ヲ洗滌スヘシ

三　輕症結核病ニ罹リタル畜牛又ハ結核病ノ疑アルモノノ產出セシ犢ハ出產後直ニ母牛ヨリ之ヲ隔離シ攝氏八十度以上ノ熱ヲ加ヘタル健牛ノ乳汁ヲ以テ人工的哺乳ヲナスヘシ哺乳器及哺乳者ノ手指ハ微溫石鹸水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

四　購入シタル畜牛ハ先ツ別舍ニ繫キ臨床的診察及「ツベルクリン」注射ヲ行ヒ健全ト認メタル後ニアラサレハ自家ノ牛群中ニ混入スヘカラス

第七項　結核病牛ノ附近ニハ豕、鷄、犬等ヲ接近セシメサル樣注意スヘシ

第八項　排水設備ノ良否ハ畜舍內外ノ空氣ノ淨否ニ大ニ關係アルモノニシテ排水法不完全ナルトキハ排泄物及其ノ他ノ汚物ハ停滯シテ大氣ハ其ノ發散セル不淨ノ分子ヲ含有スヘク動物ハ此ノ如キ不潔ノ大氣ヲ呼吸スルニ因テ終ニ其ノ健康ヲ傷フニ至ルヘシ故ニ畜舍內外ノ排水設備ハ完全ナランコトヲ期スヘシ

第九項　病牛ノ糞尿、其ノ他ノ排泄物、寢藁等ハ充分ニ消毒ヲ行ヒ病毒ノ浸潤シタル床土、運動場ノ表土等ハ新鮮ナル土砂ト取換フヘシ

本項ニ依リ消毒シタル排泄物等ハ充分日光ニ曝シタル後肥料トシテ使用スルハ妨ナシ

第十項　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁ハ法律ノ規定ニ從ヒ廢棄處分ヲ行フコト言ヲ俟タスト雖輕症結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル牛畜ノ乳汁モ危險ノ虞レアルカ故ニ攝氏八十度以上ノ熱ヲ加ヘタル後ニアラサレハ人畜ノ飲用ニ供セサルヲ安全ナリトス

●畜牛結核病豫防法ニ依ル檢查員執務規程

（明治三十六年八月十五日農商務省訓令第九號）

沿革　明治三七年四月農商務省訓令第五號、三八年四月同第一〇號、四三年五月同第一〇號、大正三年四月同第六號、九年七月同第五號改正

第一條　檢查員ハ其ノ職務ノ執行ニ關シ上司ノ指揮命令ヲ遵奉シ公平誠實ヲ旨トスヘシ

第二條　檢查員ハ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ結核病ノ豫防制遏ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スヘシ

第三條　畜牛ノ所有者又ハ管理者中其畜牛ノ種類ヲ誤リ又ハ知ラサルカ爲法令ノ規定ニ違反セル者アルコトヲ發見シタルトキハ懸篤ニ之ヲ說諭シ法令ノ規定ニ依ラシムヘシ故意ニ法令ニ違反セル者ニ關シテハ直ニ告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　檢查ノ爲牽付タル畜牛ハ成ルヘク其外貌ニ依リ健康ナルモノト異狀アルモノトヲ區別シ各別ニ之ヲ繫留セシムヘシ

「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ檢查ヲ行フ場所ニハ成ルヘク寒冒ヲ防キ消毒ニ便ナル施設ヲ爲スヘシ

第四條ノ二　乳用牛、外國種牛、雜種種牡牛及結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ檢查スヘシ但シ營利ノ目的ノ搾乳用ニ供セサル乳用牛及種牡牛ニ非サル外國種牛ハ「ツベルクリン」ノ應用ニ依ラサルコトヲ得

第四條ノ三　「ツベルクリン」ノ應用ニ依ル檢査ハ皮下注射ノ方法ニ依ルヘシ但シ檢査員ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ皮膚注射又ハ點眼法ヲ行フコトヲ得

第四條ノ四　「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ行ヒタル後四十五日以內ニ檢査ヲ爲ス場合ニ於テハ臨床的診察、皮膚注射又ハ點眼法ニ依ルコトヲ得

第四條ノ五　「ツベルクリン」ノ皮下注射ニ依ル結核病タル反應ハ「ツベルクリン」注射後攝氏一度以上ノ增溫ヲ呈シ熱候稽留スルモノトス

皮膚注射ニ依ル結核病タル反應ハ注射部胡桃大以上ノ限局性腫脹ヲ呈スルモノトス

點眼法ニ依ル結核病タル反應ハ結膜蒼白ク潮紅シ淚液又ハ膿樣液ノ漏出スルモノトス

第五條　「ツベルクリン」ハ稀釋シタルモノト否トヲ問ハス光線ヲ遮リタル淸凉ナル場所ニ置クコトヲ注意スヘシ

第六條　皮下注射ニ用フル「ツベルクリン」ハ濃厚「ツベルクリン」一分ニ煮沸水ヲ以テ溶解シタル二百倍ノ石炭酸水九分ヲ加ヘテ之ヲ稀釋スヘシ

皮膚注射ニ用フル「ツベルクリン」ハ濃厚「ツベルクリン」一分ニ滅菌蒸餾水一分ヲ加ヘテ之ヲ稀釋スヘシ

點眼法ニハ濃厚「ツベルクリン」ヲ用フヘシ

第七條　檢溫器ハ感度銳敏ニシテ標準トスヘキ正確ナル檢溫器ニ對照シテ度數ノ加減ヲ明確ニシタル堅牢ナルモノヲ用フヘシ

第八條　注射器ハ注射ニ用ユル前又ハ注射ニ用ヰタル每ニ二十倍ノ石炭酸水又ハ酒精ヲ以テ消毒ヲ行ヒタル後煮沸水ニテ洗淨スヘシ

第九條　左ノ畜牛ハ檢查猶豫ノ取扱ヲナスコトヲ得

一　結核病以外ノ疾病又ハ傷痍ノ爲メ檢查ヲ受クルコト能ハサルモノ

一　分娩前一箇月以內若ハ分娩後十日以內ノモノ

一　六箇月未滿ノ幼牛

第十條　「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ行ハムトスルトキハ其ノ當日注射前ニ三回體溫ヲ檢スヘシ

第十一條　「ツベルクリン」ヲ皮下注射スヘキ部位ハ頸部ノ側面トシ豫メ二十倍ノ石炭酸水又ハ酒精ヲ以テ消毒スヘシ

第十二條　皮下注射ニ用フル「ツベルクリン」ハ左ノ分量ニ依ルヘシ

一　成牛　〇・五乃至〇・六立方仙迷

一　一歲以上二歲未滿ノ畜牛　〇・三乃至〇・四立方仙迷

一　一歲未滿ノ幼牛　〇・一乃至〇・二立方仙迷

第十三條　「ツベルクリン」ヲ皮下注射シタル後第八時ヨリ第二十時ニ至ル迄二時間每ニ體溫ヲ檢スヘシ但シ最高溫度ニ達シタル後二回以上ノ檢溫ニ於テ其ノ溫度漸次下降スルコトヲ認メタルトキ又ハ二十時間以內ニ於テ常溫ニ復スルトキハ其ノ後體溫ヲ檢スルヲ要セス

前項ノ場合ニ於テ第二十時ニ至リ畜牛ノ發熱稽留シテ下降セサルトキハ第三十二時ニ至リ更ニ體溫ヲ檢スヘシ

第十三條ノ二　皮膚注射ヲ行フヘキ部位ハ尾根ノ鬚髮トシ豫メ酒精ヲ以テ消毒スヘシ

皮膚注射ニ用フル「ツベルクリン」ノ分量ハ〇・一立方仙迷トシ注射後第二十四時ニ注射部ヲ檢シ其ノ反應確實ナラサルトキハ相當時間後更ニ一回之ヲ檢スヘシ

第十三條ノ三　點眼法ヲ行フニハ右眼又ハ左眼ノ結膜囊內ニ二滴又ハ三滴ノ「ツベルクリン」ヲ點下シ點眼後第十二時ニ之ヲ檢シ其ノ反應確實ナラサルトキハ相當時間後更ニ一回之ヲ檢スヘシ

第十四條　畜牛ノ診斷ハ檢查中主任獸醫ニ於テ之ヲ爲シ助手獸醫ハ單ニ補助ノ職務ヲ行フヘシ但シ一年以上助手ノ職務ヲ行ヒタル獸醫ハ地方長官ノ命ヲ承ケ主任獸醫ノ職務ヲ代理スルコトヲ得

結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ臨床上ノ症狀及「ツベルクリン」ノ應用ニ依ル結核病タル反應ハ精密ニ之ヲ記錄シ檢查終了ノ後地方長官ニ報告スヘシ

第十五條　（削除）

第十六條　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ隔離ヲ命スルトキハ左ノ事項ヲ指示スヘシ

一　別棟ノ畜舍ニ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノミヲ繫留スル場合ニ於テハ他ノ畜牛ト接近セシメサルコト

一　同一畜舍内ニ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ト其ノ他ノ畜牛トヲ繫留スル場合ニ於テハ地盤ヨリ天井又ハ地盤ヨリ九尺ノ高サニ至ル迄土壁、木壁其ノ他堅牢ナル隔壁ヲ以テ舍内ヲ分劃シ出入口及排泄溝ヲ異ニシ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ト他ノ畜牛トヲ各別ニ繫留セシムルコト

一　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ他ノ畜牛ト交通ヲ絶タシムルコト但シ交尾ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　本條第一號及ヒ第二號ノ場合ニ於テ畜舍ニ附屬スル運動場アルトキハ輕症結核病ニ罹リタル畜牛及其ノ他ノ畜牛ニ付各別ニ運動場ノ區域ヲ指示スルコト

一　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ指定シタル畜舍若ハ運動場以外ニ出サシメサルコト但シ檢査員ニ於テ場所及方法ヲ指示シテ放牧若ハ使役ヲ認許シ又ハ相當ノ間隔ヲ置キ結核病ノ疑アル畜牛ヲ同一畜舍ニ繫留セシムルコトヲ得

第十七條　前條ノ規定ハ重症結核病ニ罹リタル畜牛及結核病ニ罹リタル疑アル畜牛ノ隔離ニ之ヲ準用ス但シ重症結核病ニ罹リタル畜牛ニ在リテハ放牧、使役又ハ交尾ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十八條　隔離ヲ命シタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ於テ讓渡其ノ他ノ警察官署ノ管轄區域ニ亙ルトキハ其ノ所轄警察官署ニ通ツルトキハ前二條ノ規定ニ依リ更ニ之ヲ指示シ變更ノ場所他ノ警察官署ニ通知スヘシ

隔離ヲ命シタル畜牛ヲ屠殺ノ爲隔離ノ場所ヨリ搬出スコトヲ願出ツルトキハ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設及屠殺スヘキ場所竝期間ヲ指示シ之ヲ許可スヘシ

第十九條　檢査員ハ隔離ヲ命シタル畜牛ヲ隨時監視スヘシ

第二十條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ヨリ搾取シタル乳汁ハ搾取後直ニ石炭酸水又ハ石灰乳ヲ混シ其ノ漏出ヲ防キ廢棄處分ヲ行フヘシ

第二十一條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ撲殺ハ檢査確定後十五日以内ニ之ヲ行ハシムヘシ

前項ノ畜牛ヲ撲殺ヲ行フヘキ場所ニ搬行ク場合ニハ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設ヲ爲スヘシ

第二十二條　消毒ノ方法、埋却スヘキ屍體ノ措置、屍體又ハ畜牛ヲ移動スル場合ニ於ケル病毒ノ散布ヲ防クヘキ施設及結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體、其ノ部分竝病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却スヘキ土坑、場所ニ付テハ獸疫豫防法施行細則及獸疫豫防心得ノ規定ヲ準用ス

●畜牛結核病檢查員職務章程

（明治三十八年四月十九日）
（岐阜縣訓令第二十九號）

沿革　明治四四年一〇月訓令甲第五八號、大正二年七月同第四四號、三年五月同第二三號改正

第一條　畜牛結核病檢查員ハ左ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

内務部　警察部　警察署　警察分署

畜牛結核病檢查員長　一名

畜牛結核病檢查員　若干名

第二條　畜牛結核病檢查員長（以下單ニ檢查員長トス）ハ内務部長ヲ以テ之ニ充テ畜牛結核病檢查員（以下單ニ檢查員トス）理事官、警視、技師、屬、警部、警部補、技手、巡查及獸醫中ヨリ選任ス

第三條　檢查員長ハ知事ノ命ヲ受ケ檢查員ヲ監督シ檢查ニ關スル事務ヲ掌理ス

第四條　檢查員ハ檢查員長ノ命ヲ受ケ檢查ニ關スル事務ニ從事ス

第五條　檢查員長ハ左ノ事項ヲ專行スルコトヲ得

一　檢查員ニ事務ノ分掌ヲ命スル事

二　檢查員ヲ管内ニ出張セシムルコト

三　檢査事務ニ關シ各省及府縣ニ文書ノ往復ナナスコト

四　豫算ノ範圍内ニ於テ價格百圓未滿ノ器具器械其ノ他ノ物品購入ニ關スルコト

第六條　檢査員ハ左ノ事項ヲ專行スルコトヲ得

一　豫算ノ範圍内ニ於テ運搬其ノ他ノ人夫雇人及檢査場借上ニ關スルコト

一　評價人ヲ選定スルコト

●畜牛結核病豫防法施行手續ニ依ル報告方ノ件

（明治三十八年一月十八日　指示衛第三九九號）

明治三十六年九月岐阜縣令第五〇號畜牛結核病豫防法施行手續第三條ニ依リ報告スヘキ施行規則第九號樣式ノ成績表ニハ爾今檢査ノ狀況ノ項中ニ本法施行ノ結果畜産業ニ及セル影響及檢査牛ノ中「ツベルクリン」ヲ注射シタル頭數ト否ラサル頭數トヲ記入セラルヘシ

追テ本年度既ニ報告濟ノモノニシテ該事項記入ナキモノハ此際特ニ報告セラルヘシ

●病牛取締ニ關スル件

（明治三十六年六月　衛甲第三五號）

今般訓令第三八三號ヲ以テ明治三十三年五月訓令第四百七十一號ヲ改正セラレタルハ畜牛結核病豫防法施行規則第九條ニ規定セル重症結核ハ勿論乳房結核ニ關シテハ假令輕症ノモノト雖改正訓令列記ノ病症中ニ包含セシムルノ趣旨ニシテ此等病牛ニ對シテハ凡テ牛乳營業取締規則第五條ヲ適用セントスルニ有之又病牛ニ付スヘキ記號ニ關シテハ畜牛結核病豫防法施行規則第十條ノ適用ヲ受クルコトトナリタルニ基ク儀ト御承知相成度依命此段及通牒候也

●病畜牛移轉ニ關スル件

（明治三十九年三月七日　通達衛第一四四七號）

明治三十六年八月農商務省訓令第九號畜牛結核病檢査員執務規程第十八條ニ依リ隔離又ハ鎖鋼ノ場所ノ管轄區域外ニ亙ル變更ノ許可ヲ爲サントスルトキハ其地管轄署ニ照會シ適當ノ場所タルヤ否ヤヲ考定シタル上許可スヘキ樣取計ヘシ

●畜主ヨリ頭數ヲ屆出ノ場合便宜ヲ與フル件

（明治三十八年四月二十一日　指示第一三號）

行政警察事務ニ關シ人民ヨリ口頭願屆ヲ受理スル場合ハ夫々便宜ヲ與ヘ人民ヲシテ不便ヲ感セシメサルハ事務運用ノ要件ナルコト勿論ニシテ既ニ各署ニ於テ實行シツツアル事ト被考候殊ニ畜牛結核病豫防法施行規則第二條ニヨリ畜主ヨリ頭數ヲ屆出ツル場合ノ如キ畜主ヲシテ其ノ不便ヲ感セシムルニ於テハ畜産上ニ及ホス影響少ナカラサルヲ以テ便宜上警察吏員ニ於テ代書シ又ハ巡行途中ト雖モ之ヲ受付ケ畜主ニテ不便ヲ感セシメサルニ留意スヘシ

●「ツベルクリン」ヲ要スル場合畜主ヨリ出願方ノ件

（明治三十八年六月二十日　通達衛第九二一號）

畜牛業者其ノ他畜牛飼養者ニ於テ畜牛購入等ノ際結核病ノ有無診斷ノ爲「ツベルクリン」ヲ要スル場合ニハ左記事項ニヨリ畜牛主ヨリ當部ニ出願「ツベルクリン」ノ交付ヲ受ケシムル樣取計ハルヘシ

一　畜牛ノ種類、用途、年齡及注射者ノ資格竝注射ヲ要スル事由等ヲ聞糺シ相當ト認ムルトキハ量ヲ定メ分與スルモ必要以外ノ量ハ分與セス

一　分與シタル「ツベルクリン」ハ獸醫ヲシテ之ヲ注射セシムルコト

一 注射成績ハ注射ヲ行ヒタル獸醫ヲシテ其ノ成績表ヲ作ラシメ十日以内ニ畜牛結核豫防法施行規則第二十五條ニ依リ畜主ヨリ相違ナク屆出シムルコト

一 「ツベルクリン」ハ之ヲ分與シタル警察管區外ニ於テ使用セシメサルコト使用ノ當日ハ可成巡査ヲシテ立會セシムルコト

一 分與シタル「ツベルクリン」ヲ使用セサルトキ又ハ使用シタル殘餘ハ返納セシムルコト

一 注射成績ハ左記樣式ニ依リ調製シ獸醫ヨリ屆出タル成績表ト共ニ直ニ當部ニ報告スヘシ

某畜牛「ツベルクリン」注射成績表

種類	性	年齡	用途	注射事由	注射月日	注射量	差溫(十一)	注射獸醫氏名	飼養地	所有者又ハ管理者氏名

備考 本欄ニハ「ツベルクリン」分與量及注射ニ關スル概況ヲ記載スヘシ

●「ツベルクリン」交付手續

（大正十三年十二月二十日農商務省訓令第十二號）

第一條 畜牛結核病豫防法ニ依リ畜牛ノ結核病檢査ニ要スル「ツベルクリン」ハ次年度ニ要スル數量ヲ概算シ第一號樣式ニ依リ毎年二月末日迄ニ獸疫調査所長ニ請求スヘシ

廳府縣（東京府ヲ除ク）稅關

「ツベルクリン」ノ不足ヲ生シタルトキハ前項ニ準シ隨時請求スヘシ

第二條 前年度ニ於ケル「ツベルクリン」ノ受拂ハ第二號樣式ニ依リ毎年四月三十日迄ニ獸疫調査所長ニ報告スヘシ

第一號樣式

「ツベルクリン」請求書

所要月別	五瓦入	十瓦入	二十瓦入	計	
	壜	壜	壜	壜數	瓦量
計					

第二號樣式

何年度「ツベルクリン」受拂表

種別	數量	備考
前年度越高		
本年度受領高		
計		
使用高		
廢棄高		廢棄ハ何々ニ依ルモノ何瓦何々ニ依ルモノ何瓦ト其ノ事由數量ヲ本欄ニ記スヘシ
計		
差引翌年度越高		

第十九章　精神病者監護、精神病院

●精神病者監護法

（明治三十三年三月十日法律第三十八號）

第一條　精神病者ハ其ノ後見人配偶者四親等內ノ親族又ハ戶主ニ於テ之ヲ監護スルノ義務ヲ負フ但シ民法第九百八條ニ依リ後見人タルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

監護義務者數人アル場合ニ於テ其ノ義務ヲ履行スヘキ者ノ順位ハ左ノ如シ但シ監護義務者相互ノ同意ヲ以テ順位ヲ變更スルコトヲ得

第一　後見人

第二　配偶者

第三　親權ヲ行フ父又ハ母

第四　戶主

第五　前各號ニ揭ケタル者ニ非サル四親等內ノ親族中ヨリ親族會ノ選任シタル者

第二條　監護義務者ニ非サレハ精神病者ヲ監置スルコトヲ得ス

第三條　精神病者ヲ監置セムトスルトキハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二十四時間內ニ行政廳ニ屆出ヘシ

前項假監置ノ期間ハ七日ヲ超ユルコトヲ得ス

行政廳ノ許可ヲ受ケテ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シタル後三箇年內ニ更ニ之ヲ監置セムトスルトキ又ハ民法第九百二十二條ニ依リ禁治產者ヲ監置セムトスルトキハ行政廳ニ屆出ヘシ

第四條　精神病者ノ監置ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ二十四時間內ニ行政廳ニ屆出ヘシ

第五條　監護シタル精神病者治癒シ死亡シ若ハ行方不明ト爲リタルトキ又ハ其ノ監置ヲ廢止シタルトキハ七日内ニ行政廳ニ届出ヘシ

第六條　精神病者ヲ監置スルノ必要アルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル事由アルトキハ精神病者ノ住所地、住所地ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市區町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スヘシ

第七條　行政廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルトキハ監置ノ許可ヲ取消シ監置ノ廢止ヲ命シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命スルコトヲ得

監置ノ許可ヲ取消サレ又ハ其ノ廢止ヲ命セラレタル者監置ヲ廢止セサルトキハ行政廳ハ直接ニ監置ヲ廢止スルコトヲ得

第八條　精神病者監置ノ必要アルトキ又ハ監置不適當ト認ムルトキハ行政廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ之ヲ監置ヲ命スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

市區町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキハ亦前項ニ同シ

本條ニ依リ精神病者ノ監置ヲ命セラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セサルトキハ第六條ノ例ニ依リ市區町村長ニ於テ之ヲ監護スヘシ

本條ニ依リ監護義務者ノ監置シタル精神病者ニ關シテハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條　私宅監置室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

私宅監置室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　監置ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

市區町村長ニ於テ監護スル場合ニ於テ之カ爲要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徵方法ハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス

第十一條　行政廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲サシメ又ハ精神病者在ル家宅病院其ノ他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十二條　本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十三條　本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ執行ニ關スル行政廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十四條　官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十五條　官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十六條ノ例ニ照シテ處斷ス

第十六條　左ニ掲クル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一　詐僞ノ所爲ヲ以テ行政廳ノ許可ヲ受ケ若ハ虚僞ノ届出ヲ爲シ精神病者ヲ監置シ又ハ拘束ノ程度ヲ加重シタル者

二　醫師精神病者ノ診斷書ニ虚僞ノ事實ヲ記載シ又ハ自ラ診斷セスシテ診斷書ヲ授與シタル者

前項第一號ノ場合ニ於テハ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第十七條　左ニ掲クル者ハ二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

一　許可ヲ受ケス又ハ届出ヲ爲サス若ハ命ヲ受ケスシテ精神病者ヲ監置シタル者

二　禁治産ノ宣告又ハ監置ノ許可ヲ取消サレ又ハ監置ノ廢止ヲ命セラレ若ハ假監置ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セ

サル者

三　許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シ若ハ命ヲ受ケタル程度ヲ超エテ精神病者ヲ拘束シタル者

第十八條　左ニ掲クル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　精神病者ノ監置ニ關シ虚僞ノ事實ヲ記載シタル願届其ノ他ノ書類ヲ行政廳ニ提出シタル者

二　監護義務ヲ履行スヘキ順位ニ在ラサル者ニシテ許可ヲ受ケス又ハ命ニ依ルニ非スシテ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若クハ場所ヲ變更シタル者

三　官吏又ハ行政廳ノ指定シタル醫師ノ臨檢若ハ檢診ヲ拒ミ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ答辯ヲ爲シタル者

第十九條　左ニ掲クル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　監置ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命セラレ其ノ命ヲ履行セサル者

二　監護義務者精神病者ノ監置ヲ命セラレ其ノ命ヲ履行セサル者

三　第八條第四項及第九條第一項ニ違背シタル者

第二十條　第四條及第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第二十一條　本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ精神病者ヲ監置シタル者ニシテ仍之ヲ繼續セムトスルトキハ本法施行ノ日ヨリ二箇月内ニ第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲スヘシ

第三條ノ許可ヲ受ケス又ハ届出ヲ爲サスシテ前項ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セサル者ハ第十七條ノ例ニ照シテ處斷ス

本法中市區町村長ニ屬スル職務ハ市制區制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市區町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第二十二條　外國人タル精神病者ノ監護ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條　人事訴訟手續法第五十條又ハ第六十條ニ依リ裁判所ニ於テ精神病者ノ監護ニ付必要ナル處分ヲ命シタル場合ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用セス

●精神病者監護法施行規則

（明治三十三年六月二十八日　内務省令第三十五號）

第一條　精神病者監護法第一條第二項但書ニ依リ監護義務者ノ順位ヲ變更シタルトキハ親族會ハ七日内ニ警察官署ヲ經テ地方官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ

第二條　精神病者監護法第一條第二項第五號ニ依リ監護義務者ヲ選任シタルトキハ親族會ハ七日内ニ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ

第三條　精神病者監護法第三條ニ依リ精神病者ヲ私宅病院其ノ他ノ場所ニ監置セムトスルトキハ監護義務者ハ警察官署ニ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ願出又ハ届出ヘシ

第三條第一項但書ニ依リ精神病者ヲ監置シタルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要セス

第四條　精神病者ヲ監置セムトスル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受クルノ暇ナシト認ムルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官署ニ願出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ監護義務者ハ三十日内ニ前條ニ依リ更ニ地方長官ニ願出ヘシ

第五條　前二條ノ願出又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ監置ノ方法及場所ヲ記シ若シ私宅監置室ヲ設クルトキハ其ノ構造設備ヲ記シタル書類ヲ添付スヘシ

第六條　本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シ三十日内ニ地方長官ニ監置ノ願出ヲ爲ササルトキ又ハ地方長官ニ於テ願出ニ對シ不許可ノ處分ヲ爲シタルトキハ警察官署ノ與ヘタル許可ハ取消サレタルモノトス

第七條　精神病者監護法第四條又ハ第五條ノ届出ハ監護義務者ニ於テ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ行方不明ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添フルコトヲ要セス

本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シテハ前項ノ届出ハ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

第八條　私宅監置室ハ精神病者ノ資産又ハ扶養義務者扶養ノ程度ニ應シ相當ノ構造設備ヲ爲シ且之ヲ管理スルコトヲ要ス

第九條　府縣立ヲ除ク外公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ヲ設置セムトスルトキハ其ノ構造設備及管理ニ關スル事項ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十條　精神病者監護法第七條及第八條行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ急迫ノ事情アルトキ警察官署ニ於テ之ヲ行ヒ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第十一條　精神病者監護法第九條第一項行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ私宅監置室ニ關シテハ警察官署之ヲ行フ

第十二條　精神病者監護法第十一條行政廳ノ職權ハ內務大臣地方長官又ハ警察官署之ヲ行フ

第十三條　本則第九條ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　本則第一條及第二條ニ違背シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●精神病者監護法第六條及第八條第三項ノ監護ニ關スル件

（明治三十三年六月三十日　勅令第二百八十二號）

第一條　精神病者監護法第六條ニ依リ市區町村長ニ於テ精神病者ヲ監置スヘキ場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ノ同意ヲ經テ三十日內精神病者ヲ監置スルコトヲ得但前項地方長官ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ市區町村長ハ警察官署ノ同意ヲ經テ三十日內假ニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ警察官署ニ通知スヘシ

第二條　精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ該當スル精神病者アルトキハ地方長官ハ警察官署ヲシテ之ヲ市區町村長ニ引渡サシムヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ハ假ニ之ヲ市區町村長ニ引渡シ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第三條　市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者治癒シ死亡シ又ハ行方不明ト爲リタルトキハ第一條第一項及第二條ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者及第二條但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知スヘシ

市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若クハ場所ヲ變更セムトスルトキハ第一條第一項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監査シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知シ第二條ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ノ同意ヲ經ヘシ但シ監置ノ方法又ハ場所ノ變更ヲ要スル急迫ノ事情アルトキハ假ニ之ヲ變更シ直ニ認可ヲ受ケ又ハ同意ヲ經ヘシ

第四條　市區町村長ハ其ノ監護スル精神病者ノ監置ヲ適當ナル公私ノ施設又ハ私人ニ委託スルコトヲ得

第五條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

附　則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●精神病者監護法施行手續

（明治三十五年十二月二十四日　岐阜縣訓令第八十一號）

警察署　警察分署

第一條　精神病者監護法第三條第一項ノ願書又ハ同條第三項ノ届書ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ヲ調査シ且警察醫若ハ適當ト認ムル醫師ヲシテ檢診セシメ其ノ檢診書ヲ添ヘ意見ヲ具シ進達スヘシ

一　發病ノ原因

二　發病ノ年月日
三　發病後ニ於ケル擧動
四　監置室ノ構造設備竝適否
五　生活ノ狀態
六　監護義務者ノ適否竝病者トノ親族關係

監護義務者ノ順位ノ變更又ハ親族會ノ選任ニ關スル屆書ヲ受ケタルトキハ其ノ事項ニ付テノミ前項ニヨリ取扱フヘシ

第二條　監護義務者ヨリ假監置ノ屆出（施行規則第三條二項）又ハ願出（施行規則第四條一項）アリタルトキ若ハ市町村長ニ於テ監置ニ關シ同意ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ（勅令二八二號第一條第三條）警察醫若ハ適當ト認ムル醫師ヲシテ檢診セシメ其ノ事實竝監置室ノ適否ヲ調査シ報告スヘシ但縣費ノ補助ニ關係アルモノハ監置室ノ構造設計書寫（急迫ノ事情ナキモノハ設置前）ヲ添付スヘシ

第三條　前二條ノ檢診ハ主治醫ノ診斷適當ト認メ得ル場合ハ省略スルモ妨ケナシ

第四條　精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ該當スル精神病者アリタルトキ急迫ノ事情ナキモノハ事由ヲ具シ指揮ヲ請フヘシ

第五條　精神病者監護法第七條及第八條第一項ノ措置ヲ必要ト認メタルトキハ事由ヲ具シ指揮ヲ請フヘシ其ノ急迫ノ事狀アルモノハ處分後報告スヘシ

第六條　精神病者監置ノ場所ニハ時々吏員ヲ派シ左ノ各號ヲ視察セシムヘシ

一　看護方法
二　衣食其ノ他給與竝ニ病者ニ對スル家族待遇
三　監置室ノ構造設備ニ不完全ノ點ナキヤ否
四　病者ノ容體及監置ノ要否

第七條　警察官署ハ左ノ樣式ニ依リ精神病者監置簿ヲ備ヘ隨時記入スヘシ

精神病者監置簿樣式（用紙美濃紙）

精神病者	氏名　年齡
監護義務者族籍氏名竝病者トノ關係	
監置許可年月日	
發病年月日	
病名	
監置前ノ擧動	
發病原因	
資產ノ狀態	
治癒死亡年月日	
監置場所	
主治醫族籍氏名	
備考	

●精神病者監置取扱方ノ件

（明治三十三年七月六日　衛生局長衛甲第九七號）

今般省令第三十五號ヲ以テ精神病者監護法施行規則發布相成候處同則第三條ニ依リ精神病者ヲ監置スル場合ニ於テ地方長官ニ願出テ又ハ届出ルトアルハ監置スヘキ場所ノ地方長官ニ爲スヘキ義ト御承知相成度將又監置ノ場所ヲ他管内ニ移轉スルトキハ從來監置ノ場所及移轉先ノ地方長官ヘモ届出テシメ候樣御取扱相成度尤精神病者監護法第八條ニ依リ監置シタル精神病者ニ對シテハ監置ノ場所ヲ他管内ニ移轉スルトキハ同條第四項ニ依リ從來監置セシ場所ノ地方長官ノ許可ヲ受ケ且移轉先ノ地方長官ニ届出シムル義ニ有之候條此段及通牒候也

●精神病者私宅監置室ノ構造設備飲食器具等ニ關スル件

（大正十四年十月二十四日　指示第三號）

精神病者私宅監置室ノ構造設備飲食器具等ノ取締ハ從來大正二年六月指示第七條ニ據ラシメラレ度爾今左記各項ニ據ラシメラルヘシ

一　監置場所ハ採光換氣ヲ善クシ且閑靜ニシテ卑濕ナラサル地ニシテ道路ニ接近セサル箇所ヲ撰フコト

二　室ノ廣サハ一坪以上トシ天井ノ高サハ可成床上七尺以上トスルコト

三　天井ハ板張トシ間隙ナラシムルコト

四　床ハ地盤ヨリ八寸以上ヲ上ケテ板張トシ其上ヲ成ルヘク疊數トナスコト疊數ノ分ハ廣サ一坪以上トシ便所又ハ便器ノ置場ハ其以外ニ設クルコト

五　室内ノ便器又ハ便所ハ不潔且臭氣ノ漏レサル機裝置ヲナシ時々吸取リ掃除スルコト

六　室ノ前面及左右何レカ一方ハ堅牢ナル格子造リトシ適當ナル外開ノ出入口ヲ設ケ鎖鑰ヲ施スヘシ

七　飲食器具ハ總テ木製又ハ紙竹皮等ハ危險ノ虞レナキモノヲ用フルコト

八　土地ノ狀況又ハ看護人資產ノ狀況等ニ依リ前各號ニ依リ難キトキハ所轄警察署長適當ト認ムル構造ニテ許可スルコトアルヘシ

●精神病者監護義務者指定ニ關スル件

（大正十四年六月十七日　衛第四六〇七號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

左記寫ノ通リ表記ノ件ニ付キ内務省衛生局長ヨリ通知有之候條此段及通牒候也

記

保發第一三八號
大正十四年五月十五日

高知縣知事ヨリ警保局長宛

照會

精神病者ヲ監置セムトスルモ精神病者監護法第一條第二項ニ列擧セル後見人、配偶者親權ヲ行フ父又ハ母若ハ戸主共ニ在ラサルトキハ同項第五號ニヨリ四親等内ノ親族中ヨリ親族會ノ選任シタル者ニ於テ監置セサルヘカラス從ツテ斯ル場合未タ親族會ノ選任ナキ間ハ所謂監護義務者監護ノ義務ヲ履行スル能ハサル事由アルトキニシテ法第六條ニ基キ一先ツ市町村長ヲシテ之カ監護ヲ爲サシムヘキモノト存候

一方法第八條ニハ行政廳カ法第一條第二項ノ順位ニ拘ハラス監護義務者ヲ指定シ得ヘキ場合ヲ規定シアリ而シテ其ノ第一條第二項ノ順位トハ同項第五號ニ在リテハ親族會ノ選任ヲ得テ現實ニ監護ノ義務ヲ盡シ得ヘキ地位ニ在ルモノニシテ四親等内ノ親族一般ヲ指スモノニハ非サル如ク思料スルモ斯ノ如キ解釋ヲ採ルニ於テハ親族會ヲ招集スルコト困難ナル場合等

ニ於テ監護ニ最モ適當ナル者例之兄弟姉妹等ノ在ルニ拘ラス法第六條ニ依リ市町村長ニ監置セシムルハ徒ニ多クノ手數ヲ要シ不便亦ヌ勘不

此場合若シ第八條ニ所謂第一條第二項ノ順位中第五號ヲ四親等內ノ親族一般ヲ指スモノト解シ法第八條ニヨル行政廳ノ指定ヲ爲スニ於テハ多クノ不便ヲ免レ得テ而モ實情ニ適セシメ得ル樣被存候ニ付テハ右ニ取扱差支無之候哉至急何分ノ御指拂仰度此段及照會候也

高衛第二六號

大正十四年六月十一日

衛生局長ヨリ高知縣知事宛

五月十五日附保發第一三八號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件伺ノ通リ御取扱相成差支無之ト存候

●精神病者監護義務者選任ニ關スル件

（大正十五年十二月二十二日）
（衛第一二二八二號通達）

警察部長ヨリ各警察署長宛

標記ニ關シ內務省衛生局長ト大阪府知事間ニ左記ノ通リ照復有之候趣ヲ以テ內務省衛生局長ヨリ通牒有之候條爲參考及通達候也

左記

（大正十五年十一月二十二日）
（保第一六〇〇五號）

大阪府知事ヨリ衛生局長宛

從來當府ニ於テハ戶主ニシテ成年ニ達シタル精神病者ヲ父又ハ母ニ於テ監置セントスル場合ニ於テハ精神病者監護法第一條第二項第三號ニ所謂親權ヲ行フ父又ハ母トシテ監護スルヲ得サルモノト解シ同條第九號ニ基キ親族會ノ選任ヲナサシムルカ又ハ客年六月十一日附內務省高衛第二六號通牒ノ御趣旨ニ從ヒ之レカ取扱ヲナシ來リ候處今回別紙寫ノ通リ岸和田區裁判所判事ヨリ照會越候條如何取計フヘキモノナリヤ至急何分ノ御意見拜承致度此段及照會候也

（大正十五年十一月十三日）
（日記第一六七二號）

岸和田區裁判所判事ヨリ大阪府知事宛

今回當廳ニ對シ成年ナル精神病者ノ母ヨリ精神病者監護義務者選任ノ爲親族會員選定竝親族會招集申請有之候ニ付此場合ハ精神病者監護法ニ依リ監護義務者ノ定メアルヲ以テ親族會ヲ要セサル旨諭示致候處右ハ先日母ヨリ貴廳ニ對シ精神病者監置許可出願致候處親族會ニ於テ選任シタル監護義務者ニ非サレハ受理スルヲ得サル旨ヲ以テ返戻セラレ候由申出候然ルニ成年者ト雖精神病者ノ如キ獨立ノ生計ヲ立テサル者ハ父母ノ親權ニ服スヘキハ民法第八百七十七條ノ明定スルトコロニ有之候ノミナラス父母ハ其子ノ監護其他ニ關シ早モ其利益ヲ計ルヘキ地位ニアル次第ナレハ民法第九百二條第一項ニ付テモ現ニ親權ヲ行フ父又ハ母ノミニ限ラス親權ヲ行フヘキ父又ハ母ニ付テモ適用アリト解釋セラレツツアル（大正五年（オ）六〇七號大正六年二月二十六日大審院第二民事部判決）次第ニ候得ハ右ノ場合精神病者監護法第一條第二項第三號ニ該當スルモノト解スヘキハ疑ノ餘地ナキモノト思料致候得ハ此ノ際取扱ヲ一定致度右得貴意候若シ反對ノ御見解有之候得ハ乍御手數解釋ノ根據御回示相成度候也

（大正十五年十二月七日）
（衛豫第一〇六一號）

衛生局長ヨリ大阪府知事宛

標記ノ件ニ關シ十一月二十二日附保第一六〇〇五號ヲ以テ御照會相成候處成年者ニ對スル親權ノ行使ハ一ニ當該成年者カ獨立ノ生計ヲ立ツルト否トニヨリテ決セラルルコト民法第八百七十七條ノ規定スル處ニ有之本件精神病者ニシテ獨立生計ヲ立テサルニ於テハ其ノ家ニ在ル母ハ精神病者監護法第一條第二項第三號ニ所謂親權ヲ行フ母ニ該當スルモノト被存候

●精神病者監護法施行規則第十條ニ關スル件

（大正十五年六月八日）
（衞第五九三三號通牒）
警察部長ヨリ各警察官署長宛

標記ニ關シ別紙ノ通リ衞生局長ヨリ通牒相成候條爲參考及通牒候也

（別紙）　問

明治三十三年十一月内務省令第三十五號精神病者監護法施行規則第十條ニ「精神病者監護法第七條第八條ノ行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ニ於テ之ヲ行ヒ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ」ト規定セラレ候處該但書警察官署ニ於テ行フ職權ハ法第八條第一項但シ書ノ場合ニノミ適要アルモノト思料セラレ候得共或ハ又第八條第一項前段ノ規定ニ據リ行政官廳ニ於テ監護義務者ヲ指定スル場合ニモ適要スルモノナリヤ聊カ疑義相生シ候條何分ノ御垂示相成度及照會候也

（同上）　答

標記ノ件ニ關シ五月十日警衞第一〇〇二號ヲ以テ御照會相成候處右規則但書警察官署ニ於テ行フ職權ハ精神病者監護法第八條第一項前段ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ監護義務者ヲ指定スル場合ニモ適用スルモノト存候

（大正十五年八月三日）
（衞第七四三六號通牒）
警察部長ヨリ各警察官署長宛

●精神病者監護ニ關スル件

内務省衞生局長ヨリ左記ノ通リ通牒相成候ニ付テハ爲參考及通牒候

左記

（大正十五年七月九日）
（衞發第七一五一號）
福岡縣知事ヨリ衞生局長宛

住所不定ノ精神病者ヲ法第六條ニ依リ所在地ノ甲市長ニ引渡シ監置中破監逃走シ各地ヲ浮浪徘徊シ約五十日後乙地ニ於テ發見取押ヘタル場合ニ於テ事故止ム迄監護義務ハ繼續スヘキモノトシテ逃走當時監護中ノ甲市長ニ引渡スヘキモノナルヤ將又逃走行衞不明ナルト共ニ甲市長ハ監護義務ヲ免除セラレタルモノトシテ更ニ法第六條ニ依リ發見取押ヘタル乙地ノ村長ニ引渡スヘキモノナルヤ若シ前段ノ如ク解セハ遠隔ノ地ハ引渡上困難ノ点ナキニアラサルモ後段ノ如ク解スルトキハ更ニ相當設備ヲ要スル場合モ有之各般之カ取扱ヲ軌一ニスル必要有之存セラレ差懸リ疑義相生シ候條至急貴局御意見承知致度及照會候也

（大正十五年七月二十日）
（衞醫第六七九親）
衞生局長ヨリ福岡縣知事宛

七月九日附衞發第七一五一號ヲ以テ御來照ノ本件前段御意見ノ通ト存候

●精神病者異動報告ノ件

（明治四十年三月二十三日）
（通達第三一八五號）

精神病者ノ發生其他異動ヲ生シタルトキハ左ノ各項ニ依リ遲滯ナク報告セラルヘシ

一　發病ノ場合ニ於テハ精神病者ノ住所氏名生年月日發病ノ原因發病年月日人相特徵

二　移轉ノ場合ニ於テ精神病者住所氏名移轉先移轉年月日及其事由

三　治癒死亡ノ場合ハ精神病者住所氏名治癒死亡月日及死亡原因

四　逃走ノ場合ニ於テハ精神病者住所氏名逃走月日時逃走當時ノ著衣携帶品病狀等手配ノ要領詳細

五　假監置チナシタル場合ハ精神病者監護法施行手續第二條ニ依ル

追テ明治三十六年七月保第二八九〇號保安課長通牒（未監置精神病者異動報告ノ件）ハ取消候條此段申添候

●精神病者ヲ其住所地以外ノ他府縣ニ送リ監置スル場合ノ件

（明治三十九年十一月二十四日　通達警第一二七一四號）

精神病者ヲ其住所地以外ノ他府縣ニ送リ監置スル場合ニ關シ左記ノ通リ滋賀縣ヘ通牒ノ旨內務省衛生局長ヨリ通牒有之候條爲心得此段及通達候也

（左記）

精神病者ヲ其ノ住所地外府縣ヘ送リテ監置スル場合ニ關シテハ別ニ法ノ明文ナキモ法第三條第四條及第五條等ニ規定スル許可申請又ハ届出ノ如キハ勿論住所地府縣（本件ナレハ貴縣）ニ對シテ之ヲナサシムヘク其ノ之カ監督ヲ許可シタル住所地府縣ハ更ニ精神病者監置ヲ支配セル府縣（本件ナレハ京都府）ニ照會シテ其ノ病院ニ於ケル病者ノ取扱振等ヲ監視スルコトヲ協定シ置キ若シ其ノ取扱振即チ監置方法等ノ不都合ナル等ノ通知ヲ受ケタルトキハ監護義務者ニ對シ監置ノ方法若クハ場所（本件ナレハ其ノ病院）ノ變更ヲ命スル等法ノ規定ニ依リ相當ノ取締ヲ爲スヘキ義ト御承知相成度經伺ノ上此段及通牒候也

明治三十九年十一月二十二日

滋賀縣知事宛

內務省衛生局長

●町村役場ニ引渡スヘキ瘋癲人依頼アルトキ取締方

（明治二十六年九月四日　警察部指示第三一九號）

明治二十一年四月本部指示第四十三號第四條ニ依リ市町村役場ニ引渡スヘキ瘋癲人ニシテ其ノ依頼アルトキハ鎖鋼準備中一時警察官署ニテ相當取締ヲ爲シ之ニ要シタル費用ハ依頼ヲ受ケタル市町村役場ニ請求スヘシ

（參照）內務部長ヨリ八月二十一日附ヲ以テ市役所町村役場ヘノ通知書引取人ナキ瘋癲人ハ爾後發見地ノ市役所町村役場ニ於テ相當ノ救護ヲ加ヘラルヘク若シ暴行等危險ノ虞アリテ鎖鋼ノ必要アリト思料スルトキハ其準備中一時警察官署ニ依頼看護シ右ニ要スル費用ハ明治十九年本縣戊第十二號達行旅死亡人及重病饑餓ニ迫ル者取扱手續ニ準シ處理可相成此段及通牒候也

●精神病院法

（大正八年三月二十六日　法律第二十五號）

第一條　主務大臣ハ北海道又ハ府縣ニ對シ精神病院ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第二條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル精神病者ヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ入院セシムルコトヲ得

一　精神病者監護法ニ依リ市區町村長ノ監護スヘキ者

二　罪ヲ犯シタル者ニシテ司法官廳特ニ危險ノ虞アリト認ムルモノ

三　療養ノ途ナキ者

四　前各號ニ揭クル者ノ外地方長官特ニ入院ヲ必要ト認ムル者

前項ノ規定ニ依リ精神病者ヲ入院セシムルニハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫師ノ診斷アルコトヲ要ス

第三條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ經費ニ對シ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第四條　第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ長ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ入院者ニ對シ監護上必要ナル處置ヲ行フコトヲ得

第五條　地方長官ハ入院者ヨリ入院費ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得地方長官入院者ヨリ徵收スルコトヲ得スト認ムルトキハ其ノ扶養義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

第六條　道府縣ニ於テ設置スル精神病院ニシテ地方長官ノ具申ニ依リ主務大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ第一條ノ規定ニ前項費用ノ徵收方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

依リ設置スルモノト看做ス

第七條　主務大臣必要ト認ムルトキハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公私立精神病院ヲ其ノ承諾ヲ得テ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第八條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム

大正八年八月四日
勅令第三百六十五號

府縣精神病院法ノ一部施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

精神病院法第七條ノ規定ハ大正八年八月十日ヨリ之ヲ施行シ同法第一條乃至第五條及第八條ノ規定ハ同法第七條ノ規定ノ施行ニ必要ナル範圍內ニ於テ同日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年十月二十二日
勅令第四百九十號

府縣精神病院法ノ一部施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

精神病院法第六條ノ規定ハ大正九年十月二十五日ヨリ之ヲ施行シ同法第一條乃至第五條及第八條ノ規定ハ同法第六條ノ規定ノ施行ニ必要ナル範圍內ニ於テ同日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年六月三十日
勅令第三百二十四號

府縣精神病院法ノ一部施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

精神病院法中未タ施行セラレサル部分ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十章　墓地及埋火葬

●墓地及埋葬取締規則

（明治十七年十月四日
太政官布達第二十五號）

第一條　墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條　墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條　死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條　區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

第五條　墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條　葬儀ハ寺堂若クハ家屋佛內又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條　凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除カシムヘシ但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條　此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ內務卿ニ届出ツヘシ

右布達候事

●墓地及埋葬取締規則施行細則

（明治三十四年六月十二日 岐阜縣令第二十六號）

沿革 明治四五年七月縣令第四〇號改正

第一條 墓地ヲ新設セムトスルトキハ左ノ各號ヲ具シ地主連署ノ上所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
其ノ取擴ヲナサムトスルトキハ亦同シ
一 周圍六十間以内ノ地況ヲ見ルニ足ルヘキ圖面
二 土地ノ字、番號、地種、地目、段別、地價ノ一筆限調書
三 其ノ市町村又ハ部落ノ廣袤及戸數、人口
第二條 墓地ハ人家及國道、縣道、鐵道竝河川ヲ距ル六十間以上ニシテ土地高燥飲料水ニ障害ナキ地ヲ撰ムヘシ
第三條 墓地ノ周圍ニハ墻塀ヲ設ケ若ハ樹木ヲ植ヘ境界トナスヘシ
第四條 火葬場ヲ新設セムトスルトキハ左ノ各號ヲ具シ地主連署ノ上所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
一 周圍百二十間以内ノ地況ヲ見ルニ足ルヘキ圖面
二 土地ノ字、番號、地種、地目、反別、地價ノ一筆限調書
三 其ノ市町村又ハ部落ノ廣袤及戸數、人口（營業火葬場ニ在テハ之ヲ除ク）
四 火葬室、煙筒、排泄物燒却所ノ構造方法及圖面
五 營業火葬場ニ在テハ火葬料竝莊嚴料ノ額
六 工事落成ノ期日
第五條 火葬場ヲ改修セムトスルトキハ其ノ構造方法竝工事落成ノ期日ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
第六條 火葬場ノ位置竝構造方法ハ左ノ各號ニ據ルヘシ但人家隔絶ノ地ニシテ且公衆ノ目ニ觸レ難キ場所ニ在テハ簡易ノ構造裝置ト雖モ特ニ許可スルコトアルヘシ

一 人家及人民輻輳ノ地ヲ距ル百二十間以上タルコト
二 火葬場ノ周圍ニハ墻塀又ハ柵ヲ設クルコト
三 火葬室、煙筒、排泄物燒却所ハ煉瓦石其ノ他不燃質物ヲ以テ構造スルコト
四 煙筒ハ高サ三十尺以上トシ燒煙ノ裝置ヲナスコト
五 適當ノ場所ニ灰捨場ヲ設クルコト
第七條 火葬場ノ新設又ハ改修ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ
前項ノ檢査濟ヲ受領シタル後ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス
第八條 既設ノ墓地、火葬場ト雖モ衛生上其ノ他公害アルト認ムルトキハ廢止若ハ改造修繕ヲ命シ又ハ埋火葬ヲ停止スルコトアルヘシ
第九條 墓地、火葬場ニハ管理者ヲ置キ其ノ住所、身分、氏名、年齡ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ但管理者ノ任務ニ堪ヘスト認ムルトキハ警察官署ハ更任ヲ命スコトアルヘシ
第十條 營業火葬場ヲ買受又ハ讓受其ノ營業ヲ繼續セムトスルトキハ賣主讓主連署ノ上所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
第十一條 墓地、火葬場ノ管理者又ハ營業者ハ死者ノ戸籍、種族、宗旨ノ如何ニ拘ハラス正當ノ事由ナクシテ之レカ埋火葬ヲ拒ムコトヲ得ス
第十二條 死刑ニ處セラレタル者ノ死屍ハ別ニ墓地ノ一隅ヲ區劃シ之ニ埋葬スヘシ
第十三條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスル者ハ其ノ届書ニ左ノ書面ヲ添付シ市町村長ニ届出認許證ヲ受ケ之ヲ管理者ニ交付スヘシ
一 病死者ハ醫師ノ死亡診斷書又ハ死體檢案書

二　罹患四ケ月以上ノ死胎ハ醫師若ハ産婆ノ死産證書又ハ死胎檢案書
三　變死者ハ立會醫師ノ檢案書寫ニ檢視官ノ檢印アルモノ又ハ警察官ノ檢視調書ノ謄本
四　囚徒ノ病死者ハ司獄官ノ檢印アル監獄醫ノ死亡診斷書又ハ刑死者ハ司獄官ノ證明書

第十四條　埋葬又ハ火葬ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　死者ノ住所、氏名、族籍、生年月日
二　死亡ノ月日時
三　埋葬又ハ火葬ノ月日時
四　埋葬又ハ火葬ヲナスヘキ墓地若ハ火葬場名

第十五條　墓地及火葬場ノ管理者ハ其ノ領收シタル認許證ノ裏面ニ火葬、埋葬ノ年月日時ヲ記入シ署名捺印ノ上之ヲ編纂シ警察官吏ノ檢閱ヲ受ケ五箇年間保存スヘシ

第十六條　墓穴ノ深サハ埋葬ハ六尺以上燒骨ハ三尺以上タルヘシ但土地ノ狀況ニ依リ六尺ニ至リ難キトキハ豫メ警察官署ノ認許ヲ受ケ置クヘシ

第十七條　改葬ヲ爲サントスルトキハ埋葬ノ年月日及其ノ事由ヲ記シ墓地所在地ノ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ但其ノ許可證ハ現埋葬墓地竝改葬スヘキ墓地ノ管理者ニ示スヘキモノトス

第十八條　火葬ハ日沒後日出前ニ於テ之ヲ行フヘシ但人家ニ隔絕シ且公衆ノ目ニ觸レ難キ地ニシテ特ニ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタル場所若ハ傳染病死等ニシテ警察官吏ノ指揮アリタル場合ハ此ノ限ニアラス

第十九條　火葬ハ死屍ノ燒燼ニ至ルマテ管理者ニ於テ相當ノ看守ヲナスヘシ

第二十條　管理者ハ墓地又ハ火葬室、標識其他場內ハ總テ不潔ナキ樣常ニ掃除ヲナスヘシ

第二十一條　墓地管理者ハ墓地ノ圖面（墓標ノ位置及其ノ順次番號ヲ付シタルモノ）及ヒ帳簿ヲ備ヘ死者ノ族籍、住所氏名竝埋葬ノ年月日時ヲ記載シ置キ親族故舊等ヨリ閱覽ヲ求ムルトキハ之ヲ開示スヘシ

第二十二條　火葬場管理者ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ火葬依託人竝死者ノ族籍、住所、氏名及火葬ノ年月日時ヲ記載シ置クヘシ

第二十三條　墓地火葬場ヲ廢止セムトスルトキハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

一　墓地、火葬場ノ字、番號、段別
二　廢止セムトスル事由
三　許可後ニ於ケル處置ノ概略例ヘハ許可ノ上ハ埋葬シアル死屍ヲ何墓地ニ改葬シ其ノ土地ヲ田、畑、宇地トナス等ノ類
四　圖面

第二十四條　墓標ハ壇ニ之ヲ移轉シ又ハ除却スルコトヲ得ス

第二十五條　第一條、第四條、第五條ノ許可ヲ得スシテ墓地火葬場ニ於テ埋火葬ヲナシ又ハナサシメタル者及第七條、第十火葬ヲナシタル者、墓地、火葬場ノ使用停止中其ノ墓地火葬場ニ於テ埋火葬ヲナシ又ハナサシメタル者及第七條、第十三條ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條　第九條、第十條、第十一條、第十五條、第十六條、第十七條、第十八條、第十九條、第二十條、第二十一條、第二十二條、第二十四條ニ違背シタル者ハ壹圓以下ノ科料ニ處ス

●墓地及埋葬取締規則施行細則取扱手續

（明治三十四年六月十九日）
（岐阜縣訓令第三十六號）

警察署　同分署

第一條　墓地ノ新設、取擴又ハ火葬場ノ新設、改修ノ願書ヲ受理シ書タルトキハ細則第一條第四條第五條第六條ノ書類ヲ調査シ尙實地ヲ踏査シ同第二條又ハ第六條第一號ニ牴觸セサルヤ否ヲ取調ヘ意見ヲ附シ進達スヘシ但墓地ニ付テハ前項ノ外埜穴ハ細則第十六條ノ深サニ穿掘シ得ヘキ土地ナルヤ否ヲ調査スヘシ

第二條　墓地、火葬場ハ一市町村以上各一箇所ニ限リ市町村ノ區域廣濶ニシテ戸口稠密ナル カ若ハ交通不便ナル等止ムヲ得サルモノノ外濫リニ增設ヲ許ササルヲ以テ新設ノ願書ニ對シテハ特ニ其狀況ヲ調査シ添申スヘシ

第三條　細則第七條ニ依リ火葬場ノ構造檢査ヲナシ不都合ナシト認メタルトキハ左記第一號樣式ニ依リ檢査證ヲ下付スヘシ

第四條　細則第八條ニ依リ墓地、火葬場ノ廢止ヲ命シ又ハ埋火葬ヲ停止スルノ必要アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ(停止ニ付テハ期間ヲ豫定スヘシ)申報ノ上指揮ヲ待テ處分スヘシ

同條ニ依リ改造、修繕ヲ命シタルトキハ其ノ事由竝改造、修繕ノ部分ヲ記シ其ノ都度報告スヘシ

第五條　細則第十六條但書ヲ適用スルハ巖石、水地等ノ爲メ穿掘ニ困難ナル土地ニ限ルモノトス

第六條　細則第十七條ノ改葬許可證ハ左記第二號樣式ニ依ルヘシ

第七條　細則第二十一條及同第二十二條ノ帳簿ハ墓地、火葬場臨檢ノ際時々檢閱ヲナスヘシ

第一號樣式

檢査證

何郡市町村
何　誰

明治何年何月何日火葬場(新設)(改修)工事落成檢査候事

何警察署(何分署)長
官　氏　名印

年　月　日

第二號樣式

改葬許可證

何縣國郡市町村
何　誰

右祖父母(父母)何誰死者ノ氏名及願人トノ續柄ヲ記ス　死屍(遺骨)ヲ何墓地ヨリ何墓地ニ改葬ノ件聞屆ク

何警察署(何分署)長
官　氏　名印

年　月　日

●墓地及埋葬取締規則違背者處分方 (明治十七年十月四日太政官達第八十二號)

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ(違警罪ノ)ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

警視廳　府　縣

●墓地及埋葬取締規則第八條ノ方法細目標準 (明治十七年十一月十八日內務省達乙第四十號)

沿革　明治一九年二月內務省通甲第五號、大正元年一一月內務省訓令第二二號改正

第一條　墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル

但止ムヲ得サル事情アリテ之レヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

第二條　墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條　墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノノ何人ニテモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其內ニ埋葬スルモノトス

第四條　墓地ノ周圍墓地ト墓地ニ非サル土地トノ境界ヲ云フ

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條　墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條　火葬場ハ人家及人民輻輳ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防ク

ノ裝置ナナシ且周圍ニ塀墻ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條　火葬ハ成ルヘク日沒後之ヲ行フヘシ

第八條　壙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條　墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戸長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條　死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クルノ限ニアラス

第十一條　死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ餘隙ナクシテ死亡シタル者ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ妊娠四箇月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十二條　區戸長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ヲ許可スヘカラス

第十三條　管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戸長ノ認許證ヲ一年間保存シ警察官吏ノ求アルトキハ之ヲ提示スヘシ

第十四條　管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

●墓地火葬場ニ關スル書類取扱ノ件

（大正十二年八月十六日衛第三七一號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

從來ノ墓地火葬場ノ新設改修廢止等ノ申請ハ市町村區長管理者若ハ個人等區々ニ亙リ其ノ當ヲ得サルモノト思料セラレ候條爾今左記ノ通リ取扱相成度此段及通牒候也

記

一　墓地火葬場ノ新設取壙改修廢止等ノ申請ハ必ス市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムルコト

二　申請書ニハ申請事項ニ對スル市町村會ノ議決錄寫ヲ添付セシムルコト

●火葬ノ解禁

（明治八年五月二十三日太政官布告第八十九號）

明治六年七月第二百五十三號火葬禁止ノ布告ハ爾今廢シ候條此旨布告候事

●火葬場新設ニ關スル件

（明治三十九年三月九日通達衛第一四九三號）

火葬ハ相當設備アル場所ニアラサレハ執行スルヲ得サルニモ不拘何等ノ設備ナキ原野等ニ於テ執行シツツアルカ如シ之等ハ衛生上危害アルノミナラス風教上ニモ多大ノ關係アルヲ以テ公衆衛生上斷シテ寬過スヘキモノニアラス特ニ傳染病中赤痢腸窒扶斯ノ如キハ近年地方病的ノ感ヲ呈シ何時火葬場ノ必要ヲ生スルヤモ計ラレサルヲ以テ此際各町村長ヲ勸誘シ相當設備アル火葬場ノ設置ヲ期畫シ時ニ臨ンテ遺憾ナキヲ期セラルヘシ

●火葬燒場心得

沿革 明治九年一〇月內達乙第一二三號、一三年一二月第五〇號改正

火葬ノ儀第八十九號ノ通御布告有之候ニ付テハ燒場ノ儀左ノ心得ヲ以テ取扱可申此旨相達候事

一 燒場ハ東京府下ハ朱引外其他ノ地方ハ市街村落ノ外渾テ人家遠隔ノ地ニ於テ滯稅地又ハ借地料等無之地ヲ撰ミ最寄市邑申合共用致サスヘク尤官有地又ハ民有地ノ內新規相設ケ候積リ取調可伺出事

一 舊燒場官民有地從前ノ儘使用スル土地及ヒ新規拂下タル土地ハ民有地第二種ニ可組入事

一 燒場ハ火爐烟筒及墻壁等ヲ設クヘシ尤人家遠隔ノ山野等ニ於テハ適宜簡易ノ裝置ナスモ不苦候事

一 燒場造築修繕等一切ノ入費ハ人民ノ自辨勿論ニ候ヘ共都テ不都合無之樣區戶長ニ於テ注意取締可爲致候事

一 遺骨ヲ此場中ニ埋葬候儀ハ不相成候事

（明治八年六月二十四日 內務省達乙第八十號）

●御陵ヨリ三町御墓所ヨリ一町以內ノ地ニ火葬場其他營業差止竝御陵墓御堀ノ水村方ヘ下賜ノ件

沿革 明治三九年八月勅訓令第四九號改正

御陵ヨリ三町御墓ヨリ一町以內ノ地ニ火葬場避病院監獄遊園（公衆ニ對シ營業ヲ爲スモノ）製造所劇場其他公衆ノ集合スル建物等ヲ設ケシムヘカラス御陵墓ノ御堀ノ水悉皆村方ニ下賜相成候上ハ右水溜ノ間不敬ナキ樣嚴重取締ヲ爲スヘシ

（明治三十年三月 內務大臣訓令第二六三號）

●埋火葬認許證樣式

沿革 明治三十四年六月內務大臣訓令第二六號改正

本年（六月）勅令第二十六號墓地及埋葬取締規則施行細則第十三條ニ依リ交附スル埋火葬認許證ハ左記樣式ニ據ルヘシ

番號

埋（火）葬認許證

何縣國郡市町村番戶族籍 本籍住所トモ 死者トノ續柄 併記ヲ要ス 何誰

右ハ左記ノ通埋（火）葬ヲ認可ス

明治 年 月 日

一 埋（火）葬スヘキ死者ノ住所、氏名、族籍、生年月日死產ハ何誰死產兒ト記スヘシ

二 病名及死亡ノ月日時 病死、變死、死產等ノ區別ヲ記スヘシ

三 埋（火）葬ノ月日時

四 埋（火）葬スヘキ墓地（火葬場）名

何市町村長 氏 名 ㊞

（明治三十四年六月十九日 岐阜縣訓令第三十七號）

●死產ノ埋火葬認許證ニ特別番號ヲ附スル件

墓地及埋葬取締規則ニ依リ死產ニ關シ埋火葬認許證ヲ與フルトキハ其順序ニ從ヒ特別ニ番號ヲ附スヘシ

（明治三十三年六月二十七日 內務省訓令第二十一號）

●同上ノ件

墓地及埋葬取締規則ニ依リ死産ニ關シ埋火葬認許證ヲ與フルトキハ其順序ニ從ヒ特別ニ番號ヲ付スヘシ

（明治三十三年七月二十五日
岐阜縣訓令第七十七號）

郡市役所　町村役場

第二十一章　胞衣及産穢物

●胞衣及産穢物取締ニ關スル件

（明治三十二年六月七日
岐阜縣令第三十八號）

沿革　明治四二年七月縣令第五三號改正

胞衣及産穢物ヲ投棄シ又ハ人家若クハ井戸ヲ去ル五間以内ノ地ニ埋納スヘカラス其ノ五間以外ノ地ト雖モ穴ノ深サヲ三尺以上トナスニアラサレハ之ヲ埋納スルコトヲ得

胞衣及産穢物取扱營業ヲ爲サントスル者ハ埋納地及燒却場ノ位置、地名、坪數等ヲ詳記シタル圖面ヲ具シ所轄警察署又ハ同分署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其ノ胞衣及産穢物ノ取扱ハ縣廳ノ特ニ命スル處ニ從フヘシ

本令ニ違反シタル者ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

本令ニ規定シタル違反行爲ヲ敎唆シ又ハ幇助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第二十二章　雜

●理髮營業取締規則

（大正十二年七月四日岐阜縣令第二十六號）

沿革　大正一三年五月縣令第四〇號、同年一二月同第八九號改正

第一條　本則ニ於テ理髮營業ト稱スルハ頭髮鬚髯ヲ剪剃シ又ハ結髮ノ業ヲ營ムヲ謂フ

第二條　理髮營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ但シ結髮業ニ限リ第六號ヲ適用セス

一　本籍住所、氏名、生年月日

二　營業種別

三　營業所所在地名、地番

四　營業所ノ構造並平面圖及落成期日

五　第十一條ニ掲クル疾病ノ有無ニ關スル診斷書

六　理髮試驗合格證書又ハ知事ノ指定シタル學校若ハ講習所ノ卒業證書

支店出張店ヲ設ケ又ハ前項第二號乃至第四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ支店出張店ヲ設クル場合ハ前項第六號ノ資格ヲ有スル管理人ヲ置クヘシ

營業場ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第三條　營業ヲ開始シタルトキハ五日以内ニ左ノ事項ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

一　營業ニ從事スル家族及同居者ノ氏名、生年月日

二　營業ニ從事セシムル徒弟傭人ノ本籍氏名、生年月日

三　前各號ニ對スル第十一條ニ揭ケル疾病ノ有無ニ關スル診斷書

第四條　營業場ノ換氣採光ノ設備ヲ爲シ地盤ハ理髮場ニ在リテハ「コンクリート」其ノ他不滲透質ノ材料（漆喰敲ヲ除ク）ヲ以テシ結髮場ニ在リテハ板張リトシ適當ノ場所ニ手指其ノ他ノ洗場ヲ設ケ且汚水排除ノ設備ヲ爲スヘシ但シ理髮場ハ地盤又ハ其ノ地方ノ狀況ニ依リ本條ノ規定ニ據リ難キトキハ板張リト爲スコトヲ得

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ其ノ事實ノ生シタルトキヨリ五日以內ニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

一　營業者ノ本籍住所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ

二　廢業シタルトキ

三　營業場ヲ相續又ハ讓渡シタルトキ但シ双方連署

四　營業者三十日以上所在不明トナリタルトキ

五　營業者死亡シタルトキ

六　營業者精神病ニ罹リタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合營業者ヨリ第四號ノ場合ハ家族又ハ同居者ヨリ第五號ノ場合ハ戶籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ第六號ノ場合ハ監護義務者ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　理髮ハ特ニ招致セラレタル場合ノ外營業場外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第七條　前條ノ規定ニ依リ營業場外ニ於テ理髮ニ從事セムトスルトキハ消毒業及石鹼ヲ携帶スヘシ

第八條　營業者ハ左ノ各號ヲ遵守シ且從業者ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ

一　理髮料金ハ營業場客ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

二　營業場ハ常ニ清潔ニシ毛髮ヲ散亂セシメサル樣一定ノ容器ニ收容スルコト

三　作業中ハ清潔ナル白衣ヲ著用シ且顏面作業ノ際ハ呼吸器ヲ使用スルコト

四　常ニ指爪ヲ短クシ從業ニ先タチ客毎ニ石鹼ヲ以テ手指ヲ洗淨スルコト

五　枕ニハ清潔ナル白布ヲ覆ヒ枕當ハ白紙ヲ用ヒ客毎ニ取換フルコト

六　頸卷、毛除等ハ清潔ナル白布ヲ以テシ且頸卷ノ下ニハ白紙ヲ用ヒ客毎ニ取換フルコト

七　營業用器具及附屬品ノ類ニシテ客ノ身體ニ觸接シタルモノハ本則第十條ニ定ムル消毒方法ニ依リ客毎ニ消毒スルコト

八　消毒藥ハ時々取換數ノモノヲ使用セサルコト

九　鼻腔、耳孔ハ剃毛セサルコト但シ客ノ要求アリタル場合ハ此ノ限ニアラス

十　營業用ニ供スル湯水ハ常ニ清淨ナルモノヲ使用スルコト

十一　剃毛用ニハ粉末石鹼頭髮洗用ニハ燐石鹼若ハ液體石鹼ヲ使用シ湯又ハ水共ニ客毎ニ新ニスルコト

十二　手拭顏拭等ヲ客ニ貸與セサルコト但シ清潔ニシテ消毒シアルモノハ此ノ限ニアラス

十三　酒氣ヲ帶ヒテ就業セサルコト

第九條　傳染性疾患又ハ其ノ疑アル者ノ作業ヲ終リタルトキハ就業者ハ其ノ手指ヲ直ニ消毒シ白衣頸卷毛除覆其ノ他病毒汚染ノ疑アルモノハ完全ニ消毒スルニアラサレハ他ノ客ニ使用スルコトヲ得ス

第十條　消毒方法ハ左ノ六種トス

一　フオルマリン消毒

フオルマリン（フオルマリン一分水三十四分混和液）ヲ覆蓋アル容器ニ入レ之ニ浸漬スルコト十分間以上ノ後淨水ヲ以テ洗滌スルコト

二　石炭酸消毒

石炭酸（石炭酸三分水九十七分混和液）中ニ浸漬スルコト十分間以上ノ後淨水ヲ以テ洗滌スルコト

三　クレゾール消毒

クレゾール水（クレゾール石鹼液三分水九十七分混和液）中ニ浸漬スルコト十分間以上ノ後淨水ヲ以テ洗滌スルコト

四 アルコホル消毒
アルコホル液(アルコホル七十分水三十分混和液)ヲ覆蓋アル容器ニ入レ十分間以上浸漬スルコト

五 蒸氣消毒
攝氏百度以上ノ流通蒸氣中ニ一時間以上入レ置クコト

六 煮沸消毒
消毒スヘキ物件全部ヲ水ニ浸シ沸騰後三十分以上煮沸スルコト

前各號以外ノ消毒方法ヲ行ハムトスルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 肺、喉頭及其他ノ開放性結核、癩、花柳病、トラホーム、傳染性皮膚病等ニ罹リ傳染ノ虞アルモノ若ハ精神異狀、癩狂其ノ他作業上危險ナル者ハ作業ニ從事シ又ハ從事セシムルコトヲ得ス

第十二條 警察官吏又ハ衞生技術員ハ臨時營業場ニ臨檢スルコトアルヘシ

第十三條 警察官署ハ必要アリト認ムルトキハ營業場又ハ其ノ設備ニ對シ之カ改善修繕ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 營業者組合ヲ設ケタルトキハ組合規約ヲ添ヘ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十五條 組合ニ於テ役員ヲ選擧シタルトキハ五日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第十六條 警察官署ハ本則又ハ本則ニ依リテ發スル命令ニ違反シ又ハ公安風俗ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止シ若ハ停止シ又ハ從業者ノ就業ヲ差止ムルコトアルヘシ

第十七條 本則第二條第三條第五條乃至第九條第十一條ニ違反シタル者若ハ第十六條ノ命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十八條 營業者カ未成年又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、徒弟、傭人其ノ他ノ從業者ニシテ業務上本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

第十九條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 大正八年三月岐阜縣令第五號理髮營業取締規則ハ之ヲ廢止ス

●理髮營業取締ニ關スル件

（大正十三年十二月十六日 衞發第五二一號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

本月十日縣令第八十九號ヲ以テ理髮營業取締規則第二條第二項ヲ改正相成候結果支店出張店ヲ設クル場合ハ同則第一條第一項第六號ノ資格ヲ有スル管理人ヲ置カサルヘカラサルコトト相成候ニ付テハ爾今該取締ニ關シテハ相當注意相成度爲念此旨及通牒候也

●理髮試驗規則

（大正十三年五月八日 告示第百九十號）

第一條 理髮試驗ハ每年一回以上施行シ其ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ告示ス

第二條 試驗科目ハ左ノ如シ

筆記(口述ヲ含ム)
一 解剖學及生理學ノ大意
二 細菌學大意及消毒法
三 理髮ニ關スル傳染性疾患
四 理髮營業ニ關スル諸法規

以上各科目ノ試驗ハ理髮業者ニ必要ト認ムル範圍ニ止ム

實地

一 實地試驗

但實地試驗ハ必要ト認メタル場合ニ限リ之ヲ施行ス

第三條 理髮試驗ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ願出ツヘシ

一 本籍、住所氏名、生年月日

二 三箇年以上理髮營業者ニ就テ其ノ業ヲ修得シタル經歷證明書

前項ノ願出ヲ爲ス者ハ手數料金壹圓ヲ住所地警察官署ヘ納付スヘシ

既ニ納付シタル手數料ハ願人ノ都合ニ依リ受驗セサルコトアルモ之ヲ還付セス

第四條 試驗ニ合格シタル者ニハ左記樣式ノ合格證書ヲ交付ス

第五條 受驗人ハ總テ試驗委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第六條 試驗當日ハ指定時刻三十分前迄ニ試驗場ニ出頭スヘシ

第七條 受驗人ハ毛筆、墨、硯又ハ萬年筆ヲ用意スヘシ

第八條 書籍及書類ヲ携帶シテ試驗場ニ入ルコトヲ許サス

第九條 受驗人ハ試驗場ニ於テ互ニ談話シ又ハ物品ヲ授受スルコトヲ得ス

第十條 試驗場ニ於テ不都合ノ行爲アリタルトキハ退場ヲ命シ又ハ其ノ試驗ヲ無效トスルコトアルヘシ

第十一條 試驗當日出頭セサル者ハ願出ヲ取消シタルモノト看做ス

附 則

第十二條 本則施行ノ際理髮營業ナラス者ハ本試驗ニ合格シタル者ト看做ス

第 號

理髮試驗合格證

族籍

氏名

生年月日

大正 年 月舉行セシ理髮試驗ニ合格ス因テ此證ヲ與フ

大正 年 月 日

岐阜縣理髮試驗委員長位勳 氏 名 印

（大正十三年五月八日 岐阜縣訓令甲第二十八號）

警察署 警察分署

●理髮試驗手數料徵收ノ件

理髮試驗手數料ハ岐阜縣會計規則第六條第七條ニ依リ所轄警察官署長ニ於テ之ヲ徵收スヘシ

（大正十四年九月二十四日 衛發第四〇七號通牒）

●理髮試驗出願者ニ付調査方ノ件

警察部長ヨリ各警察官署長宛

右受驗志願者ニシテ其署ヘ試驗願書提出候節ハ左記事項調査ノ上願書余白ニ其事實明記進達相成度此段及通牒候也

記

一 三ヶ年以上理髮營業者ニ就キ其業ヲ修得シタル事實

●理髮營業取締規則中ノ消毒藥品ノ製法、取扱法、應用及消毒方法

（大正八年三月十二日岐阜縣告諭第一號）

今般〔岐阜縣令第五號〕ヲ以テ〔理髮營業取締規則改正〕公布候處同則ニ據リ理髮ニ用ユル器具器械類ノ消毒ヲ行フヘキ消毒藥品ノ製法及取扱法等ハ左ニ示ス所ニ據リ實施スヘシ

理髮營業取締規則中ノ消毒藥品ノ製法、取扱法、應用及消毒方法

一　「フオルマリン」液（百分中一分ノ「フオルムアルデヒード」ヲ含ムモノ）

製法

日本藥局方所定ノ「フオルマリン」ハ無色澄明ノ液ニシテ竄透臭ヲ有シ其ノ百分中大約三十五分ノ「フオルムアルデヒード」ヲ含有スルモノトス

「フオルマリン」液ヲ製スルニハ「フオルマリン」一分ニ付蒸餾水又ハ清水三十四分ヲ加ヘテ稀釋スレハ理髮營業取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）ニ規定セル「フオルマリン」液ヲ得ルモノトス換言スレハ「フオルマリン」一「ポンド」（四百五十グラム以下同シ）又ハ百二十匁ニ對シ水八升五合ヲ加フルノ比ナリ

取扱法

「フオルマリン」ハ劇藥ニ屬スルヲ以テ注意シ取扱ヒ且冷暗所ニ貯藏シ密栓シ置クヘシ又「フオルマリン」液ハ光線ニテ分解シ易キモノナレハ其ノ貯藏容器ハ濃厚ニ着色シタル硝子壜ヲ用フヘシ

一　石炭酸水（七分約三十三倍）

製法

日本藥局方所定ノ石炭酸ハ無色針狀ノ結晶ニシテ特異ノ臭氣ヲ有シ石炭酸水ヲ製スルニハ開栓シテ容器ト共ニ溫湯中ニ挿入シ結晶熔融シタル後石炭酸三匁ニ溫水九十七匁ヲ徐々ニ加ヘ能ク混和シ澄明ノ液トナルマデ攪拌振盪スヘシ然ルトキハ規則所定ノ石炭酸水ヲ得ルモノトス換言スレハ石炭酸一「ポンド」ニ對シ水八升二合ヲ加フルノ比ナリ

取扱法

石炭酸ハ劇藥ニ屬スルヲ以テ取扱ニ注意スヘシ熔融スル際燈邊ニ溫メ或ハ直火上ニ致ストキハ容器ノ破碎ヲ招キ爲ニ發火スルコトアリ

一　「クレゾール」水（「クレゾール」石鹼液六分）（水九十四分、約十六倍弱）

製法

日本藥局方所定ノ「クレゾール」石鹼液ハ黃褐色澄明ノ油狀液ニシテ石炭酸ニ類スル臭氣ヲ有ス

「クレゾール」水ヲ製スルニハ「クレゾール」石鹼液六匁ニ清水九十四匁ヲ徐々ニ加ヘ澄明ノ液トナルマデ能ク攪拌振盪スヘシ然ルトキハ規則所定ノ「クレゾール」水ヲ得ルモノトス換言スレハ「クレゾール」石鹼液一「ポンド」ニ對シ水三升九合ヲ加フルノ比ナリ

一　「アルコホル」液（「アルコホル」七十分、水三十分）

製法

日本藥局方所定ノ「アルコホル」ハ無色澄明ノ流動シ易キ液ニシテ特異ノ芳香ヲ有ス「アルコホル」液ヲ製スルニハ「アルコホル」七十匁ニ清水三十匁ヲ加ヘ攪拌混和スルトキハ規則所定ノ「アルコホル」液ヲ得ルモノトス換言スレハ「アルコホル」一「ポンド」ニ對シ水一合ヲ加フルノ比ナリ

取扱法

「アルコホル」ハ極メテ點火シ易キモノナレハ火氣アル附近ニテ取扱フコトヲ避クヘシ

應用及消毒方法

前揭消毒藥ハ剃刀、剪刀、「バリカン」、櫛、「ブラツシエ」等各種理髮器具ノ消毒ニ適ス

消毒ヲ行フニハ藥液中ニ浸漬スルカ又ハ豫メ藥液ニ浸シタル布片（脫脂綿花、脫脂綿紗ノ類）ノ如キモノヲ用ヒ注意シテ器具ヲ洗拭シ後清水ヲ用ヒテ洗淨スヘシ一度用ヒタル布片ハ更新スヘシ

●理髮營業場構造設備ノ件

（大正十二年七月二十日 指示第三號）

一 理髮營業場ノ構造設備ハ左ノ標準ニ據ラシムヘシ

理髮場

イ 三坪以上トナサシムルコト

ロ 天井ヲ設ケシメ其高サハ地盤ヨリ七尺以上トナサシムルコト

ハ 地盤ハ「コンクリート」ヲ以テスルモノハ其厚サヲ二寸以上トナシ且地盤其他ヲ洗滌シタル汚水ノ場外ヘ容易ニ排除シ得ル樣構造セシムルコト

ニ 理髮營業取締規則第四條但書ノ場合ハ敷地ノ狀態若クハ氣候等ノ關係上地盤ヲ構造スルコト能ハスト認ムルモノ又ハ村落ニシテ多數ノ客ヲ取扱ハスト認ムルモノニ限ルコト

ホ 營業場壁ノ內側ハ成ルヘク地盤ヨリ一尺五寸以上ヲ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造セシムルコト

ヘ 換氣裝置ノ位置ハ成ルヘク天井ニ近キ個所ニ於テ適當ニ設ケシムルコト

ト 採光ハ營業ノ前面平方面積三分ノ一以上硝子ヲ用ヒシメ尙必要ト認ムル場合ハ適當ナル採光裝置ヲナサシムルコト

チ 手指其他ノ洗場ハ流水裝置トナシ不滲透質ノ材料ヲ以テ排水可良ナル水流場ヲ設ケシムルコト

リ 毛髮等ノ容器ハ覆蓋アルモノヲ用ヒシムルコト

結髮場

イ 一坪半以上トナサシムルコト

ロ 床ハ地盤ヨリ一尺以上床上ヨリ天井マテハ六尺五寸以上トナサシムルコト

但シ時宜ニ依リ天井ヲ設ケシムルコトヲ得

床上ニ「リノリユウム」等ヲ敷キ詰メシムルハ妨ナシ

ハ 換氣採光ノ裝置ハ理髮場ニ準セシムルコト但シ採光裝置ハ硝子ヲ用ヒサルモ妨ケナシ

ニ 手指其他ノ洗場ハ理髮場ニ準セシムルコト但シ其構造ニ齟酌ヲ加フルコトヲ妨ケス

ホ 毛髮等ノ容器ハ理髮場ノモノニ準セシムルコト

二 警察官署ハ第一號式ノ理髮從業者名簿及第二號式ノ理髮營業者名簿ヲ備ヘ整理スヘシ但シ從來ノ理髮營業者同從業者ニ關シテハ此際速ニ調査ヲ遂ケ名簿ニ登載スヘシ

三 理髮營業組合規約ヲ認可シタルトキハ其關係書類ヲ別冊トナシ第三號式ノ索引ヲ附シ整理スヘシ

四 理髮營業ニ關スル警證ニハ理髮營業取締規則第十一條規定ニ係ル各病ノ內現ニ罹病セルモノニ付必要ナル事項ヲ記載セシムルニ止ムルコト

五 結髮營業者ニシテ結髮スルニ當リ作業上困難ナル場合ニ限リ呼吸器ヲ用ヒシメサルモ妨ナシ

六 警察官署ハ理髮營業者及同從業者ヲ第四號式ニ據リ毎年一月二十四日マテニ警察部ヘ報告スヘシ

第一號式

理髮營業者名簿

本籍	縣 郡 町 村大字 地(戶)
住所	縣 郡 町 村大字 地(戶)
營業種別	理(結)髮業
氏名	
年月日生	
營業所々在地及營業所坪數	郡 町 村大字 地(戶) 坪合
營業所認可年月日	大正 年 月 日
營業場檢查證交付年月日	大正 年 月 日
摘要	

摘要欄ニハ支店出張店ノ區別及所在地竝ニ其營業場ノ坪數營業場檢查證交付年月日其他營業者及營業場ニ關スル必要事項ヲ順次ニ記載スヘシ

第二號式

理髮從業者名簿

家族同居者徒弟傭人ノ區別	屆出年月日	本籍	氏名生年月日	摘要
	大正 年 月 日	縣 郡 市 町 村 大字 地 戶	生年月日	

摘要欄ニハ健康狀態及異動其他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第三號式

理髮營業組合調査索引

組合規約認可年月日	組合名稱	組合區域摘要

第四號式

發第　號　大正　年　月　日發送警察(分)署

理髮營業者及從業者(大正　年報)

營業者									
營業種別	前年末現在營業者數	大正　年中					大正　年中異動		大正　年末現在營業者數
		認可營業者數	廢業	休業	其他	計			
理髮業									
結髮業									
計									

備考　前年末營業者數ノ欄ニハ報告スヘキ年ノ前年末ノモノヲ記載スヘシ

從業者			
營業種別	從業スル家族ノ數	從業スル同居者	從業スル弟子
			人
理髮業			
結髮業			
計			

備考　前年末營業者數ノ欄ニハ報告スヘキ年ノ前年末ノモノヲ記載スヘシ

備考　前年末營業者數ノ欄ニハ報告スヘキ年ノ前年末ノモノヲ記載スヘシ

●麻刺利亞病豫防費補助規則

（大正十一年五月二十五日 岐阜縣令第二十九號）

沿革　大正一三年五月縣令第四七號改正

第一條　市町村ニ於テ縣費ノ補助ヲ受ケ麻刺利亞病ノ豫防及治療ヲ施行セムトスルトキハ前年六月三十日迄ニ施行區域、施行方法及其ノ費用ノ概算ヲ記シ當廳ニ申請認可ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル市町村ニ對シテハ麻刺利亞病豫防及治療ニ要シタル支出額ニ對シ縣費ヨリ其ノ三分ノ一以內ヲ補助ス

特別ノ事情アルモノニ對シテハ其ノ二分ノ一迄補助スルコトアルヘシ

第三條　前條ノ規定ニ依リ支出額ニシテ過當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シ補助ス

第四條　本則第二條ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入縣費以外ノ補助金又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ

第五條　本則第二條ノ支出額ニシテ參拾圓未滿ナルトキハ補助セス

第六條　補助金ノ申請ハ事業終了後一ケ月以內トス其ノ期間內ニ申請書ヲ當廳ニ提出セサルトキハ補助セス

第七條　本則ニ依リ認可ヲ得テ豫防及治療ノ施行ヲ終リタルトキハ十五日以內ニ別記樣式ニ依リ知事ニ報告スヘシ

別記

マラリア調査及豫防成績表

何　郡（市）調査箇所名稱

調査地ノ狀況	
被檢查人員	
患者數	
被檢查人員ト患者數トノ百分率	

調査方法		
病原體種別		
豫防方法	（イ）	藥劑的豫防方法
	（ロ）	蚊族發生原地ノ處置
	（ハ）	豫防宣傳ノ狀況

備考

一、調査地ノ狀況、山間、海岸、河岸、水田地、湖沼地、市街地、工場地、鑛山地等ノ別ヲ記載スルコト

二、調査方法ハ實地檢血ニ依ルモノ又ハ實地檢血ニ依ラサルモノ若ハ醫師ノ報告ニ依ルモノ等ノ區別ヲナシ尙ホ醫師ノ報告ニ係ル場合ノミナルトキハ本表ニ準シ適宜之ヲ記載スルコト

三、病原體ノ種別ハ三日熱寄生體保有者何名（四日熱寄生體保有者何名、熱帶寄生體保有者何名）

四、豫防方法中藥劑的豫防方法トハキニーネ其ノ他藥劑ヲ以テ豫防治療セル場合ニシテ其ノ用量及投藥方法ヲ詳記スルコト

蚊族發生原地ノ處置ハ水溜、沼池淺溝又ハ開通若クハ石油ノ撒布其ノ他ヲ記載スルコト

豫防宣傳ノ狀況ハパンフレット、ポスター等ノ頒布及活動寫眞ノ映寫竝講演等ノ概況及其ノ反響等記載スルコト

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

大正十一年度ニ於ケル豫防及治療施行ニ限リ第一條ノ申請ハ大正十一年六月三十日迄ニ

●麻刺利亞病豫防費補助申請手續

（大正十一年五月二十五日 岐阜縣訓令甲第二十六號）

郡役所　市役所　町村役場

第一條　麻剌利亞病豫防費補助規則ニ依リ縣費ノ補助ヲ申請セムトスルトキハ別記第一號樣式ニ據ルヘシ

第二條　前條ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　支出明細書　（第二號樣式）

二　收入明細書　（第三號樣式）

三　正當受取人ノ領收證書

事實領收書ヲ得難キモノハ仕拂證明書

第三條　補助規則第二條第二項ノ規定ニ依ル二分ノ一マテノ補助ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ申請書ニ詳具スヘシ

第四條　補助規則第一條第六條ノ規定ニ依ル申請書ハ町村ニ在テハ所轄郡役所ヲ經由市ニ在テハ直接縣廳ニ差出スヘシ

第五條　郡市役所ニ於テ前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ速ニ調査ヲ遂ケ意見ヲ附シ期間ヲ經過セサル樣進達スヘシ

○第一號樣式

麻剌利亞病豫防費補助申請書

一金　何程　　補助申請高

但支出總額何程ニ對スル何分（又ハ事業ニ伴フ收入、補助金、寄附金何程控除殘額ノ何分）

大正何年度麻剌利亞病豫防及治療費支出額ニ對シ前記金額補助相成度此段申請候也

大正　年　月　日

市町村長　印

知事　宛

○第二號樣式

支出明細書

種別	支出額	摘要
檢査料		受檢人員何人此醫師雇人料何日分此金何程又ハ何々
治療料		患者何人ニ對スル治療延日數何日此金何程
藥品費		石油乳劑又ハ石油又ハ重油何程
雇人給料		石油乳劑注入ノ爲メ雇人延何日間此金何程
何々		
計		

○第三號樣式

收入明細書

種別	收入額	摘要
事業ニ伴フ收入金		何々何程收入金ノ區別ヲ簡明ニ記ス
補助金		補助金ノ區別
寄附金		

何々				
計				

●人體寄生蟲驅除奬勵規則

（大正十一年七月十二日 岐阜縣令第三十七號）

追加 大正一二年五月縣令第二三號、一三年五月同第四六號改正

第一條 本則ノ規定ニ依リ人體寄生蟲ヲ驅除スル市町村ニ對シ毎年度縣費豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條 人體寄生蟲ノ驅除ハ當分蛔蟲、十二指腸蟲、絲蟲ノ三種類トシ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フモノトス

一 市町村ノ一部又ハ全部ノ住民ニ對シ第一回糞便檢査ヲ行ヒ寄生蟲卵保有者ニ對シ投藥スルモノトス

二 前項投藥後約十日ヲ經テ更ニ第二回糞便檢査ヲ行ヒ尙ホ寄生蟲卵保有者ニ對シ投藥スルモノトス

三 醫師ハ寄生蟲ノ驅除ニ相當經驗ヲ有スルモノヲ選定委託スルコト

四 寄生蟲ノ驅除ハ十月ヨリ翌年三月マテノ間ニ於テ之ヲ施行スルコト

第三條 奬勵金ノ額ハ前條ニ依リ施行セシ費用ニ付當廳ニ於テ過當ト認ムル部分ヲ査定シタル額ニ對シ半額以內トス

第四條 奬勵金ノ交付ヲ受ケ寄生蟲ノ驅除ヲ施行セムトスル市町村ハ其ノ年六月三十日迄ニ左記事項ヲ具シ申請認可ヲ受クヘシ但シ第二條ニ據リ難キトキハ其ノ事由方法等ヲ詳具スヘシ

一 施行スヘキ區域、戶數、人員

一 施行ノ年月日

一 委託スヘキ醫師ノ住所、氏名

一 驅除ニ要スル費用ノ見込額

一 驅除方法

第五條 前條ニ依ル認可ヲ受ケタル時ハ所轄警察官署ニ通知スヘシ

第六條 寄生蟲ノ調査又ハ驅除施行終了シタルトキハ十五日以內ニ左記第一號樣式ニ依リ其ノ成績ヲ知事ニ報告スヘシ

第七條 奬勵金交付ノ請求ハ左記第二號樣式ニ依リ作製シ施行後三十日以內ニ當廳ニ提出スヘシ

前項期限ヲ經過スルトキハ奬勵金ヲ交付セサルコトアルヘシ

第八條 本則ニ依リ縣廳ヘ提出スル書類ハ市ハ直接町村ハ所轄郡役所ヲ經由スヘシ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年度ニ於ケル驅除施行ニ限リ第四條ノ申請ハ大正十一年八月三十一日迄トス

○第一號樣式

第一表 寄生蟲卵檢查成績表

（市町村字）

檢查人員		卵保有人員	卵保有者百分率
保有卵種類		蟲卵共有數種別	
蟲卵名	卵保有人員	總卵保有人員對百分率	蟲卵共有數
蛔蟲卵			卵保有人・員
	一種卵		檢查人員ニ對スル百分率
十二指腸蟲卵			
	二種卵		

鞭蟲卵		三種卵	
蟯蟲卵		四種卵	
縧蟲卵			
肝ヂストマ卵			
横川吸蟲卵			
東洋毛様蟲卵			

第二表　卵保有者年齢別性別表　（市町村字）

年齢別	性別	檢査人員	卵保有人員	卵非保有人員
六才以上十才以下	男			
	女			
十一才以上十五才以下	男			
	女			
十六才以上二十才以下	男			
	女			
二十一才以上二十五才以下	男			
	女			
二十六才以上三十才以下	男			
	女			
三十一才以上三十五才以下	男			
	女			
三十六才以上四十才以下	男			
	女			
四十一才以上四十五才以下	男			
	女			
四十六才以上四十才以下	男			
	女			
五十一才以上五十五才以下	男			
	女			
五十六才以上六	男			

第三表　各年齢級ニ於ケル保有卵ノ種別表　（市町村字）

年齢別	性別	保有卵人員	保有卵ノ種別								
			蛔蟲卵	十二指腸蟲卵	鞭蟲卵	蟯蟲卵	絲蟲卵	肝ヂストマ卵	横川吸蟲卵	東洋毛様蟲卵	
十才以下	女										
六十一才以上六十五才以下	男										
	女										
六十六才以上七十才以下	男										
	女										
六才以上十才以下	男										
	女										
十一才以上十五才以下	男										
	女										
十六才以上二十才以下	男										
	女										
二十一才以上二	男										

十五才以下	女										
二十六才以上三十才以下	男										
	女										
三十一才以上三十五才以下	男										
	女										
三十六才以上四十才以下	男										
	女										
四十一才以上四十五才以下	男										
	女										
四十六才以上五十才以下	男										
	女										
五十一才以上五十五才以下	男										
	女										
五十六才以上六十才以下	男										
	女										

○第一號樣式ノ二

人體寄生蟲卵保有者調査及驅除成績表

調査地ノ狀況　何　郡(市)調査箇所名稱

被調査者ノ種別

調査期間

第四表　卵保有者職業別性別表

職業	檢査人員	保卵者性別		
		男	女	計

(市町村字)

六十一才以上六十五才以下	男					
	女					
六十六才以上七十才以下	男					
	女					

調査又ハ驅除ニ要シタル人員

調査又ハ驅除ニ要シタル經費

投　藥　人　員

使用藥劑ノ名稱及用量竝投藥方法(主劑副劑ノ使用法)

其他參考トナルヘキ事項

備考

一、調査箇所トハ何町何村又ハ何學校何工場等ノ名稱ヲ謂フ

二、調査地ノ狀況ハ山間、海岸、水田地、湖沼地、市街地、工場地、鑛山地等ノ別ヲ記載スルコト

三、被調査ノ種別ハ一般住民、學校生徒、職工、坑夫、勞働者等ノ別ヲ記載スルコト

四、調査期間ハ何年何月何日ヨリ何年何月何日ト記載スルコト

五、調査又ハ驅除ニ要セシ人員ハ調査又ハ驅除ニ從事セル者ノ人員資格等ヲ記載スルコト

六、調査又ハ驅除ニ要セシ經費ハ市町村ヲ區分シ其ノ決算額ヲ決算額ナキトキハ豫算額ヲ兩者判明セサル場合ハ概算額ヲ記載スルコト

七、投藥ハ各種寄生蟲卵檢出後ナルヘク速ニ之ヲ行フコト

○第二號樣式

寄生蟲驅除奬勵金請求書

一金何　程

請求書

但大正何年何月何日ヨリ何年何月何日迄ノ間ニ於テ何市町村(又ハ何字)ニ於テ施行セシ寄生蟲驅除奬勵費別紙明細書ノ通檢査成績表添附

右金員交付相成度候也

大正 年 月 日

市町村長印

知事 宛

寄生蟲驅除明細書

一金何 程

內 第一回受診人員何百何十人一人ニ付檢査料何錢此金何程

蟲卵保有者何百人一人ニ付投藥料何拾錢此金何程

第二回受檢者何百人一人ニ付檢査料何錢此金何程

第三回蟲卵保有者何十人一人ニ付投藥料何拾錢此金何程

右ノ通ニ候也

何(市)町村長印

前書ノ事實調査候處相違無之證明候也

年 月 日

郡 長印

●衛生取締ニ關スル各種營業者等犯罪報告規程

(大正十年六月二十三日)
(指示第二號)

衛生取締ニ關スル各種營業者等犯罪報告規程左ノ通相定ム

警察部長ヨリ各警察官署長宛

一 本規程ニ依リ報告ヲ要スルモノハ醫師、齒科醫師、藥劑師、製藥者、藥種商、產婆、看護婦、阿片製造者、醫業用阿片販賣者、賣藥、毒物劇物、鍼術、灸術、按摩術、マッサージ術、柔道整復術、人工甘味質、清涼飲料水、氷雪、飲食物用器具、飲食物防腐劑、有害性著色料、牛乳、屠場、化製場各種營業者トス

二 前項ノ者犯罪行爲アリタルトキハ檢事ニ送致又ハ即決 即決ノ場合ハ言渡確定後)ト同時ニ左記樣式ニヨリ直ニ報告スヘシ

三 檢事ニ送致シタル事件ニシテ判決謄本ノ必要アルトキハ警察部ニ於テ處理スヘシ

四 警察部ニ左記樣式ノ犯罪者名簿ヲ備ヘ報告ノ都度登錄スヘシ

明治三十八年八月三日指示第二九號及明治四十五年三月二日指示第二號ハ之ヲ廢止ス

記

犯罪報告樣式

醫師、齒科醫師、藥劑師(其ノ他之ニ準ス)

一 本籍、住所、氏名、生年月日

二 資格取得年月日及番號

三 前科及行政處分ノ前例

四 罪名及犯罪ノ要項

五 檢事ニ送致又ハ即決ノ年月日(即決ニ就テハ言渡確定ノ後)

六 其ノ處爲ノ動機

例令 一定ノ報酬ヲ得ンカ爲トカ又ハ情義ノ結果ナルカ等

七 其ノ處爲ノ影響

例令 主トシテ公衆衛生上ニ及ホシタル影響ニシテ傳染病ヲ蔓延シタル爲一部落ニ傳播シタルカ如キヲ記ス

八 平素ノ行狀

九 附近同業者ノ有無多少

一〇 行政處分ヲ要スル事由及意見（行政處分ヲ要セサル意見ナルトキハ其ノ事由）

一一 其ノ他參考事項

（犯罪者名簿樣式）

犯罪者名簿	業態
	書類編綴種別
本籍 住所	氏名 生年月日
資格取得年月日 資格證番號	報告年月日 報告署名
前科及行政處分前例	
罪名及犯罪ノ要領	
判決又ハ即決年月日	刑名 刑期 金額
其ノ處爲ノ動機	
其ノ處爲ノ影響	
平素ノ行狀	
附近同業者ノ有無竝便否	
行政處分ニ關スル意見	
行政處分上ノ處置	
備考	

注意 一 各營業者每ニ日分トス

一 二回以上ニ渉ルモノハ其ノ旨備考欄ニ記入スルコト

●醫師、齒科醫師其他衞生取締營業者犯罪報告方ニ關スル件

（大正十五年二月二十二日 衞發第六二號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

醫師、齒科醫師其他衞生取締ニ關スル各種營業者ニシテ犯罪行爲アリタル場合ハ大正十年六月二十三日指示第二號ニ依リ其ノ都度報告スヘキ旨指示相成居候處從來之レカ報告洩レノ向モ有之行政處分詮議上支障ヲ來シ候ニ付爾今遺漏ナク指示事項ニ基キ至急報告セラルヘク尙處罰確定ノ場合ハ遲滯ナク其狀況報告相成度此段及通牒候也

●衞生主任調査報告方ノ件

（大正十四年九月十七日 衞發第四〇〇號通牒）

警察部長ヨリ各郡市長、警察官署長宛

標記ノ件ニ關シテハ異動ノ都度報告方通牒（照會）相成居候處報告洩ノ向モ有之候條現主任者氏名本月二十三日迄ニ至急報告方相成度此段及通牒（照會）候也

追而爾今異動ノ節ハ遲滯ナク報告相成度申添候

●運動競技團體設立計畫ニ關スル件

（大正十四年三月二十日 衛第二二一八號 警察部長ヨリ各郡市長宛）

貴郡市等ノ區域ヲ範圍トシテ運動競技其他體育等ノ名稱ヲ冠セル團體組織ノ計畫有之候ハヽ至急御調査ノ上詳細御回報相成度尚今後ニ於テモ本件該當團體設立ノ計畫有之候節ハ其都度漏メ御報告相煩度申添候

●獸畜死屍取扱規則

（明治十七年六月十六日 岐阜縣甲第五十六號）

沿革 明治二一年訓令第七號、大正一五年六月第五九號改正

第一條 牛馬豚犬猫等之死屍ハ各町村一定之場所ニ於テ燒棄若シクハ埋却スヘシ

第二條 燒場埋場ハ一町村或ハ數町村協議シ既定ノ埋火葬地竝斃牛馬捨場等ニ於テ適宜ノ地ヲ撰ヒ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

第三條 死屍ハ其飼主ニ於テ第一條ノ手續ヲ爲シ又飼主ナキモノ及其不分明ナルモノハ地主ニ於テ同條ノ手續ヲナスヘシ

第四條 所有地内ニ飼主アル獸畜ノ死屍アルヲ發見シタルトキハ其地主ニ於テ飼主ニ通知スヘシ若シ飼主隔絶地ニ在リ急速ニ處分ヲナシ得サルトキハ其町村戸長若クハ衞生委員ノ指揮ヲ受ケ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ但所有地外ト雖自己ノ家屋ニ傍ヒタル場所ニ死屍アルヲ發見シタルトキハ亦本文ニ準ス

第五條 獸骨化製者獸皮製造者又ハ其他ノ者ニ於テ皮骨ヲ剝取シタル後ハ渾テ第一條ノ手續ヲナスヘシ但斃牛馬ノ皮ヲ剝取セントスルモノハ所轄警察署（又ハ分署）ヘ届出ヘシ

第六條 前條皮骨ヲ製スルノ際其汚汁ノ飲料水中ニ浸透スル恐レアル河川溜渠池沼等ニ於テ決シテ洗滌ス可カラス

第七條 獸畜ノ死屍ヲ以テ肥料ヲ製スルトキハ人家隔絶ノ地ニ於テスヘシ

第八條 傳染病ニ罹リタル死屍ト思料スルトキハ其町村戸長ノ指揮ヲ受クヘシ

第九條 本則第一條第五條ニ違背シタル者及第三條第四條ニ違ヒ督促ヲ肯セサル者又ハ第六條第七條ニ違ヒ制止ヲ肯セサル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ照シテ刑ヲ科ス

●化製場取締規則

（明治三十八年一〇月訓令第四七號、四二年七月同第五四號改正 岐阜縣令第二十六號）

沿革

第一條 本則ニ於テ化製場ト稱スルハ獸皮、筋骨類ヲ原料トシ脂肪、膠、糏、肥料其ノ他ノ物品ヲ製造スル所ヲ云フ

第二條 化製場ヲ新設セムトスル者ハ原籍、住所、氏名（法人ニアリテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名ヲ記シ定款ヲ添付スヘシ）年齡及左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

一 化製品ノ種類及其ノ製造方法

二 化製場ヲ設置スヘキ場所ノ地種目、番號、坪數及四鄰ノ地況ヲ詳記シタル圖面

三 化製場内各建物其ノ他ノ坪數、構造仕樣書竝圖面

四 共同設置ニ係ルモノハ其ノ方法及管理者ノ氏名

五 工事落成期日

化製場ヲ移轉又ハ改造、修補シ若クハ其ノ一部ヲ變更セムトスルトキハ改造移轉ノ場合ハ前項第二號第三號第五號、修補變更ノ場合ハ其ノ部分ニ屬スル圖面竝構造仕樣書及第五號ノ事項ヲ具シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

化製品ノ種類ヲ增減シ又ハ其製造方法ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ但シ化製品ノ增減届ニハ其ノ製造方法ヲモ併記スヘシ

第三條 化製場ヲ借受又ハ讓受ケムトスル者ハ借主、讓主（法人ニアリテハ其ノ代表者）連署シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第四條 化製場ノ位置及構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ據リ第一號土地ノ距離ヲ伸縮スルコトアルヘシ

一 土地高燥ニシテ適當ノ用水ヲ有シ且鐵道、國縣道、人家、學校、病院、工場、劇場、御陵墓、公園其ノ他衆人ノ群集スヘキ場所竝池沼、井川ヲ距ル六十間以上ノ地タルコト

二 化製場ノ周圍ニハ外部ヨリ見透ササル樣六尺以上ノ土手又ハ墻塀ヲ設ケ門戸ヲ付スルコト

三 化製場内ニハ未化製品置場、既化製品置場、化製室、器具置場、撲殺室、繫留場、内容物溜、汚水溜、糞溜及尿溜、警察官吏及檢査員詰所ヲ設クルコト

四 未化製品置場、既化製品置場、化製室、器具置場、撲殺室、繫留場ハ其地盤ヲ石、煉化石、「セメント」、「コンクリート」、漆喰敲キ等ヲ以テ敷設シ未化製品置場、化製室、撲殺室ニハ適當ノ勾配ヲ付シ同一ノ材料ヲ以テ汚水溜ニ通スル溝ヲ設クルコト但シ石、煉化石ヲ用フルトキハ其ノ繼目ハ「セメント」ヲ以テ接合スルコト

五 未化製品置場、化製室、撲殺室ハ其周壁ノ上部ニ無雙窓ヲ附シ屋棟全長ニ換氣窓ヲ設ケ周壁ノ下部ニ於テ地盤ト同一ノ材料又ハ白色「ペンキ」ヲ塗布シタル板ヲ以テ四尺以上ノ腰張ヲ爲スコト

六 繫溜場ノ地盤ハ適當ノ勾配ヲ付シ地盤ト同一ノ材料ヲ以テ尿溜ニ通スル溝ヲ設クルコト

七 内容物溜、汚水溜、糞溜及尿溜ハ建物外ニ設ケ側圍竝底部トモ石、煉化石「セメント」、「コンクリート」、漆喰敲、釉藥ヲ施シタル陶器又ハ厚板ヲ以テ築造シ密蓋ヲ付スルコト

八 肥料ヲ製造スルモノハ其ノ製造用器ハ前號ニ依リ構造スルコト

九 撲殺室ハ幅二間長三間以上トシ外ニ解體場、消毒藥置場ヲ付屬シ各出入口ヲ設ケ之ニ通セシムルコト

十 竈ヲ使用スルモノハ石、煉瓦石類ヲ以テ築造シ火焚口ノ蓋ハ鐵板ヲ用ヒ釜ハ厚サ一寸以上ノ板ヲ以テ蓋ヲ付スルコト

十一 煙突ハ石、煉化石、鐵管又ハ土管ヲ以テ築造シ其ノ高サハ三十尺以上タルヘキコト

第五條 化製場ノ新設、移轉、改造、變更、修補等ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出使用認可證ヲ受クヘシ

第六條 撲殺室ニ於テハ食用ニ供セサル獸畜及畜牛結核病豫防法ニ依リ撲殺スル電症結核病牛ノ外獸類ノ撲殺ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 獸畜ノ撲殺ヲ爲サムトスルトキハ其ノ種類、撲殺ノ事由、日時ヲ前日中ニ獸醫ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出指揮ヲ受クヘシ但シ電症結核病牛ニシテ畜牛結核病檢查員ノ指揮ニ依リ撲殺スル場合ハ此限ニアラス

前項ノ届書ハ便宜最寄ノ巡查部長派出所又ハ巡查駐在所ニ差出スコトヲ得

第八條 毛、皮類、浸漬ノ用ニ供スル器具ハ釉藥ヲ施シタル陶器若ハ「ペンキ」ノ類ヲ塗布シタル堅牢ナル桶又ハ櫃ヲ用キ密蓋ヲ設クヘシ

第九條 化製場ハ常ニ清潔ニ洒掃又ハ洗滌シ内容物溜、汚水溜、糞溜、及尿溜ハ堆積又ハ充溢セシムヘカラス

第十條 主務官吏ニ於テ化製場ヲ檢查セムトスルトキハ拒ムコトヲ得ス

第十一條 化製場ハ認可ノ後ト雖左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ改造、變更、移轉、修補ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一 無能力者ニシテ法定代理人又ハ夫ノ許可若クハ保佐人ノ同意ヲ取消サレタルトキ

二 化製場ノ使用權ヲ失ヒタルトキ

三 認可ヲ經タル日ヨリ二箇月以内ニ工事ニ著手セス又ハ竣功期日ニ落成セサルトキ

四 休場六箇月以上ニ及ヒタルトキ

五 地況ノ變遷ニ依リ衛生上其ノ他公害アリト認ムルトキ

六 化製場内建物其ノ他腐朽又ハ破損シタルトキ

第十二條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ但シ第二號ノ場合ハ戸籍法ニヨル届出義務者ヨリ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

一 休場又ハ廢場シタルトキ
二 場主死亡シ又ハ住所不明トナリタルトキ
三 法定代理人、保佐人、夫又ハ其ノ氏名ニ變動アリタルトキ
四 場主ノ住所氏名（法人ニアリテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名若ハ定款）ヲ變更シタルトキ

第十三條 未成年者、禁治産者ノ願届書ニハ法定代理人ノ連署、準禁治産者、妻ノ願届書ニハ保佐人又ハ夫ノ連署ヲ要ス

第十四條 場主ハ前月中ノ化製高ヲ別表ニ據リ調製シ翌月五日限リ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第十五條 場主又ハ管理者ハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖モ其ノ責ニ任ス

第十六條 本則第一條第二項第二條第三條第五條乃至第十條第十二條第十四條ニ違反シタルトキハ三十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

本則ニ規定シタル違反行爲ヲ敎唆シ又ハ幇助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第十七條 營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ科料ノ刑ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ未成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル科料ノ刑ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十九條 本則ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

化製表（何月分）

場主 何 某

種別	撲殺頭數				斃死頭數				化製高				
	牛	馬	羊	豚	犬	牛	馬	豚	脂肪	膠	鞣	肥料	其他
化製高									斤	斤	枚	貫	
價格													

●化製場取締規則執行手續

（明治三十八年六月七日 岐阜縣訓第二七號訓令）

第一條 警察官署ニ於テ規則第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ故障及危害ノ有無等詳細調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ第四部ヘ進達スヘシ

第二條 同則第五條ノ願書ヲ受理シタルトキハ直ニ實査シ意見ヲ附シ第四部ニ進達スヘシ

第三條 主務吏員ニ於テ落成工事ノ檢査ヲ爲ストキハ衞生係巡査ヲシテ立會セシムヘシ

第四條 規則第七條ニ依リ撲殺ノ指揮ヲ爲セシトキハ巡査ヲシテ立會セシムヘシ

第五條 規則第十一條ノ處分ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ具申スヘシ

第六條 化製場ハ警察署長同分署長若ハ巡査部長又ハ衞生係巡査ニ於テ毎月一回以上視察スヘシ

第七條 傳染病流行ノ際ハ特ニ化製場ノ取締ヲ嚴重ニシ獸疫ニ罹リシ獸類ノ撲殺化製ヲ防止スルニ注意スヘシ

第八條 消毒器具竝消毒藥品ハ屠獸場取締規則取扱手續第七條ニ準シ設備セシムヘシ

●牛豚豢養ニ關スル件

（明治六年五月十五日 太政官布告第百六十三號）

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處溫暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラス近來獸類ノ傳染病流行往往人生

ノ傷害ヲ釀シ候ニ付爾今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ繫養ノ儀堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ三十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退繫養可致事但東京府下朱引内ハ縱令草野空間ノ地ト雖モ繫養不相成候尤乳汁搾取ノタメ繫養候ハ被差許候ヘ共不潔臭穢ノ儀モ有之候ヘハ詮議ノ上可令取拂事

（大正十五年六月二十四日 岐阜令第三十八號）

●狂犬病豫防ニ關スル件

狂犬病豫防ノ爲家畜傳染病豫防法第十六條ニ據リ左記區域内ニ畜犬ノ移出入ヲ停止シ且其ノ區域内ノ畜犬ハ之ヲ繫留スヘシ但シ口網ヲ附シテ牽行スルモノ又ハ狂犬病豫防液接種完了後二週間以上一ヶ年以内ニシテ官公署ノ證明アルモノハ此限ニアラス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年二月岐阜縣令第六號狂犬病豫防ニ關スル規程ハ本令發布ノ日ヨリ廢止ス

記

岐阜市
大垣市
稻葉郡
羽島郡
海津郡
不破郡
安八郡
揖斐郡（總山、坂内、藤橋村ヲ除ク）
本巢郡（根尾村ヲ除ク）

山縣郡（北山、谷合、葛原村ヲ除ク）
武儀郡（金山町、坂ノ東村、菅田町、神淵村、上之保村、富之保村、上麻生村ヲ除ク）
加茂郡（飯地、福地、湖南、佐見、東白川、黒川、蘇原、西白川、久田見村ヲ除ク）

（大正十五年七月十七日 岐阜縣令第百十五號）

●狂犬病豫防接種ニ關スル件

家畜傳染病豫防法第七條及同法施行規則第四條ニ依リ一定區域内ノ畜犬ニ對シ狂犬病豫防接種ヲ行フ旨告示シタルトキハ該區域内ノ畜犬所有者又ハ保管者ハ期間内ニ豫防接種ヲ受クヘシ但シ畜犬疾病傷痍其ノ他特別ノ事情ニ依リ接種不能ニシテ所轄警察署ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限リニ在ラス

本令ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

（大正十四年八月二十一日 衞發第三四九號通牒）

●狂犬病患者報告ニ關スル件

警察部長ヨリ各警察官署長宛

從來狂犬病發生ノ場合ハ月報トシテ翌月報告有之候處爾今發生ノ場合ハ從前通リ左記第二號樣式ニ依リ翌月十日迄ニ遲滯ナク報告相成度此段及通牒候也

（第一號樣式）

一 患者ノ住所職業氏名年齡
一 被咬傷ノ月日
一 被咬傷ノ部位局部ノ症候及ヒ當時ノ處置
一 發病月日
一 轉歸月日

ニニ3乙37
(奥付あり)

(第二號樣式)

狂犬病月報

大正十 年 月報 署名

發病地名	獸種類	牝牡ノ別及頭數	被咬傷人員	被咬傷者ノ處置	備考
市	飼猫	牝一 牡一			
何郡何町(村)	野犬	牝一 牡一	三	創部ヲ治療シ豫防接種ヲ行フ	咬傷シタル犬ヲ繫留シ置キ其經過ニ依リ狂犬病ナルコトヲ確ム或ハ直ニ撲殺シ剖檢ノ結果狂犬病ト診定ス等

38

昭和二年六月二十九日印刷
昭和二年六月三十日發行

編纂者

發行兼印刷者

印刷所

不許複製

非賣品

岐阜縣警察部

岐阜縣本巢郡北方町
株式會社啓文社
代表者 村田憲治

大阪市南區東賑町
株式會社啓文社工場

發行所
(本社) 岐阜縣本巢郡北方町 電話二六、振替東京二一五一
(工場) 大阪市南區東賑町一八 電話東四〇七番
株式會社 啓文社

(ニニ3乙37)